
仮面ライダーオーズ×真・恋姫†無双 映司とアンクと恋姫達

西森

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー オーズ×真・恋姫†無双 映司とアンクと恋姫達

【NZコード】

N6894X

【作者名】

西森

【あらすじ】

人の欲望を食らう怪人・グリード。そして仮面ライダー オーズこと火野映司と鳥糸怪人のアンク。二人が力を合わせた時、新たな物語が始まる。（オーズファンには駄作かもしれませんがあろしくお願いします）

1 「映画と謎のグリードと異世界」（前書き）

西森「どうもはじめての人ははじめて西森です。通算五作目の作品です。本来なら響鬼の話を書く予定でしたが前に書いた電王の感想の中にオーズ×恋姫でという感想がありましたので書いてみました。完結までもつてありますのでよろしくお願いします」

1 「映司と謎のグリードと異世界」

その日使う分のお金と履くパンツがあればいいという欲望のない人間・火野映司こと仮面ライダー オーズ

メダルを食らうことと1日一本アイスを食べること以外興味がほとんどの鳥系怪人のアンク

二人は元々目的は違うものの協力しあつていたが現在はある出来事があつてコンビを解消している。

これはそんな二人が再びコンビを組んで戦う物語である。

映司が住み込みで働いている多国籍料理店・クスクシ工

映司「よつと！」

パサツ！

今日もいつものように映司はパンツを天日干ししていると

映司「そういえば最近グリードが現れないな」

グリード…800年ほど前に生み出された怪人。アンクもその一人であり他に昆虫系怪人のウヴァ、猫系怪人のカザリ、水棲系怪人のメズール、重量系怪人のガメルがいる。

ところがここ最近グリードが現れていないので。

いや、現れていなければおかしい。現れたと思われる場所に行つて
みてもいないので。

それなら逃げただけだらうと思う人もいるだらうが何故か現れた場
所には激しい戦いの跡があつたのだった。

映司「これでグリードも残るはアンクだけか。大丈夫かなあいつ」

映司が心配していると

トウルルーツ！

いきなり映司の携帯が鳴り出した。

ピッ！

映司が電話に出ると

鴻上「ハロー火野君」

電話の相手は鴻上ファウンデーションの会長である鴻上光生であつ
た。

鴻上光生…メダルについて詳しい人物。何故かメダルを欲しがつて
いる。オーズが戦闘や移動に使うメダルシステムを提供した人物。
ケーキ作りが趣味

鴻上「忙しいかもしぬないがちょっとうち（会社）に来ててくれたま
え」

映司「はいっ！わかりました」

鴻上ファウンデーション

鴻上「よく来たね火野君。まあ座りたまえ」

映司「俺に何か用ですか？」

スツ

と聞きながらも座る映司

鴻上「本来なら後藤君にやつてもらうのだが彼は忙しいので直接君に来てもらつことにしたんだよ。里中くん、例のものを」

里中「はい会長」

里中エリカ：鴻上の秘書であり後藤の上司。仕事には時間主義な性格だが実力は高い。鴻上の作るケーキを食べさせられているが本人は辛党

スツ

そして里中は映司にケーキの入った箱とトランクを渡した。

映司「これ何ですか？」

映司が聞くと

鴻上「見ての通りケーキとトランクだよ。中身は後で見たまえ、今

日が君にとつて新たな出会いを迎えるかも知れないからね

映司「はあ？」

この時、映司は鴻上が何をいっているのか全然わからなかつた。

そんなときー

ピギーツー・ピギーツー！

タカカンドロイドがバツタカンドロイドを連れて現れた。

映司「何でこんなとこー？」

バツ！　スタッ！

そしてタカカンドロイドがバツタカンドロイドを床に落とすとバツタカンドロイドが起動した。

後藤「こちら後藤です！見知らぬグリードがアンクと戦っています！俺も戦いましたが敗れてしましました！」

後藤慎太郎：仮面ライダーバースの装着者。眞面目な性格

話を聞いた映司は

映司「アンクだつて！？今すぐいかなきや！それじゃあ俺はこれで失礼します！」

ダダツ！

映司は鴻上からもらったケーキとトランクを持つて走り出した。

映司が去った後

里中「会長、火野さんに話さなくてよかつたんですか？」

鴻上「里中くん、それでは面白くないだろう。今日が火野君にとつてハッピーバースデイ！になるかもしれないのだから」

何かをたくらんでいる鴻上であった。

その頃、映司は

映司「えへっと、自販機どじだ？…あつた！」

映司は黒い自販機のよつな物を見つけると

チャリンッ！ ポチッ！

ポケットからメダルを入れて真ん中のボタンを押した。すると…

ガチャガチャンッ！

黒い自販機はいきなりバイクに変形した。

ライドベンダー…メダルを入れることによりバイクになつたりカンドロイドを出すことができる。ただしどちらもメダルが必要

ブォンッ！ブォンッ…！

映司はバイクに乗り込んで先を急いだ。

映司「待つてろよアンク！」

その頃、現場では

ドドーンッ！

アンク「ちつ！メダルの気配を追つて来てみればとんでもないやつ
だつたとはな！？」

バササツ！

鳥系怪人であるアンク（完全体）がグリードから逃げていた。

アンク…鳥系怪人。映司と共に戦い、主にメダルを渡すサポートを
していたが現在はコンビを解消している。現在アンクのコアメダル
は6枚

グリードの体の中板はコアメダルで形成されており9枚揃えた場合
完全体となる。

そのアンクが逃げている相手とは…

バーンッ！！

見たこともないグリードで鬼の一本角を頭から生やし、体は山伏の
ような鎧を身に纏い、足は獣の足で尻尾が9本ある黒いグリードだ
った。

？「他の奴らはすべて倒した！残るはアンク、お前だけだ…おとなしくコアメダルをよこせ！」

アンク「そうか。カザリ達を殺つたのはお前だな。誰がお前なんかにコアメダルを渡すかよ！」

ドドーンッ！

アンクは手から火炎弾を放つが

？「フンッ！」

バサッ！ シュンッ！

謎のグリードが手を振るつた瞬間、火炎弾が打ち消された。

アンク「ちつ…この化け物め！」

バサッ！

敵わないと感じたアンクは空を飛んで逃げよつとするが

？「逃がしはしない！」

スッ！

謎のグリードが手をアンクの方に向けると

ギュイイーンッ！！

アンク「うわっ！？」

謎のグリードの手からまるで電気掃除機のような吸引力がアンクの体を吸い込もうとしていく。

ジャラジャラッ！

アンク「うおっ！？」

謎のグリードの吸引力はアンクの体を形成するセルメダルはおろかコアメダルをも吸い込んでいく！

？「これで終わりだアンク！」

謎のグリードがアンクに止めをさそうとした時

ブロローッ！

？「なにっ！？」

ドカッ！！

？「ぐおっ！？」

いきなり現れたライドベンダーが謎のグリードにぶつかり

アンク「がはっ！？」

これによりアンクの吸引は阻止されたもののアンクの残りコアメダ

ルは2枚にまで減つてしまい

シユンツ！

アンクの体は完全体から人型である泉信吾の体へと変わった。

アンク「ちつ！コアメダルを大量に奪われちまたな」

そんなアンクの元に

ブロローッ！ キキイッ！

映司「アンク大丈夫か！？」

ライドベンダーから降りた映司が現れた。

アンク「映司、何で来やがった！」

アンクが言うと

映司「何でつて、お前を見捨てられるわけないだろ。だつてお前は
⋮」

映司が最後まで言おうとすると

ムクッ！

？「おのれ！」

謎のグリードが立ち上がった。

映司「アンク！？何だよあいつ！？」

アンク「知るか！メダルの気配を探つていたらあいつに出くわしたんだよ！それより映司、あいつはカザリ達のメダルを持つてるぜ！」

「

映司「えつ！？じゃあカザリ達がいなくなつたのってあいつの仕業！？」

驚く映司であつた。何故ならカザリ達だつて弱くはないはずなのにそれを倒すこいつは一体！？

？「お前から多数のメダルを感じる。俺によこせ！」

謎のグリードは映司の持つメダルホルダーを狙つていた。

映司「悪いけどこれをやるわけにはいかないよ！」

パカッ！

そして映司がメダルホルダーからメダルを取り出そうとすると

？「今だ！」

スツ！ ギュイイーンッ！

パツ！

映司「あつー？」

映司が油断した隙にメダルホールダー（多数のメダル入り）は謎のグリードに奪われてしまった。

？「ありがとよ！」

映司「しまった！？」

アンク「お前バカか！　みすみす取られやがって！」

アンクが映司を責めていると

？「これでこの世界に用はなくなつた。そらばだ！」

ガガガガッ…！

謎のグリードは空間に穴を開けてどこかに行こうとする。

アンク「待てつ！俺のメダル返しやがれ！」

映司「待てつてアンク！？」

謎のグリードからメダルを取り返すため追いかけるアンクとアンクを追いかける映司

ガシッ！　ガシッ！

そしてアンクが謎のグリードの手をつかみ、映司がアンクをつかんだ瞬間

キュインツ！

アンク「なつ！？」

映司「うわっ！？」

二人は空間に吸い込まれてしまった。

しばらくして

映司「うへん…」

映司が目を覚ますと

映司「あればライドベンダー（バイクモード）がありそして

近くにはライドベンダー（バイクモード）がありそして

映司「アンク！？」

アンク「う…」

アンクまで近くに倒れていた。

アンク「くそつ…」「アメダルだけでなくセルメダルまで奪われたから回復が遅いぜ。おい映司、ここどこだ？」

映司「何言つてんだよお前、ここは街角…」

だがあらためて映司が回りを見てみると

ガラーンツ！

回りは荒野になっていた。

映司「ハハハ？」

アンク「知るか！」

再びもめ出す二人。だが、悪いときに悪いことは重なるものである。

ザツ！

？「おい、そこのお前ら！」

映司「えつ？」

ぐるつ

声に反応した映司が声のした方を向いてみると

バーンツ！

そこには黄色いバンダナをした三人組がいた。

アニキ「妙な格好しやがって！」

チビ「金田のものを置いてきなーそつすりや命だけは助けてやるぜ！」

デク「だな～！」

ジャキンッ！

三人組が脅すために剣を抜くと

映司「この剣よくできていますね。まるで本物みたいだ！」

剣に興味を持つ映司。それを見た三人組は

アニキ「バカ野郎！ 本物に決まってるだろうが！」

チビ「痛い目みたくなけりや さつさと金田のものをよこしな！」

デク「だな～！」

ジャキンッ！

三人組は更に映司に剣を突きつける。

映司「もしかして強盗！？」

アンク「今頃気づいたのかよ！ 鈍いのは相変わらずだな」

アニキ「さつさと金田のものをよこせー！」

スッ！

更に映司に剣を突きつける三人組

映司「わかりました渡しますから許してください！？」

スッ！

そして映司がポケットから出したものは

パンツ！

一枚のパンツだった。

映司「俺にとつては金田のものです！だから許して…」

もちろんパンツなんかで三人組が許すはずがなく

三人組『ふざけるなーつー！』

逆に怒らせてしまった。

映司「ひいっ！？アンクどうしよう！？」

アンク「知るか！」

開始早々、危機に陥る一人であった。

その頃、鴻上ファンデーションでは

鴻上「そろそろ火野君達はあつちについた頃かな？ 出会いは新たな誕生日となる。頼んだよ火野君、私が渡した物を十分に活用したまえ！」

と言しながら今日もケーキを作る鴻上であった。

1 「映司と謎のグリードと異世界」（後書き）

SCOUNTS MEDALS

現在、映司とアンクの持つメダルは

タ力 2

2 「闇羽と御遣いと『ハンヒ復活』（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、アンクを除くグリード達が突然喪失

二つ、アンクが謎のグリードに襲われる

三つ、メダルを奪った謎のグリードを追いかけた映司とアンクが異世界に飛ばされいきなり賊に襲われる

2 「闘羽と御遣いとコアヒ復活」

アーチキ「ぶつ殺してやるぜ！」

ボンツ！！

アーチキの振るつた剣が映司に降り下ろされる。

映司「ひつー？」

サツ！

それをなんとか紙一重で避ける映司。

映司「アンク、お前も見てないで何とかしろよー！」

映司はアンクに言つが

アンク「ふむけるなー何でこの俺がお前を助けなくちゃならないんだ！」

以前は「コンビを組んでいた」の一人はわけあって今は別離中なのだ。

アンク「（それに今、俺のメダルは2枚しかないからな）」

謎のグリードにメダルを奪われてしまいコアメダルが2枚しかない
今のアンクは火炎弾を撃つことも、空を飛ぶこともできなくなり、
左腕一本しか変身できないのだった。

チビ「この金髪野郎！何余所見してんだよ！」

ブォンツ！！

アンクに田をつけたチビが剣を振るつてへる。

アンク「ちつー！」

スツ

アンクは構えようとするが間に合わない！そんなときー。

映司「アンク、危ない！」

ドンッ！　ズバッ！

映司「いたつ！」

映司がアンクを突き飛ばしてアンクを庇つた映司が逆に斬られてしまつた。

アンク「お前、何バカなことしてやがるー！」

アンクが映司に対して感謝ビンタが激怒すると

映司「たとえ今は分かれていても一時はコンビを組んだお前を見捨てるわけないだろつ。だつてお前は俺にとつて…」

映司が最後まで言おうとする

アーニキ「一人仲良くなればりな！」

ブォンツ！！

アーニキの剣が一人に降り下ろされる。

まだ2話目なのにもう完結なの！？と思われたその時

？「そこの賊よ、待てい！」

何処からか声が聞こえてきた。

アーニキ「誰の声だ？」

きょひきょひ

賊達が辺りを探していると

？「その者に手を出すことは私が許さんぞ！」

ダダダッ！

誰かが映司の方に向かって走ってきた。

映司「あれは女の子！？来ちゃ危ないよ！」

映司は向かってくる人が女の子だとわかり警告するが

アーニキ「女が男に歯向かつなんていい度胸してんじゃねえか！」

チビ「アーチキ、美人だつたら捕まえて今晚のおかずにしましょつや

」

「デク「だな」

賊達は相手が女の子でも手加減する気は全くない。

アーチキ「野郎共！いくぜ！」

チビ・デク『おおーつ！』

『ドドドオーツ！』

賊達は一斉に声を出しながら女の子の方に向かっていく。

映司「ああ、もう見てられない！」

パチツ

さすがに女の子が男にやられのを見たくない映司は目を閉じる。

ドカツー・ドカカツ！

映司「（ああ、俺達を助けに来たばかりに女の子が痛い目だ…）

」

聞こえてくる攻撃される音に映司は驚く。

だがちらつと目を少し開けてみてみると

賊達『助けてくれ〜！』

映司「えつ！？」

ボコボコにされていたのは賊達であった。

一方女子の方は

？「口ほどにもない奴らめ！とつとこの場から立ち去れ！」

ドンッ！

三人の賊相手に全くの無傷だった。そして女子が手に持っていた偃月刀が地面に落ちて鳴り響くと

賊達『失礼しましたーっ！』

ビュンッ！

賊達はあつという間に走り去っていった。

映司「なんだつたのあいつら！？」

アンク「俺が知るか！」

二人が驚いている

スッ

女子が映司達に近づいてきた。

そして…

? 「お初にお目にかかります。天の御遣い様」

ペコリつ

女の子はこきなり映司とアンクに頭を下げた。

映司「えつー?」

アンク「つていうよりお前誰だ?」

アンクが聞くと

関羽「申し遅れました。我が名は姓は関、名は羽、字は雲長でござります」

読みづらいがつなげると関羽雲長である。

関羽が言うと

映司「関羽つてもしかしてあの三國志の!?」

関羽「失礼ですが三國志とは一体?」

映司は多少なりとも三國志の知識があった。それによると関羽は髭面の男として有名な人物。だが目の前にいる関羽はそれとは正反対のかわいい女の子である。

映司「（ああっ！たまたま名前が一緒なだけか）助けてくれてあり
がとう俺は火野映司。こいつちはアンク」

とつあえず映司はややこじのドリ國志の関羽と同じ名前とこいつ
とでまとめることにした。

関羽「はじめましては早速なのですが…」

関羽が最後まで言おうとする

？「愛紗ーっ！」

ドーディオーッ…！

何処からか声が聞こえてきて遙か彼方から誰かが土煙を舞いあげて
こちらに向かってきていた。

しばらくすると

？「愛紗ーっ！」

ドーンジー

赤髪の小さな女の子が関羽に抱き（タックル？）ついてきた。

関羽「お前は鈴々ー？」

飛ばされた関羽はぶつかってきた女の子をよく見て確かめる。

鈴々「一人で先にいくなんてずるいのだ！鈴々も天の御遣いに会いたいのだ！」

鈴々といふ女の子が関羽に言つと

関羽「何を言つているのだ！だいたいお前には姉上の護衛を頼んだであろう！」

鈴々「桃香お姉ちゃんなら鈴々のすぐ隣に…」

くるり

鈴々といふ女の子はすぐ隣を見るが

ぽつん

当然の！」とへ誰もいるはずがない。

関羽「鈴々！姉上を置いて勝手に来たな！」

鈴々「桃香お姉ちゃんが遅いのがいけないのだ！」

鈴々といふ女の子が言つと

映司「まあまあ二人とも、喧嘩はダメだよ！」

映司が止めに入る。

鈴々「にやつ？お兄ちゃんは誰なのだ？」

関羽「鈴々、この方が占いで言われていた天の御遣い様だ」

関羽が言つと

鈴々「にゃにゃーつ！？御遣いのお兄ちゃんよろしくなのだ！鈴々は張飛翼徳なのだ！」

映司「（今度は張飛！？変わった名前が多いな）よろしく俺は火野映司。んでこつちがアンク」

鈴々「アンコ？」

アンク「その呼び方で言つたな！ どつかの奴を思い出しまつぜー。」

「

アンクは一度トヽにてアンコと呼ばれたことがあるのだ。

みんなが話しあつていると

？「愛紗ちゃんーん！ 鈴々ちゃんーん！」

遙か彼方からまた誰かがやつて來た。

映司「今日はよく人に会つ日だな！？」

しばらくして声の主である女の子がやつて來た。

？「ハアハア…ひどいよ鈴々ちゃん、私を置いて先にいくなんて

声の主である桃色の髪の女の子が息を切らしながら言つと

鈴々「ごめんなのだ桃香お姉ちゃん」

すぐに謝る鈴々といふ女の子

桃香「といひで愛紗ちゃん！天の御遣いさんは見つかった？」

桃香といふ女の子が聞くと

関羽「姉上、あちらにおられるお方が天の御遣い様です」

スツ

関羽は映司とアンクを指差した。

桃香「はじめまして御遣いさん！私は劉備玄徳ですよりしくね」

ぎゅつ！

桃香といふ女の子が映司の手を握ると

映司「…」

いきなりのことに驚く映司だった。

アンク「それよりお前ら」これがどこだか知ってるなら教えろ

アンクが乱暴口調で聞くと

関羽「この場所ですか？ここは幽州の五台山の麓ですがそれが何か

?

関羽が言つと

映司「えつー?」J-1つて夢見町(オーズの舞台)じゃないの!?

関羽一夢見町？何ですかそれは？

映司「夢見町じゃないのー?あれ? そういえば天の御遣いつてなんの?」

桃香「今度は私が話すよ。天の御遣いつてのはね」

桃香という女の子の話によると管轄といつ占い師が

『流星が落ちた地に天の御遣い』という乱世を静めるものあり』

「桃香、二三の言ひてたけれども

桃香といふ女の子が言ひ終えると

アンク「フンッ！ あてが外れたようだな。
なんて奴じゃないぞ」
俺達はそんな乱世を救う

アンクが言うと

桃香「（ガーンッ！？）」

ものすゞいショックを受ける桃香

映司「アンク！たとえそうでもはつをいつ言つなよ！」

アンク「実際事実だる。メダル集めが目的の俺とパンツしかいらぬ
いお前に何ができる？」

映司「それはそうだけど……！？」

ホントはもう一つできることがあるのだが今はそれができないのだ
った。

映司が言つと

桃香「ああ、天の御遣いさんがいれば私の夢を手伝ってくれると思
つたのに……」

映司「どうこういひ」と？

映司が聞くと

桃香「私の夢はね、戦いがなくなつてみんなが笑顔で過ぐせる世界
を作りたいの！」

アンク「フンッ……そんな世界がつくれるわけがな……」

映司「余計なこと言つくなよ！いい夢だね応援するよ！」

桃香「ありがと！」

桃香が言つと

？「その欲望を解放しろ」

バンッ！

映司「お前は！？」

いつの間にか謎のグリードが桃香の後ろに立っていた。

桃香「えつ！？誰なの！？」

？「欲望を解放しろ」

シユツ！

そして謎のグリードが桃香の額にセルメダルを投げると

ウインッ！

桃香の額からメダル挿入口が出現し、

カチャーンッ！

挿入口にセルメダルが入った。すると…

ズズズッ！

桃香の後ろから黒のヤミーが生まれだした。

ヤミー：人間の欲望から生まれた怪物。欲望を叶えて体内のセルメダルを増やす。グリードによつて様々な種類がいる。

そして桃香から生まれた黒のヤミーに

？「お前の欲望はなんだ？」

謎のグリードが質問すると

黒ヤミー「俺の欲望は…世界を平和にすること。そのためには…」

ピキッキッ！

ヤミーが言つ度に体がひび割れていき

バキーンッ！

黒鬼ヤミー「人間の抹殺だ！」

黒の体から黒鬼ヤミーが生まれた。

アンク「ああ、いうタイプは珍しいな」

映司「解析してる場合かよー。ヤミー倒さないと」

映司はヤミーを倒すべく飛び出そうとするが

アンク「待て映司、オーズになれないお前に何ができる？」

映司「で…でも」

悩む映司。だがそんなとき

関羽「貴様！姉上から離れる！」

鈴々「お姉ちゃんから離れるのだー！」

ボンツ！！

関羽と鈴々が黒鬼ヤミーに攻撃を仕掛ける。だが…

ガシツ！！

黒鬼ヤミー「そんな攻撃効かない。平和のためお前らを殺す！」

関羽「くつー？」

鈴々「はなせなのだー！」

二人は武器を捕まれているためすぐ避けることができない。

映司「ああじうじょじうー？メダルさえあれば」

己の無力さにおどおどする映司

アンク「フンツー！お前がメダルホルダーを奪われるから…」

アンクが最後まで言おうとする

映司「ああーつー？思い出した！」

ガサガサツ！ バツ！

映司は懐を探つて取り出したのは

バーンッ！

一枚のパンツだった。

アンク「こんなときにパンツ出してる場合かー！」

アンクが突っ込むと

映司「違つて！いつかまたお前と組んだときのために…」

ガササツ！

パンツを探つて何かを探す映司。そして取り出したのは

チャリンッ！

映司「この2枚だけパンツの中に入れておいたんだ！」

パンツの中にはトライアッタメダルが入つていた。

アンク「お前、コアメダルをパンツに入れやがつて！」

アンクが怒りうつとすると

映司「そんなことよりアンク、また俺とコンビを組んでくれー！お前の力が必要なんだ。俺はお前にメダルをやるからお前は俺をサポートしてくれー！」

映司が言つと

アンク「仕方ない！」

シユツ！

アンクは自分の体の一部であるタカメダルを一枚取り出すと

アンク「絶対取られるなよ！」

シユツ！

メダルを映司に渡した。

パシツ！

うまくメダルを受け取った映司は

力チャ力チャンツ！

オーズの変身に必要なオーズドライバーに三枚のメダルをセットする。

そして 力チャツ！ キンキンキンツ！

オーズドライバーを右ななめ上にしてオースキャナーにメダルを当てて

映司「変身！」

映司が叫ぶと

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

シユシユンッ！

映司の周りをメダルが映司を守るように回り

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

（音が違うといつもミミは控えてください。）

ジャンッ！

映司の体は仮面ライダー オーズ・タトバコンボへと変身した。

2 「関羽と御遣いと『ソシヒ復活』（後書き）

（COUNTS MEDAL）

現在、オーズの持つメダル

タカ	2
トラ	1
バッタ	1

黒ヤミーの特徴

どんな欲望にも係わらず破壊や殺人を目的とする。
体内のセルメダルで屑ヤミーを生み出せる。

オーズの専用道具については後に説明しますが、今すぐ知りたい人はオーズで検索するかDVDを見てください。

3 「オーズとパンシとケーキ」（前書き）

前回の三つの出来事

- 一つ、賊に襲われそうになつた映司とアンクを関羽が救出
- 二つ、桃香の欲望から黒鬼ヤミーが出現
- 三つ、映司とアンクが再びコハビを組んでオーズに変身

3 「オーズとパンツとケーキ」

黒鬼ヤミーを倒すため再び共闘してコンビを組むことにした映司と
アンク

そしてアンクからメダルを受け取った映司は

力チャカチャンッ！

メダルをオーズドライバーにセットして

力チャンッ！

ドライバーを右ななめ上に傾け

キンキンキンッ！

腰にあるオースキヤナーでメダルを交差させると

映司「変身！」

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

映司の周りをメダルが守るように回り、タカ・トラ・バッタのマーケが映司の前に集まると

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

映司は仮面ライダー オーズへと変身した。

オーズ「よし！いくぜ」

ダダッ！

オーズに変身した映司は黒鬼ヤミーに向かっていく

アンク「フンッ…せつせつやつつけてメダルを稼げ」

その頃

関羽「くつ…？」

鈴々「離すのだ！」

武器を黒鬼ヤミーに捕まれて動けない二人

どう考へても武器から手を離せば逃げられるのだが愛する武器を一人は離すことはなかつた。

黒鬼ヤミー「世の中を平和にするには…人類が滅びてしまつ方がいい！」

むちやくちやな理由である。

黒鬼ヤミー「お前達もくたばれ！」

スッ

黒鬼ヤミーが一人を倒そつと手を向ける。

だが、その時！

オーズ「そりやつ！」

バツ！

オーズが正面から向かってきて

ドカツ！！

黒鬼ヤミー「ぐほつ！？」

黒鬼ヤミーを蹴り出した。

ズザザーッ！

オーズの蹴りに飛ばされて黒鬼ヤミーはつかんでいた武器も離して
しまう。

オーズ「二人とも大丈夫！？」

オーズが関羽と鈴々に近寄ると

関羽「大丈夫ですが…」

鈴々「あなたは誰なのだ？」

いきなり現れたオーブに驚く一人

オーブ「俺は火野映司だよ そしてこの姿は仮面ライダー オーブ!
正義の味方さ！」

声で正体が映司だと確信した二人は

関羽「かめんらいだー？」

鈴々「何だかわからないけどカツ「いいのだ！」

それぞれで反応するのであった。

その頃

?「まさかまだコアメダルがあったとはな！？」黒鬼ヤミーよ、そいつからコアメダルを奪い取れ！

黒鬼ヤミー「わかった！」

バツ！

謎のグリードに命令されてオーブに襲いかかる黒鬼ヤミー

オーブ「おつといけない！」

バツ！

黒鬼ヤミーが向かってくるのに気付いたオーブはすぐさま構える。

黒鬼ヤミー「おらつー！」

オーズ「ハツ！」

ガシツ！

取つ組み合いになる二人

黒鬼ヤミー「そりやーつー！」

ブォンツ！！

オーズ「うわつー!?」

だが力は黒鬼ヤミーの方が上のようオーズは投げ飛ばされてしまう。

オーズ「ひつー!?」

バンツ！

しかも飛ばされた先には大岩がありこのままではオーズはぶつかってしまう。

そんなとき！

ジャキンツ！！

オーズは両腕のトラームからトラクローを開くと

オーズ「ハツ！」

ズバツ！ ドッカーンッ！

オーズは大石をトラクローで切り裂いた。

黒鬼ヤミー「おのれー」つなれば…」

ゴガガッ…！

黒鬼ヤミーが力み出すと

ヌバアツ！

黒鬼ヤミーからアラのような怪物が生まれた。

アンク「あいつ…？ 肩ヤミーまで出せるのか…？」

肩ヤミー…オーズの世界における戦闘員的存在。欠けたセルメダルで作ることが可能。戦闘力は低く、今のアンクですらも倒せる。（本編ではウヴァアが使用）

黒鬼ヤミー「いくがよい…」

黒鬼ヤミーが肩ヤミーに命令すると

肩ヤミー達『ギギギ…』

肩ヤミー達はオーズ目掛けて襲ってきた。

オーズ「くつ！？数が多すぎるとよ！？」

他のメダルがあれば何とかなるのだがあいにく今は三枚しかない。

オーズにピンチが迫ったその時！

ズバッ！

肩ヤミー「ギツ！？」

関羽「…」

肩ヤミーは関羽に斬られた。

関羽「オーズ殿、微力ながら助太刀いたします！」

鈴々「鈴々も手助けするのだ！」

オーズ「二人ともありがとうございました。じゃあ肩ヤミーの方はお願ひね！俺はあっちの…」

オーズは黒鬼ヤミーを見ると

オーズ「黒鬼ヤミーをやるからさー！」

ジャキンッ！

オーズは腰からオーズの世界の剣であるメダジャリバーを取り出した。

オーズ「うおーつ！」

ダダツ！

メダジヤリバーを構えながら黒鬼ヤミーに突つ込むオーズ！

屑ヤミー「ギギギッ…」

しかしそれをみすみす見逃す屑ヤミー達ではない！屑ヤミー達はオーズの行く手を阻もうと動くが

関羽「お前達の相手は我々だ！」

鈴々「鈴々がやつつけてやるのだ！」

行く手を関羽と鈴々に阻まれた。

そしてオーズは

オーズ「せいやつーせいやつー！」

ズババツ！

メダジヤリバーで黒鬼ヤミーを切りつけるが

黒鬼ヤミー「そんな攻撃はきかん！」

メダジヤリバーはセルメダルをセットすることで威力を發揮する。今のメダジヤリバーにはセルメダルがセットされていないのでたいした威力ではないのだ。

オーズ「アンク！セルメダル貸してくれ！」

オーズはアンクにセルメダルを出すよう言つが

アンク「出せるかバカが！」

今のアンクは体を構成するセルメダルの数が少ないので出さなかつた。

アンク「遊んでないでさつさと決めちまえ！」

アンクが言つと

オーズ「別に遊んでいる訳じゃないのに！仕方がない！」

スッ

オーズは腰からオースキヤナーを取り出すと

キンキンキンッ！

オーズドライバーにスキャンさせ

ドライバー『スキニングチャージ！』

ドライバーから音が出た瞬間

バチバチッ！

オーズの脚がバッタ脚に変わり

オーズ「ハツ！」

ビヨンッ！

驚異的なジャンプ力で高く跳ぶと

パパパツ！

黒鬼ヤミーまで通る道に赤・黄・緑のリングが出現し、

スススッ！

オーズがリングの道を通ると

オーズ「せいやーつ！」

キイーンッ！

オーズが必殺のタトバキックを繰り出した。

（迫力がない！、全然違う！と思う人もいると思いますがそれは西森の文才不足が原因です）

黒鬼ヤミー「なつー？」

スッ

そしてオーズは

ドッカーンッ！！

タトバキックを黒鬼ヤミーにぶち当てる。

黒鬼ヤミー「ぐおーつ！？」

キーンンッ！ドッカーンッ！！

ぶつ飛ばされた黒鬼ヤミーは爆発した。

その衝撃で

ジャララーッ！

大量のセルメダルが辺りにばらまかれた。

アンク「セルメダルは俺がいただくぜ！」

シュシュシュッ！

空から落ちてくるセルメダルを拾いまくるアンク

？「ちつーまさかこの世界にオーブが現れるとは予定外だったな。
オーブよ、また会おう！」

スッ

そして謎のグリード「はどうかへと消えていった。

パツ！

桃香「あれっ！？私どうしてたの？」

先程まで動いていなかつた桃香が動き出した。

“どうやら謎のグリードのヤミーを出した人間は動きが止まるようだ。

シユンツ！

そしてオーズの変身が解けて映司に戻ると

関羽「やはり御遣い様でしたか！？」

鈴々「お兄ちゃんす」いのだ！」

桃香「何があつたの！？」

驚かれる映司であった。

しばらくして

桃香「私から怪物が出たなんて！？」

平和を望む自分が破壊活動をする怪物が出たことにショックを受け
る桃香だった。

映司「落ち込むことないよ！誰にだつて欲はあるんだからさ

アンク「まあ平和にしようなんて欲は珍しいがな」

欲望はヤミーを産み出すもの、～したいといつのも立派な欲なのだ。

桃香「でも私から怪物が出たなんてショックです」

しづしづ

泣き出す桃香に

スツ！

映司は一枚の布を渡す。

映司「泣かないでよ。俺に手伝えることがあるなら何だつてするよ。何だか訳がわからないけど天の御遣いにだつてなるからさ」

映司が言つと

アンク「おい待て映司！なに勝手に決めてやがる！俺達は奪われたメダルをあのグリードから奪い返すだけでいいんだ！天の御遣いなんかに構つていられるか！」

アンクが怒鳴ると

映司「アンク、俺達はこの世界について何も知らないんだぜ。ここは協力しても彼女達にこの世界についてもらつた方がいいだろ」

アンク「…確かにそうだな（この娘達にはまだまだ利用できるからな。せいぜいメダル集めに利用させてもらつとするか）」

アンクは何かを企んでいた。

そして

スツ

桃香は映司から布を受けとると

桃香「ありがとうございます御遺い様」

ふきふきつ

涙を布で拭くのだが

桃香「んつ？」

布がおかしいと感じた桃香が布を広げてみると

バサツ

桃香「これって／／／」

映司「あつー？」

映司はハンカチを渡したつもりだつたが

渡したものは想像がつく人もいると思うが…

ジャーンツー！

パンツだった。

映司「「めんなさー！」」

サッ！

映司は桃香からパンツを奪い取ると

ズンシ！ デゴシ！

うつかり手が当たつてライドベンダーを倒してしまいました

パカッ！

その拍子にライドベンダーの荷物入れが開いてしまった。

そしてその中には

映司「えつー？」

ぐぢやぐぢやになつた鴻上会長のケーキが入つていていたのだが

ケーキには

『HELO 恋姫世界』

と書かれていた。

アンク「えつーあの野郎何か知つてやがつたのか」

その頃、鴻上フュンティーシヨンでは

鴻上「それではあとは頼むよ貂蝉くん

? 「んもう光正ちゃんつたら 貂蝉ちゃんつて呼んでくれなきゃ嫌
よん 」

「バツ！」

その先が出る前にバッタカンンドロイドのスイッチを切る鴻上だった。

鴻上「さて新たなる外史の始まりを祝おうじゃないか！」

3 「オーズとパンジとケーキ」（後書き）

ヤミーファイル

黒鬼ヤミー

桃香の『世の中を平和にする』という欲望（願い）から生まれたヤミー。力が強い

4 「真名と頑固と存在感」

映司「そういえば前から気になっていたんだけじゃ」

関羽「どうされました御遣い様？」

映司「その御遣い様つてやめてくれない。あのさ、張飛ちゃんの名前を関羽さんは違う名前で呼んでいたけど何で？」

映司はわざわざから張飛を鈴々と呼ぶ関羽が気になっていた。

関羽「説明が遅れましたね。私が呼んだのは真名まなといつものです。真名とは神聖なる名でたとえ知っていても許可をもらわなければいけません。もし言えれば首を切られても文句を言えません」

それを聞いてぞくつ…?と驚く映司だった。

アンク「映司、首の皮一枚で繋がつたな。もし言つてたら切られてたぞ」

関羽「そんな!?御遣い様を切つたりなぞしません!では話しておきましょう。私の真名は愛紗です」

鈴々「鈴々の真名は鈴々なのだ」

桃香「私の真名は桃香だよ」

みんなから真名を授けられた映司は

映司「ちょっと待つてよ！？そんな大事なものを俺に授けていいの！？もしかしたら君達を殺すかもしない…」

愛紗「それはありえません！人の目を見ればどのよつな人か一目でわかります。御遣い様は…」

映司「ダメだよ！御遣い様なんて呼ばないでってばー俺のことは普通に映司と火野って呼んでいいからさ」

だが

愛紗「そつぱいきません！」

桃香「御遣い様を名前で呼べないよ」

桃香達も中々認めてくれないので

映司「わかつた！君達が俺を名前で呼ばないのなら俺も君達を真名で呼ばない！」

愛紗「なつ！？」

普通それはおかしいのだ。何故なら真名を授かりながら真名を言わないなんて侮辱に等しいのだから

アンク「あきらめなお前ら、映司はこうなつたり何いつても聞かな
いぜ」

映司をよく知るアンクだから分かることだ。

愛紗「わかりました。そちらがその気ならぜひやりもやりますよ御遣い様」

愛紗もなかなか頑固だつたりする。

映司「それよりさ、俺達はどうに向かってるの？」

映司が桃香に聞く

桃香「私の友達で太守をやつて、公孫贊つて、この人のところだよ。せつかくだから雇つてもらおうと思つてね。でもまだ先は長いから大変だな」

映司「へえ……」

映司が運んでいるライドベンダーを使えばもっと早く着くのだが、あいにく一台しかなくバイクの五人（映司、アンク、愛紗、鈴々、桃香）乗りはいくらなんでも危険である。

そして一行は公孫贊の城に向かつ。

一日目の夜

テントや寝袋なんて持つて、はずがなく当然の」とへ野宿をしていふと

映司「そういえば鴻上さんがくれたトランクの中つて何だろつ？」

映司はこの世界に来る前に鴻上から渡されたトランクの中身が気になつていた。

アンク「どうせあいつの」とだからフォークとかくだらないもんだ
ろ」

映司「そつかもしれないけど中身が気になるじゃん」

パカッ！

そして映司がトランクを開けると

映司「これって！？」

アンク「あんつ？」

ジャーンッ！

トランクの中身はカンドロイドの詰め合せだった。

映司「よかつたなアンク、これでメダル使わずにカンドロイドが使えるぞ」

アンク「まあ少しは役に立ちそつだな」

今までにはライドベンダーを自販機に戻してからセルメダルを入れていたためどうしてもセルメダルを消費するのだった。（おまけに再びバイクに戻すときもセルメダルが必要）

映司が喜んでいると

ガバッ！

鈴々「お兄ちやせわいひあかひいねーーーだーーー！」

寝ていた鈴々が起きてきて文句を叫ひた。

映司「あつーーー！」メソンね張飛ちゃん

鈴々「鈴々はお兄ちやせわいひあかひいねーーーのこーーーで呼んでほしいーーーだーーー！」

鈴々が叫びと

映司「確かにそうだね鈴々ちゃん

鈴々「いやまつ

アンク「ガキだな

そして一行が旅を続けてようやく

バーンシー！

桃香「とうとう公孫贊さんの城が見えてきたよーーー！」

一行は公孫贊の城にたどり着いた。

城内

ダダッ！

桃香が玉座の間にへと続く道を走り抜ける。

バタンッ！

そして桃香は扉を開けると

桃香「白蓮ちゃんいる？」

だが玉座の間にいたのは

？「いきなり誰ですかな？」

白い服を着た水色の髪の女性がいただけであった。

桃香「あれっ？白蓮ちゃんビニ～」

あよみあよみ

桃香は辺りを探すが見当たらない

ダダッ！

愛紗「桃香様びいられましたか？」

そこには愛紗達も駆け寄ってきた。

桃香「玉座の間にいると思つていた公孫贊さんがいないんだよ～！」

？」

鈴々「透明人間なのか！？」

映司「そんなわけないでしょ！-とりあえず探してみよう」

サササツ！

映司達も加わって探すがアンクは一人サボっていた。

映司「おいアンク！お前もサボってないで公孫贊さん探せよ！」

映司が言うと

アンク「フンッ！公何とかかどつか知らないが扉の裏で誰かがつぶれてるぜ」

映司達『えつ！？』

そして映司達が恐る恐る扉の裏側をみてみると

ペラ～ん

そこには潰された誰かがいた。

桃香「白蓮ちゃん！？」

映司「えつ！？つてことはこの人が公孫贊さん！？」

この人こそ桃香が会いたがっていた公孫贊（真名を白蓮）である。

何故彼女がこうなっているかというと

公孫贊が出ようとした時、いきなり桃香が扉を開いて現れたため扉に潰されたのだった。

白蓮「いたた」

そして潰されて氣絶していた公孫贊が目を覚ますと

桃香「白蓮ちゃん大丈夫！？」

白蓮「お前は桃香、そうだ！私が外にいこうとしたら急に扉が開いて裏側に潰され…って趙雲！お前は知つていただろうが！」

白蓮は白い服を着た水色の髪の女性を指差して注意すると

？「いや～、白佳（公孫贊の字）殿は影が薄いから気が付かせんでしたよ」

女性はしごりを切らうとするが

映司「それにしてもアンク、よく気づいたな

アンク「当たり前だろあの白い服を着た奴が扉をじっと見てたからな」

白蓮「お前な～！」

桃香「まあまあ白蓮ちゃん落ち着いて…？それよりお願いがあるんだけどじ～」

白蓮「お願い？」

桃香は白蓮に話すと

白蓮「なるほどやうござい」とならじぱりく我が軍に置いてやるよ」

桃香「ありがと白蓮ちゃん」

白蓮「なあに、私とお前は同じ教室で学びあつた仲ではないか」

白蓮が言つと

桃香「えつ？ 私と白蓮ちゃんって同じ組だつたつけ？ 同じ私塾だつたのは何となく覚えてるけどさ」

桃香にすり替わられていた白蓮だつた。

白蓮「まあいい、それより桃香がつれているのは誰だ？」

白蓮が映司達を指差すと

愛紗「申し遅れました。我が名は闘羽」

鈴々「鈴々は張飛なのだ」

映司「俺は火野映司。んでこいつがアンク」

アンク「フンッ！」

映司達の会話を紹介が終わると

白蓮「私はこの城の主、公孫贊だ。そしてこいつが密将の……」

趙雲「お初にお目にかかる。我が名は趙雲と申す以後お見知りおきを」

白蓮達も白蓮を紹介をした。そして

桃香「折角だから城の中を見てもいい？」

白蓮「いいだろ？ 案内してやるからついてきな」

白蓮が桃香に城の案内をすることになつたのだが

30分後

白蓮「桃香の奴はどうしたんだ！」

存在を忘れてしまい白蓮は一人になつていた。

白蓮「それにしてくそつ…どこつもこいつも私は影が薄いとバカにしやがつて！ ホントは私だつて目立ちたいんだ！」

さつきまで影が薄いとバカにされていた白蓮が怒りをはらすべく誰もいない廊下で叫ぶと

？「その欲望、叶えてやる！」

バンッ！

いつの間にか謎のグリードが白蓮の後ろに立つていた。

白蓮「お前……」から入った……」

シユツ！ チヤリンツ！

白蓮が言つて終わる前に謎のグリードは白蓮にセルメダルを入れると

ピキピキンツ！

白蓮の体は石のように動かなくなり

ズズウツ！

白蓮の体からヤミーが生まれた。

? 「お前の欲望はなんだ？」

謎のグリードがヤミーに聞くと

ヤミー「俺の欲望は……目立つこと。そのためには

バキーンツ！

「……」

ヤミーは真の姿に変身した。

そして

ガシツ！

石のよづで動けない白蓮の顔をのづひやひやがつかむと

「よづでよづで

のづひやひやの顔が変化していく

ジヤーンシ――

のづひやひやの顔は白蓮の顔になつた。

白蓮「じやあ……こつへへるや。」

？「言葉遣こに元氣を付けろ

5 「偽者とい推理とカマキリ」（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、愛紗は映司に真名を授けるが映司はそれを拒否

二つ、公孫贊こと白蓮の存在が薄いことが判明

三つ、白蓮の欲望からヤミーが生まれて白蓮に変化する。

5 「偽者と推理とカマキリ」

桃香と白蓮が出ていった後

映司「劉備ちゃんと公孫賛さん遅いな」「

アンク「フンッ！あのとぼけた奴（桃香）のことだ。道に迷ったのかもな」「

愛紗「まあ公孫賛殿もいるからそれはないと思つが少しばかり心配だな」「

姉を心配する愛紗だった。

趙雲「それはともかく、やつこへばお主達は「れを「存じか？」「

スツ

趙雲は握っていた手を広げると

チヤリンッ！

その手にはカマキリ・コアメダルがあった。

それを見た途端

ガツ！

アンク「おいお前、あのメダルをどこで手にいたれた？」「

アンクが趙雲に聞くと

趙雲「賊退治をした帰りに拾つたものだ。しかし何だあれは？」

趙雲は「アメダルをじつと見つめる。

趙雲「カマキリ 蟻アブが描かれているようだが？」

アンク「それよりも早くそれをよこせ」

スツ

アンクが趙雲からメダルを奪おうとする

サツ！

趙雲がそれを避けていった。

趙雲「この硬貨について何か知つているなら話してくだされ、でないと渡しませぬぞ」

趙雲が言つと

映司「わかつた話すよ。でも驚かずに聞いてくれ」

メダルを返してもう一つため映司は事情を話すこととした。

しづらしくして

趙雲「ほう、やみーとかいう化け物とおーすとかいう戦士がいるのですか？」

いきなりそんなこと言われても信じてもらえないのが普通である。

映司「そういうわけだからさメダル渡してくれない？」

映司が再び頼むと

趙雲「ダメー…と言いたいところですが」の硬貨は私が持つていても無駄なようですし差し上げましょう」「

映司「ありがと」

スツ

映司が趙雲からメダルを受け取るのになると

バタンッ！

いきなり扉が開いて

桃香「大変だよー？白蓮ちゃんがいなくなっちゃった！？」

桃香が入ってきた。

とこうよつもいなくなつたわけではなく桃香が存在を忘れただけである。

そして桃香が入った後

バタンツ！

再び扉が開いて

白蓮「誰がいなくなつたつて！」

いきなり白蓮が怒鳴りながら入つてきた。そして白蓮は趙雲に近づくと

白蓮「趙雲、このようなものを拾つておきながら私は報告せぬとは
！」

サツ！

白蓮は趙雲からメダルを奪つ。

映司「あつー？それは…」

映司が言おつとすると

白蓮「あんつーこの城の主は私だぞ！それにお前達は私の家来にな
つたはずだろ家来が城主に逆らつていいのか！」

ドンツ！

白蓮の迫力に

映司「すいませんでした」

大人しくなる映司だった。

アンク「バカ！何謝つてやがる！せつとメダルを取り返せ！」

アンクが映司に文句を言つと

白蓮「貴様は私に逆らつて何のか？だつたらこんなコアメダルなんて破壊するぞ！」

白蓮が言つと

アンク「！？」

アンクが何かに気づいた。

スッ

そしてアンクは映司に近寄ると

アンク「映司、こいつは公何とかの偽者だ！」

映司「うそつ！？つていうか何でわかるんだよ！？」

映司が聞くと

アンク「俺がいつ公何とかにコアメダルつて言つたよ？」

映司「！？」

アンクの一言で映司も気づいた。何故なら映司達はここに来てコア

メダルの「ことなんて一言も言つていない。それを知つていろとこつことせ...

「アンク「嘘だと思ひながらコラカンドロイドを起動してみな」

映司「よしつ」

パカッ！

映司はトランクから「コラカンドロイドを取り出してスイッチを入れる。「コラカンドロイドにはヤミーが近くにいると

『コラカンドロイド』『ウホウホッ』

とこつよつて知らせる機能がついているのだ。

映司「やつぱり！？みんな、早く公爵とかから離れて！…そいつはヤミーだ！？」

映司が叫ぶと

愛紗「なつ！？」

桃香「白蓮ちゃんが！？」

ササッ！

みんなは白蓮から離れだしていく

すると

白蓮「ちつーもつバレちまうとまな、だがあの方が欲しがつて いた
コアメダルが手に入つたのだからよしとしよう」

ズブブツ！

白蓮の姿が変化していく

のつペりゅうひヤリーハ「だが貴様らは全員殺してやるー」

バーンツ！

のつペりゅうひヤリーハに変化していくた。

趙雲「白佳殿が化け物に！？」

愛紗「あれがヤミーとつものだ」

桃香「あんなのが私から出ただなんてちょっとショックだよー！」

みんながそれぞれ反応していくこと

のつペりゅうひヤリーハ「こでよ腫ヤリーハ」

ズブブツ！

のつペりゅうひヤリーハは体から腫ヤリーハを出現させて襲つてくる。

映司「アンク、メダル！」

アンク「フンッ！奴からメダルを取り返せ！」

シユツ！ パシツ！

アンクは映司にメダルを投げて映司がそれを受け取り

力チャツ！

メダルをオーズドライバーにセットして

キンキンキンッ！

オーススキヤナーを交差させると

映司「変身！」

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャンッ！

映司は仮面ライダーオーズに変身した。

趙雲「なんと！？あのがオーズとは！？」

愛紗「その通りだ。そして我々の相手はあいつらだ！」

ビシッ！

愛紗は青龍偃月刀で廊やマリー達を振り

趙雲「なるほど。わよひびこー、我が力を見せてやひー。」

バツ！

趙雲は廊やマリーに突っ込んでいった。

愛紗「桃香様はやー」でお待ひくだせこー。アンク殿は桃香様をお守り
くだせー。」

鈴々「アンコのお兄けやん頼むのだ！」

ダダツ！

そして桃香をアンクに託して愛紗と鈴々も向かっていく。

アンク「ふざけるな！何で俺がこいつをやうなきやいけないんだ！」

「

桃香「よろしくねアンクちゃん

アンク「ちゃん付けするなー。」

その頃、オーズは

オーズ「ハツ！」

ドカツ！

のつペらぼつヤミーに攻撃を仕掛けしていくが

サッ！

のつペらぼつヤミー「そんなものが効くものか！」

オーズ「くつ！？見かけより素早い！？」

意外と器用に動くのつペらぼつヤミーにオーズは苦戦していた。

のつペらぼつヤミー「それではこっちからこくぜ！」

ガシッ！

のつペらぼつヤミーはオーズの頭をつかむと

ズブブツ！ パツ

オーズ「じゃーん！」

オーズに変身した。

オーズ「えつ！？俺がもう一人！？」

オーズ「姿だけではないぞ力や声まで一緒になのだ！」

ドカッ！

オーズ「ぐはつ！？」

ドサッ！

オーズにドロップキックを食らってしまいオーズがぶつ飛ぶ！（？）

鈴々「お兄ちゃんが一人になつてているのだ！？」

趙雲「どちらが本物だ？」

趙雲が聞くと

オーズA「俺だよ！」

オーズB「俺だつてば！」

「」の小説を見ている人もどちらが本物か考えてください。

愛紗「（どちらかが偽者なのは分かっているのだがどっちだ？それさえわかれば斬りつけられるのに…そうだ！）」

愛紗が何かを閃くと

愛紗「二人とも、こちらを見なされ！」

オーズA・B『えつ？』

二人のオーズは愛紗の方を見ると

愛紗「映司殿」

と愛紗が聞いた瞬間

オーナー「何だよ？」

オーナーB「やつと呼んでくれたね！」

この瞬間

愛紗「お主が偽者だ！」

ズバッ！

オーナーA「ぐはつー？」

愛紗はオーナーAを斬ると

オーナーA「何故俺が偽者だとわかつたー？」

オーナーAが聞くと

愛紗「私が映司殿と呼んだのは実はさつきが初めてだつたのだ。それには聞き慣れていた貴様が偽者というわけさ」

見事な頭脳プレーである。

オーナーA「くそつー？」

ボンッ！

愛紗に斬られた衝撃でのつぺらぼつヤミーが元の姿に戻った瞬間

オーズ「今だ！」

パシッ！

のっぺらぼうや//「あつ！？」

オーズはのっぺらぼうや//からカマキリメダルを奪い取った。

オーズ「油断大敵つてやつだね それじゃあいくぜ！」

力チャツ！

オーズはトラメダルをカマキリメダルに入れ換えて

キンキンキンッ！

オースキヤナーを交差させると

ドライバー『タカ・カマキリ・バッタ』

ジャンッ！

オーズの腕がトラアームからカマキリアームへと変化してタカキリバにコンボチェンジした。

コンボチェンジ…オーズが使う戦法。メダルを入れ換えることで様々な戦闘が可能になる。（その数は100を越える）

オーズ「ハツ！ハツ！ハツ！」

ジャキンッ！

ズバズババッ！

のっぺりまつや//「ぐえつ！？」

愛紗に斬られて動きの鈍くなつたのっぺりまつや//にオーズはカマキリソードを立てて斬りつけしていく。

スッ！ キンキンキンッ！

そしてオーズは止めを指すべくオーズドライバーをオースキヤナーで交差させると

ドライバー『スキヤニングチャージ』

バチバチッ！

オーズのカマキリアームに力が溜まつていき

オーズ「ハーッ！せいやーつ！」

ズバッ！

渾身の一撃でのっぺりまつや//を切り裂いた。

のっぺりまつや//「くつそーー？」

ドッカーンッ！

切り裂かれて爆死するのつべらぼうヤニー

そしてのつペジボウヤミーが倒されて少しすると

バタンツ！

白蓮 一 何か起きたんだ！？

ヤミーが倒されたことにより元に戻った白蓮がいきなり入ってきた。

桃香、白蓮ちゃん!? 本物かな?

白蓮

何か起きていたのかは白蓮にはわからぬが

白蓮 何がよこの有り様は!!

才口堂

ヤミーとの戦いで王座の間がボロボロになっていたのには驚いたと
いう。

愛紗「公孫贊殿も大変だな」

愛紗が公孫贊を心配していると

ザッ！

そこに変身を解いた映司が近づいてきて

映司「さつきはありがとうね愛紗さん」

愛紗「えつー？」

映司「前に言つたでしょ。君が俺を映司つて呼んだら俺も君を愛紗つて呼ぶつて」

確かにそのような約束をしていた。

愛紗「あれば！？偽者を見つけるための策でして！？」

映司「それでもいいの、よろしくね愛紗！」

二人が仲良くしている頃、アンクは

アンク「（この世界に）コアメダルがあるということはあの謎のグリードが落としたといふことか？だったら一枚だけとは考えられないな」

このアンクの考えは当たつていた。

同時刻

陳留

？「あら？この硬貨は何かしら？」

建業

？「冥琳（めいりん）、お金拾ひひやつた？」

洛陽

？「この硬貨は何かな？詠ちゃんなら知ってるかな？」

各地に何故かばらまかれていたメダルが拾われるのであった。

5 「偽者と推理とカマキリ」（後書き）

COUNTS MEDAL

現在、オーズの持つメダル

タカ	2
トラ	1
バッタ	1
カマキリ	1

6 「バイクと孔明とすりかわり」

公孫贊」と白蓮の元で働く映司と桃香達

そして働きはじめてから一週間が経つたある日のこと

桃香「黄巾党？」

白蓮からいの言葉に？を浮かべる桃香

白蓮「そりなんだ。最近そういうような賊が暴れているらしい。我が軍でも被害者が続出していくな」

白蓮の話によると

黄巾党と云う賊は頭に黄色のバンダナを巻いた集団で兵達はみんな怪しげな言葉を言っているらしい

白蓮「そもそも朝廷から黄巾党を殲滅しろって命令が出されたんだ。すまないが私は忙しいので桃香達が黄巾党を何とかしてくれないか？」

白蓮が聞くと

桃香「わかったよ任せといて！それじゃあ兵達を少し借りるけどいい？」

桃香が聞くと

白蓮「兵達だと…？」

いきなり驚く白蓮

何故かと云ふと

映司「ちよつと桃香、」の前に」と忘れたの？」

実はこの前、賊を壊滅させるために桃香が白蓮から兵を借りたのだが…、なんと！？白蓮の兵士達が誰一人として残らず桃香についてしまったのだ。

おまけに桃香の性格（来るのは拒まず）のせいで戻すこともできなくなり、白蓮の城は桃香達が帰るまで兵が一人もいない日々が続いたのだった。

その事が白蓮にはトラウマになっていた。

それを思い出した桃香は

桃香「白蓮ちゃん、兵はいらないよ！うちには愛紗ちゃんに鈴々ちゃん、映司さんにアンクちゃんがいるからさー！」

といふことでこの場は丸く収まつたのだった。

そして現在、廐の前

愛紗「桃香様も無茶しそぎです。五人でじつやつて黄巾党を殲滅するというのですか？」

愛紗が桃香に説教すると

桃香「愛紗ちゃん、めんね、白蓮ちゃんの顔を見たら兵がほじつて言えなくてや」

もし言つていたら白蓮は再び白くなつていただがつ

鈴々「それにしてもお兄ちゃんはまだなのかなのだ？」

映司は少し準備があるといつて愛紗達を先に厩に向かわせていた。

そしてじょりくすむと

ボンボンッ！

どこからかバイクの音が聞こえてきたかと思つと

ボンボンッ！！

バッ！

桃香達『うわっ！？』

いきなりバイクが桃香達の後ろから現れた。

愛紗「鉄の獣か！？」

スッ！

愛紗はバイクに青龍偃月刀を向けると

? 「『めん』『めん』」

バイクに乗っている人が話しかけてきた。

パカッ！

そしてバイクに乗っている人がメットを外すと

映司「驚かせて『めんね』」

バーンッ！

そこには映司がいた。

愛紗「映司殿！？」

鈴々「お兄ちゃん、この鉄の獣は何なのだ？」

映司「これはバイクといつ乗り物だよ。俺は馬に乗ったことが少ないからね」

映司が言つと

アンク「映司、さつさといくぞ」

映司の後ろに座っていたアンクが映司を急かす。

映司「とりあえず行こう！」

そしてようやく映司達は黄巾党の殲滅に向かつてござりまするのだが……

鈴々「お兄ちゃんだけずるいのだ！ 鈴々もばいぐに乗りたいのだ！」

「

桃香「あつ、鈴々ちゃんずるーい！ 私も乗りたーい！」

映司「えつー？ ちょっと待つてよー！？」

珍しいものを見るに反応する一人に駄々をこねられてしまい出発が少し遅れてしまったという

しばりくじ

桃香「わーい

」

映司「あんまり慣れちゃ危ないよ

」

じゃんけんで勝った桃香が映司の後ろに乗りついていた。

鈴々「桃香お姉ちゃんずるーいのだ！」

「

愛紗「鈴々はまた今度乗せてもうえよかうつ

」

アンク「フンッ！ ガキかよ

」

ちなみにアンクは愛紗の後ろに乗つていた。

しまいくじて

桃香「この先が黄巾党の本部なんだね！？」

桃香達は黄巾党の本部近くの荒野に来ていた。

アンク「映司、黄巾党なんてすぐ倒しちまえ、なんだからトライドベンダーで暴れるか？」

アンクの手にはライドベンダーをパワーアップせざるトライドロイドが握られていた。

トライドロイドをライドベンダーにセッティングしてトライドベンダーはトライドベンダーにパワーアップするのだが

映司「ダメだつてートライドベンダーはリリーフーターでしか操れないだろ」

映司の言つ通りトライドベンダーは勝手に暴走するためリリーフーター一ゴンボでしか制御できないのだった。

愛紗「映司殿、さつきから言つてらっしゃる、『ひとつたー』とは何ですか？」

愛紗が映司に聞こつとすると

アンク「簡単に言つとオーズの強化形態だ。他にもいくつがあるが使用したら体に負担がかかるがな」

映司の代わりにアンクが言つ。

鈴々「おーすつてす！」のだ！鈴々も早く“うとうたー”を見てみたいのだ

「

喜ぶ鈴々に対して

愛紗「バカ者！」

ビビンツ！！

愛紗が怒声を発する。

愛紗「アンク殿も言つていただろつ”「んぼ”は体に負担がかかる
と一面白半分で楽しみにするんじやない！」

ビシッ！

愛紗が鈴々に言つと

鈴々「そうだつたのだ、『めんなのだお兄ちゃん』

映司に謝る鈴々

映司「仕方ないよ俺も体は慣れた方だから少しは平氣だしね。それよりも黄巾党を何とかしないとね」

映司が場を收める言ひ方をした直後

ピクンツ！

映司が何かを感じた。

映司「アンク、メダルを渡してくれ！」

アンク「はあ？ 何言つてやがる？ 」

映司のいきなりの言葉にアンクが？を浮かべると

映司「早くしろつて！」

映司が急かしてきた。

アンク「何する気だよ？」

シユツ！

仕方なくアンクは映司にメダルを渡すと

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

映司「変身！」

メダルをオーズドライバーにセットした映司は

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンツ！

仮面ライダー オーズへと変身した。

オーズ「ハツ！」

ダダッ！

オーズに変身した映司はいきなりどこかに走り出していった。

アンク「どこ行く気だよ映司！？」

愛紗「我々も後を追いましょう。アンク殿はばいくをお願いします

「

アンク「ちつ！」

そしてみんなもオーズが走つていった方角を追つていった。

オーズが向かつていった先には

?「お婆さんしつかりしてくだしゃい」

?「この先にいけばきっと大丈夫でしゅからー？」

二人の小さな女の子が黄巾党の大軍に追われているお婆さんを助けていた。

お婆さん「ありがとう、でも私はもういいから二人だけでも逃げてちょうだいな」

諦めムードのお婆さんに

? 「何をいいてるのですかお婆さん！」

? 「生きていればいつかは神様が助けてくれましゅよ！」

二人が語り合

ザッ

いつの間にか周りを黄巾党に囲まれていた。

黄巾兵「神様が助けてくれるだと？笑わせるなよ！」

黄巾兵「お前らはここで死ぬ運命なのさ！」

ボンッ！！

黄巾兵の一人が剣を降り下ろす！

? 「はわわ～！？」

? 「あわわ～！？」

二人はお婆さんだけでも助けられるよう盾にならうとするがそれくらいで防げるわけがない！

もうおしまいだと二人が思ったその時！

ガキンッ！！

剣が急に止まつた。何故ならば…

黄巾兵「誰だよお前！？」

バンッ！

オーズがメダジヤリバーで黄巾兵の剣を押さえていたからだ。

いきなりのオーズの出現に黄巾兵が驚くと

オーズ「こんな小さな女の子を殺すなんて許さない！」

ジャキンッ！ ボキッ！

オーズはトランクローを展開させて黄巾党の剣を折つた。

黄巾兵達『バ…化け物だ…！？』

ダダーン！

オーズの力にびびつた黄巾兵達が逃げていくと

ガチャンッ！ シュンッ！

映司はオーズの変身を解いて

映司「大丈夫でしたか！？」

お婆さんと二人の女の子の方に向かっていった。

? 「はわわ！？人間が固い剣をへし折った！？」

? 「あわわ！？怪人がいきなり人間に変わった！？」

いきなりのオーブにびびる二人

映司「驚かしてごめんね！？これで汗を拭いて」

スツ

映司は懐からハンカチを取り出して二人に渡す。

? 「ありがとびざいましゅ」

ふきふきつ

一人の女の子が汗を拭いていると

? 「ごわごわして変わった布でしゅね？」

ハンカチに不信を感じて広げてみると

バーンッ！

? 「はわわー！？」

予想がついている人もいると思うがそれはハンカチではなくパンツ
だった。

映司「うう…うめん…？」

バツ！

映司は女の子からパンツを奪い取ると

映司「そういうえばまだ名前聞いてなかつたよね。俺は火野映司、君達は？」

名前を聞くことにし、二人の女の子は

孔明「わ…私は諸葛亮孔明でしゅ」

鳳統「ほ…鳳統士元でしゅ」

と答えた。

その頃、黄巾党アジトでは

黄巾兵「お頭、お頭が言つていた怪人が現れましたぜ！？」

一人の黄巾兵が慌てながらお頭に報告する。

張曼成「どうか。よしやく出やがったか」

黄巾党アジトのお頭・張曼成

張曼成「お前達は本部のお頭にこの事を伝えろ！俺がその怪物を倒してやるぜ」

黄巾兵「わかりやした！」

ダツ！

そして黄巾兵は駆け出していく。

張曼成「フフフシ… やはり来たかオーズよ！」

ズブブツ… バンツ！

張曼成の姿が謎のグリードへと変身した。

？「この地が貴様の墓場となるのだ！」

ちなみに本物の張曼成は石のようじが固まっていた。

7 「軍艦と鎌鼬と法則」（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、白蓮に頼まれて映司達は黄巾党に接近

二つ、向かつた先で映司は一人の少女、孔明と鳳統を助ける。

三つ、黄巾党の幹部・張曼成はすでに謎のグリードにすり変わっていた。

7 「軍艦と鎌鼬と法則」

？「さて、オーブが現れたとなるとそろそろ仕掛けたヤミーが動き出す頃か」

張曼成に成り済ましていた謎のグリードが黄巾党を操つて暗躍している頃

その頃、映司達は

映司「えつー？悪いけどもう一度名前をいつてくれない！？」

映司が助けた女の子に再び名前を聞いてみると

孔明「はわわ、諸葛亮孔明でしゅ」

鳳統「あわわ、鳳統士元でしゅ」

再び女の子の名前を聞いた瞬間

映司「（確かに孔明と鳳統って有名な軍師じゃないか！？）

「この小説の映司は多少三国志の知識があります。

映司が驚いていると

ダダツ！

愛紗「映司殿、どうされました！？」

遅れて愛紗達がやつて來た。

桃香「あれつ？その子達は誰なの？」

桃香が孔明と鳳統を見て聞くと

孔明・鳳統「は・あ）わわ～！？」

二人はいきなり桃香を見て驚き出した。

桃香「何なの！？私の顔に何かついてるの！？」

鈴々「目と鼻と口がついてるのだ」

愛紗「鈴々、古いボケはやめろ」

一応突つ込む愛紗だった。

孔明「もしかしてあなたは劉備さんでしゅか！？」

桃香「そうだけど、どうして私の名前を知つてるの？」

桃香が聞くと

鳳統「この辺りじゃ有名でしゅよ！近くにいた賊を多数の兵を引き連れる優しい人だつて！」

桃香は自分が知らない間に有名になっていた。

愛紗「桃香様が有名になるとはな」

鈴々「お姉ちゃんすうじいのだ！」

とは言つてもまだほんの一部である。

映司「それより君達、この辺りは黄巾党の本部に近いから逃げた方がいいよ」

映司が話を戻すと

孔明「逃げるなんてできません！」

鳳統「私達は困つてている人を助けてに来たんです！」

きつぱりといふ人に

アンク「ハンッ！バカなやつらだ。他人を助けて自分が死んじゃ 元も子もないだろ」

映司「おいアンク！」

二人をバカにするアンク

孔明「確かにそこの金髪頭さんの言う通り死んでしまったなら何もありませんが、あの時ああすればよかつたなんて後悔はしたくありません！人を助けて自分が死ぬならそれが本望でしゅ…だから劉備様に仕官しにきたのでしゅ！」

鳳統「私も同じ気持ちでしゅ！」

孔明・鳳統『だから劉備様…私達を軍に加えてください！』

』

バンッ！

はつきりという二人

アンク「フンッ！くだらんな」

映司「こいつのことは気にしなくていいからさ、わかつたよ二人がそこまで言つのなら仲間は多い方がいいし、俺達の仲間になりなよ！いいでしょ桃香」

桃香「うんっ！それがいいよ」

二人は賛成するが

愛紗「桃香様も映司殿もお待ちください…このように幼きものを加えるなんて何を考えているのですか！」

映司「鈴々だつて小さいじゃん…」

愛紗「鈴々には武力がありますからいいのです！見たところの二人には武力の欠片はありません！」

はつきりという愛紗

アンク「確かに愛紗の言つ通りだな、そんなチビ共にできる」といえば逃げ回るくらいだな」

孔明「そんなことありますん！」

鳳統「そりでしゅー私達には……」

鳳統が最後まで言わうとする

ピューッ！

いきなり風が吹いてきた。

その瞬間

ギュインッ！（小音）

映司「！？」

風の音がわずかに違うと感じ取った映司は

映司「孔明ちゃん、鳳統ちゃん危ない！？」

ドンッ！！

孔明・鳳統「ひやうつー！？」

いきなり孔明と鳳統の二人を弾き飛ばすと

ズバッ！！ ブシュッ！！

映司「ぐわつー！？」

いきなり映司の背中が斬られた。

愛紗「映司殿！？」

鈴々「何が起きたのだ！？」

ダダッ！

みんなは慌てて映司に駆け寄る。

そしてその時

ギランッ！

一瞬刃物のようなものが桃香に迫つてきた。

アンク「そこかっ！」

シュッ！

それに気づいたアンクはクジャクカンドロイドを投げつける。

カシャンッ！ ギュイーンッ！

クジャクカンドロイドはアニメマルモードに変形して刃物のようなものに迫る。

アニメマルモードになつたクジャクカンドロイドには回転する刃がついているのだ。

ガキンツ！！

そしてアンクの投げたクジヤクカンドロイドが何かにぶつかると
ぼや～つ

それきまで何もいなかつた場所に何かが現れ出した。

するとそこには

鎌鼬ヤミー「シャウーッ！！」

カマイタチ
鎌鼬ヤミーが現れた。

孔明「はわわ～！？あの化け物はなんでしゅか！？」

愛紗「説明している場合ぢゃない！」

鈴々「とりあえず今は傷付いたお兄ちゃんを守るのだ！」

スツ～！

鎌鼬ヤミーに對して構える愛紗と鈴々だが

鎌鼬ヤミー「シャツ！」

シユンツ！

愛紗・鈴々『！？』

鎌鼬ヤミーは一瞬で消えると

パツ！

鎌鼬ヤミー「シャウーッ！」

いつの間にか愛紗達の後ろに現れた。

鈴々「消えるなんてするこのだ！」

愛紗「違うぞ鈴々、あいつは消えたのではない我々の田で追い付けられない早さで走っているのだ！？」

愛紗の言つ通り鎌鼬ヤミーは消えたのではなくもののすゝじで早さで走っていたのだ。

それも武人である愛紗達の田にも止まらぬ早さで

愛紗達を通りすぎた鎌鼬ヤミーは

鎌鼬ヤミー「オーズ、殺す！」

ジャキンッ！

傷付いた映司めがけて迫っていく

アンク「ちつ！映司、変身しろ！」

映司「そうか！？」

映司はすでに前回アンクからメダルを受け取っていた。

力チャ力チャンッ！

キンキンキンッ！

メダルをセットした映司はオースキヤナーをオーズドライバーに交差させると

ドライバー『タカ・トラ・バツタ』

バツ！ ドカツ！

鎌鼬ヤミー「ギャツ！？」

ドライバーから出てきたメダル状エネルギーにぶつかる鎌鼬ヤミー
このドライバーにメダルをセットしたときに現れるメダル状エネ
ルギーは実態を持っているため今回のように攻撃したりヤミーの攻
撃を防ぐ盾にもなるのだ。

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

そして映司は仮面ライダーオーズに変身した。

鳳統「あれはさつきの怪人！？」

愛紗「怪人などではない」

鈴々「正義の味方の仮面らいだーなのだーお兄ちゃん、そんな奴軽く倒すのだ！」

オーズを応援する鈴々だが

ズキンッ！

オーズ「ぐつー！？」

オーズに変身したからといって傷が治るわけではなかった。

鎌鼬ヤミー「シャツー！」

シュンッ！

そしてオーズがうまく動けないのを一二三回、鎌鼬ヤミーは

ズバズバッ！

オーズ「がはつー！？」

オーズに對して遠慮なく切りかかってきた。

愛紗「やはつヤミーが早すぎるー！」

鈴々「あんなに早いんじゃ当たらないのだー！？」

そんなとき

アンク「（おかしい、こいつなんでも早すぎだぜ。ヤミーのアリヤー
そんな力が…？）」

アンクはヤミーが早すぎることに疑問を感じていた。

そしてその答えは

アンク「映司、おそらくそいつの体にはコアメダルが入っている。
そいつが早すぎなのはそのためだ奪い取れ！」

アンクは指示するが

オース「んな」と言つたつて…？「んな素早い奴からビックりつてメ
ダル取るんだよ…？」

鎌鼬ヤミーの動きが早すぎて奪い取るのが難しいのだ。

鈴々「こいつなつたら三対一で戦うのだ！」

愛紗「やめろ鈴々…悔しいが我らの実力では足手まといになるだけ
だ！」

ホントは愛紗だつて向かいたいがいつてる通りなので仕方ないのだ。

ズバズバッ！

オース「がはつ…？」

「うしてこる間にもオースに切りかかつてくる鎌鼬ヤミー

鎌鼬ヤミー「俺の早さにつけこまれまー！」

ズバズバッ！

そんなとき

孔明「（じへつ）」

戦いを見ていた孔明が

孔明「おーすさんーおもいつきつ拳を右にぶちこんでくださいー！」

孔明がオーズに向かって言つと

オーズ「何だかわからぬいけど…えいつー！」

ジャキンッ！ ブォンッ！

オーズはトライクロードを開かせて渾身の一撃を繰り出した。すると

ザクリッ！

鎌鼬ヤミー「ぐほつー！」

トライクロードは鎌鼬ヤミーに当たった。

オーズ「当たったーー？」

ズボッ！

そしてオーズが腕を鎌鼬ヤミーから引き抜くと

キランツ

トラクロードの爪の間から「アメダルが出てきた。

トラクロードは敵に突き刺すことで敵の中にあるアメダルを引き抜くことができるのだ。

オーズ「このメダルは！？これならば…」

力チャカチャンツ！

オーズはバッタメダルを抜いて手に入れたチーターメダルに入れ換えた。

キンキンキンツ！

そしてオーズドライバーをオースキヤナーでスキャンさせると

ドライバー『タカ・トラ・チーター』

ジャキンツ！

オーズの脚がチーターレッグに変化した。

鎌鼬ヤミー「おのれっ！」

シュンツ！

鎌鼬ヤミーは再び高速で移動する。

オーズ「もつその手は食らわないよー。」

オーズが言つと

「シューーー！」

チーターレッグからいきなり煙が出てきた瞬間

シュンッ！

オーズの姿が消えた。

鈴々「お兄ちゃんが消えたのだー？」

愛紗「だからそつではなく早すぎて見えないだけだと言つていいだ
るわー。」

愛紗の言つ通りオーズも高速で動いてるので消えてるみたいに見え
るのである。

「シューーー！」

鎌鼬ヤミー「俺の早さにつけこまれまいー。」

鎌鼬ヤミーが走りながら言つと

オーズ「それはどうかな？」

バツ！

オーズが鎌鼬ヤミーの隣を走っていた。

鎌鼬ヤミー「なつー？　」

鎌鼬ヤミーが驚いている隙に

ガシツ！

オーズ「この距離なら絶対はずさないよ　」

オーズが鎌鼬ヤミーを掴むと

オーズ「せいやーつー！」

シユシユシユツー！

目にも止まらぬ早さで鎌鼬ヤミーを蹴りまくるオーズ

鎌鼬ヤミー「ほほほつー！」

これにはさすがの鎌鼬ヤミーもたまらなかつた。

そして

オーズ「ハツ！」

ドカツ！

オーズが鎌鼬ヤミーを遠くに蹴り飛ばした時

ドカーンッ！！

鎌鼬ヤミーは爆発していつた。

オーズ「やつた！」

何とか鎌鼬ヤミーを倒したオースたつたが

はたりつ！

倒した瞬間背中の痛みを思い出してオーバーは倒れた。

三五七

映言一すく効くもんだな！？

夢見を解した映詔は鳳統の弟三とを愛せていた。

アンク「それにしても黄色チビ（孔明）、何であそこには鎌鼬ヤマハーーーが出るつてわかつたんだ？」

アンクが聞くと

孔明「それはでしゅね、あの怪物は一定の法則で切りつけていたんですね」

つまり鎌鼬ヤミーは切る場所をA、B、C、A、B、Cといったように繰り返していたのだ。

愛紗「あんな短時間で法則を見つけるとは大した頭脳だな。先程の言葉を詫びよう、お主達は我が軍に必要な人材だ」

孔明「えつーー？」

鳳統「つてことは…！？」

二人が聞くと

映司「今日から仲間つてことだよ！」

これを聞いた二人は

孔明「やつたー！」

鳳統「よかつたね！」

喜ぶ「一人だった。

孔明「仲間になつたといつことで真名を預けます。私の真名は朱里でしゅ」

鳳統「私の真名は離里でしゅ！」

この後、映司とアンク以外は真名を交換しあつのだつた。

その頃、黄巾党アジト

張曼成「ん…俺は何してたんだ？」

鎌鼬ヤミーが倒されたことにより本物の張曼成が元に戻った。
だが

張曼成「あれつ！？手下共はどうしたんだよ！？」

手下共は全員本部に向かっているためこの場には張曼成しかなく黄巾党の一部が解散するのだった。

7 「軍師と鎌鼬と法則」（後書き）

COUNTS MEDAL

現在、オーズの使えるメダル

タカ	2
トラ	1
バツタ	1
カマキリ	1
チータ	1

ヤミーファイル

のっぺりぱりヤミー

相手の顔に手を触れるだけで相手の姿になり、外見や声を真似る。
意外と素早い

鎌鼬ヤミー

高速で両手に持った鎌で切りつけてくる。早さは現段階では一番早い

8 「始まりと曹操と覇道」（前書き）

タイトルの通り、ついに華琳が出ます。

8 「始まりと曹操と覇道」

桃香率いる映司一行に新しく名軍師・朱里と雛里が加わり黄巾党本部を田指す一行。

その頃、黄巾党本部では

黄巾党本部

黄巾党「大変です！？張曼成さん率いる部隊が義勇軍に壊滅されました」

一人の黄巾党が言つと

？「えー！もうあのおじさんやられちゃったのー！？」

？「ちい達が逃げ…戦つまでもたせなさいよね！」

？「すぐさま部隊を編成してくださいー！」

黄巾党「わかりました！」

ダダッ！

そして黄巾党の男が去つていった後

？「ねえちいちゃん、人和ぢやんビリijoつー？」

？「ビリijoつたつて、あのバカ（張曼成）が義勇軍を引き付けて

いる間に逃げるのが作戦でしょー。どうすればいいのよー。」

? 「どうしてこんなことにして？」

この彼女達は黃巾党の首領である。上から順に張角（天和）、張宝（地和）、張梁（人和）なのだ。

彼女達がこうなつてしまつた原因には理由がある。

元々彼女達は売れない旅芸人をしていたのだが、数週間前化け物の姿をした男に『この書物には貴様らを有名にする方法が書かれている。これを読んで大陸を支配するがよい』て言られて書物を開いた結果、売れない旅芸人が一転して人気アイドルと化してしまつたのだ。

そこまでなら別によかったのだがその先に問題があった。

アイドルと化した彼女達はある日に開いたライブにて『服がほしい！』と言つた瞬間、ライブ終了後ファン達から山のような服が送られた。

そしてそれからも『あれが食べたい！』『宝石がほしい！』と言つたびにファン達から贈り物が届けられ、ついには『大陸がほしい！』と調子にのつてしまいこれを聞いたファン達は

ファン達『任せてくれー！！』

ジャキンッ！

ファン達は黄色の布を頭に巻いて大陸の侵略を開始した。これが黃

巾党の始まりである。

地和「天和姉さんが悪いのよ！最初に服がほしいなんて言つから
！」

天和「ひつど～い！それを言つなら大陸がほしいなんて言つたち
いちゃんが悪いんじやん！」

姉妹喧嘩を始める二人に

人和「落ち着きなさい姉さん達！今は姉妹喧嘩している場合じゃな
いでしょ！早くなんとかしないと義勇軍が攻めてくるんだから！？
噂では幽洲の公何とかの密将である劉備と陳留の曹操が来るらしい
けどどうすればいいのよ！？」

悩みまくる人和。

だが彼女達は知らなかつた。彼女達がアイドルと化したあの日から

ボコボコッ！

黒い泡のようなものが増え続けていることを

その頃、映司達は

バンッ！

よつやく黄巾党本部が見えるところまでやつて來た。

映司「ようやくここまで來たんだな

！」

桃香「いよいよ黄巾党との決戦だね！」

鈴々「これでこの小説も終わりなのだ」

嘘です。

映司「それじゃあ行こうか」

スツ…

そして映司が足を進めよつとすると

シユンツ！ ザクツ！

映司「おわッ！？」

愛紗「何者だ！」

ぐるり！

愛紗が矢が飛んできた方向を見てみると

バンツ！

そこには水色の髪の女性が弓を構えていた。

桃香「いきなり飛ばすなんてひどいじゃん！」

桃香が文句を言つと

？「あら、私より先に攻めこもつとしたあなた達が悪いのよ」

スツ

水色の髪の女性の後ろからくるくる金髪の女の子が現れた。

愛紗「お主は何者だ！」

愛紗が叫ぶと

曹操「あら、いざれ天下をとむこの曹操孟徳を知らないなんてね

映司「曹操だつて！？」

曹操といえば三國志の中心人物の一人である。

映司が曹操に驚くと

バツ！

？「でえいっ！」

映司「ひつー？」

曹操の後ろからいきなり黒髪長髪の隻眼の女性が現れて

ブオンツー！！

映司に向かつて大剣を振るつてくれる。

映司に危機が迫つたその時！

ガキンツ！！

愛紗が偃月刀で大剣を防いで映司を助けた。

映司「ありがとう愛紗！？」

へたへた

いきなりのことに驚いて腰が抜けた映司

愛紗「なあに、いつも助けてもらつておるお礼ですよ。貴様、いきなり何をするのだ！」

愛紗が叫ぶ

？「知れたことを…この者が華琳様を曹操と呼び捨てにしたから斬りつとしたままでよ…」

江戸時代じゃあるまいし無茶苦茶な理由である。

バツ！

隻眼の女性は愛紗から距離をとると

？「華琳様呼び捨て罪で死ねーっ！！！」

バツ！

再び映司に斬りかかってくるが

曹操「やめなさい春蘭！」

ピタリッ！

曹操がやめないと隻眼の女性の動きがいきなり止まった。

曹操「今は決戦だからやめなさい！」

？「しかし華琳様……」

それでも斬りつけたい隻眼の女性に

曹操「どうしても斬るところのない、しばらくなねや闘に来るのを禁止にするわよ」

曹操が言つた瞬間

？「命拾いしたな！」

スツ

隻眼は大剣を收めた。

曹操「うちの部下が悪かったわね、いま斬りかかねつとした隻眼が夏侯惇、そしてこいつの『使いが…』」

夏侯淵「夏侯淵と申す。姉者がすまなかつたな」

自己紹介をする一人

夏侯惇「華琳様へ、何で斬るのを邪魔したのですか？あんな奴なんて一太刀で斬れますよ！」

曹操「うるさいわよ春蘭！（それくらいわかっているけどもしそんなことしたら……）」

スッ

曹操はアンクの方を見る

ジャラッ！

そしてアンクの手にはメダルが握られていた。

もしあのまま夏侯惇が映司を斬ろうとしたらすかさずアンクは映司にメダルを投げていたであろう。そしてオーブzによつて夏侯惇は倒される。

とにかく曹操はもしあのまま戦ついたら夏侯惇が危ないと直感して止めたのだった。

桃香「もしかして曹操さんも黄巾党を退治しに来たんですか？」

桃香が曹操に聞くと

曹操「もちろんそうよ、それ以外にこんな場所に来るはずないでしょ！私はこの戦いで名を世に知らしめるのよー！」

ぐつ！

拳を握る曹操。

曹操「というわけだからあなた達は邪魔だから出ていきなさい！」

この曹操の言葉に

愛紗「何を言うのだ！貴様に指図される筋合いはない！」

鈴々「愛紗の言つ通りなのだ！」

夏侯惇「貴様らーーー！」

主人である曹操をバカにされて怒る夏侯惇

だがここで斬りかかるうとすれば曹操からどんな罰が下されるかわかつたものではない。その為夏侯惇はむやみに動けなかつた。

曹操「あなた達はバカなのかしら？たつた7人でどうやって黄巾党的大軍に勝つというの？」

黄巾党的兵力は少なくとも数万人はいるのだ。

曹操がバカにすると

映司「それはわからないよーーー！」

映司が口をはさんだ。

映司「小さな数でも大きなものを倒すことだってできるときもあるんだ」

映司が言つと

曹操「甘いわね、数が小さきものは大きなものには勝てないものなのよ。その証拠に私は今まで相手より多い数の兵を用意して圧倒的勝利をおさめてきたのよ。全ては私の霸道のためにね」

映司「霸道つてそんなに大事なものなの？相手より多い数で挑んでも勝利した理由にはならない。君は負けたことがないからそんなことが言えるんだよ」

次々と曹操に口答えする映司に

ピキンッ！！

とうとう曹操がキレた。

曹操「あなた、死にたいよね」

ジヤキンッ！

映司「ひつー？」

曹操は映司に鎌を突きつける

愛紗「映司殿！？」

鈴々「お兄ちゃん！？」

愛紗と鈴々は映司を助けようと近づくが

スツ！スツ！

夏侯淵「悪いがここを通すわけにはいかん！」

夏侯惇「貴様らの相手は我々がしてやる！」

夏侯姉妹に道を塞がれた。

桃香「やめてください曹操さん！今は黄巾党との決戦でしょう！私達が争つても無駄なはずです！」

曹操「そういうわけでもないわ、こいつを放つておいたら危険な気がするのよ。危ない芽は早めに潰さないとね！」

アンク「ちつ！」

スツ

アンクは映司にメダルを投げよいつとするが

ピクンッ！

アンクは曹操から何かを感じ取った。

「アンク」（まさかこいつ、『アメダルを持つていいのか！？』）

黄巾党との決戦の前に小さな争いが始まっていた。

8 「始まりと曹操と覇道」（後書き）

西森「何だか最近（10／31）になってきて自分の中のライダー
ランキングは以前までは

- 1、電王
- 2、オーズ
- 3、クウガ

だつたのですがフォーゼが始まつた途端

- 1、電王
- 2、フォーゼ
- 3、オーズ

になつてきています。

フォーゼ×恋姫の小説があれば教えてください！

9 「兵數とじやくと昆蟲コンボ」（前書き）

前回の三つの出来事

- 一つ、黄巾党首領・張三姉妹の後ろに潜むヤマリーの卵
- 二つ、黄巾党本部に向かっていた映司達は曹操と出会いつ
- 三つ、曹操を馬鹿にした映司が斬られそうになるが曹操がコアメダルを持っていることをアンクが発見する

9 「兵数といふと染と咲田ノンボ」

ギラソツー！

曹操の突きつけた死神鎌・絶が映司の首を斬るつとある。

曹操「私を馬鹿にしたことのある世で後悔しなさい」

映司「くつー？」

桃香「映司さん！？」

映司に危機が迫ったその時！

アンク「ちよつと待ちなー！」

アンクが止めに入った。

映司「アンク、お前つてやつぱりいい奴、…」

映司は自分を助けようとしてくれるアンクに感動してこると

アンク「そいつの首ならいへりでもくれてやるー！」

ズコッ！

結構薄情な態度のアンクに映司達はすつこけた。

アンク「そんなことより曹操、お前メダルを持っていいだろ？！」

「

アンクが曹操に聞くと

曹操「”めだる”って何かしら？」

アンク「いつももんだよ」

スッ

アンクはコアメダルを曹操に見せる

曹操「ふう～ん、それが”めだる”といつものならば確かに最近拾つたわよ」

スッ

曹操は懐に手を入れると

曹操「へんな虫が描かれた硬貨をね！」

バンッ！

曹操は懐からクワガタメダルを取り出してアンクに見せつけた。

ちなみに曹操がへんな虫と言っているのはクワガタを知らないためである。（おそらくこの時代にはいないため）

アンク「メダルはお前が持つていっても何の役にも立たないからよこしゃがれ！」

アンクが言つと

曹操「いやよつ！何でこの私があなたの言つことを聞かなきやならないの？…どうしてもほしけりや、この男（映司）の首を切らせるか、関羽を…」

曹操が最後まで言おうとする

兵士「曹操様、大変でござります！？」

一人の兵士がいきなり現れた。

夏侯惇「貴様、華琳様に何の用だ！」

夏侯淵「落ち着け姉者、それでどうした？」

夏侯淵があらためて兵士の話を聞こうとする

兵士「それが、黄巾党の奴らを見張つていたら、いきなり大きな天幕が破れて化け物が暴れてるのです！」

曹操「何ですつて…？」

黄巾党本部

現在この場所では

黄巾党「うわーつー？」

ダダーッ！－

大勢の黄巾党達が逃げていた。

何に逃げていたのかといつと…

土蜘蛛ヤミー「ギャシーツ！！」

いきなり中央にあつた巨大天幕が破れてそこから多数の土蜘蛛ヤミーつちぐもが現れたのだった。

こいつらは黄巾党首領である張三姉妹の有名になりたいといつ欲望から産まれたのだった。

ちなみにその張三姉妹はといつと

天和「いや～ん！はなしてよー！」

地和「ちい達にこんなことしてただですむと思つてゐの！」

人和「蜘蛛は嫌い」

三人は土蜘蛛ヤミーの出した糸に捕まつていた。

これを見た映司達と曹操達は

曹操「何なのよあの化け物は！？」

映司「説明は後にするよー アンク、メダル！」

アンク「しつかり稼いでこいよ！」

スツ！

アンクが映司にメダルを渡そうとする

夏侯惇「華琳様、あの化け物は私にお任せください…いくぞ者共…」

「

ダダーッ！！

夏侯惇がたくさんの中を連れて土蜘蛛ヤミーに向かっていく。

曹操「春蘭！？ しうがないわね、秋蘭、春蘭を援護しなさい！」

夏侯淵「わかりました」

そして土蜘蛛ヤミーに向かっていった春蘭達は

兵士「この化け物めーつ！！」

ギランシ…

一人の兵士が土蜘蛛ヤミーに剣を向ける。

土蜘蛛ヤミー「ペギーッ…」

ブシュッ…

だが土蜘蛛ヤミーが吐き出した紫色の液体が兵士に当たると

ジユジユーツー！

兵士「ああーつー？……」

兵士は剣も鎧も骨も残らずに溶かされてしまった。

それを見た兵士達は怯え出す。

兵士「ここつと戦つたら溶かされてしまいだぞー！？」

兵士「冗談じゃない！怪我ならともかく骨すら残らないなんて嫌だつー？」

ダダーッ！！

恐怖を感じた兵士達は次々と逃げていく。

夏侯惇「こひ貴様ら！逃げるでない！」

残つたのは夏侯惇ただ一人だった。その夏侯惇も逃げた兵達を追つていった。

そしてその様子を見た曹操は

曹操「何でなのー？数ではあきらかにこいつが上だといつのにー？」

「

あんなにたくさんいた兵士が逃げていったのを曹操は驚いていた。

映司「俺のいったことがわかったかい？いくら数が多くても恐怖つ

てのは伝染するものなんだよ！」

簡単に言つと一人が怯えると他の人まで怯えるといつことなのだ。
(分かりにくくてすみません)

だが曹操は

曹操「兵がいかないのなら私が行くわ！」

バツ！

兵士が全員逃げたのにもかかわらず、一人で戦おうとする曹操。だが…

土蜘蛛ヤミー「ペギー・ツー！」

ブシユツ・ツー！

土蜘蛛ヤミーの吐き出した毒液が曹操の鎌に当たり

ジユジユーッ・ツー！

鎌は柄を残して溶かされてしまった。

曹操「私の鎌が！？」

そんな曹操に追い討ちをかけるよつこ

ザザツ・ツー！

土蜘蛛ヤニー達が曹操を囲む。

夏侯惇「華琳様！？」

あのまま一斉に毒液を噴射されたら曹操が溶かされてしまつ！？

夏侯惇が叫んだその時

映司「一つ訂正しておくれ、確かに恐怖は伝染するけれども……」

シユツ！ パシツ！

アンク「フンツ！」

映司はアンクが投げたメダルを受けとると

映司「勇氣つてのも周りに伝染するんだよね」

力チャ力チャンツ！

キンキンキンツ！

映司「変身！」

映司はメダルをオーズドライバーにセットしてオースキヤナーでスキンянせると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンツ！

映司は仮面ライダー オーズに変身した。

夏侯惇「何なのだ貴様は！？」

「オーズ」話は後で、それじゃ

バツ！

オーズは曹操を助けるために土蜘蛛ヤミーに向かう。

オーズ「ハツ！」

ズバツ！

オーズはトラクロード真空の刃を作り出して土蜘蛛ヤミーを切り裂いていく。

オーズ「曹操さん大丈夫！？」

曹操「その声、あなたはさつきの男！？その姿は何なの？」

「オーズ」説明は後で…

曹操「いま言いなさい！でないと首を切るわよ！」

「オーズ」簡単に言つとこ~~れ~~は仮面ライダー オーズだよ

曹操「おーす？」

二人が話している間に

土蜘蛛ヤミー「ギャシーッ！？」

土蜘蛛ヤミー達が一人を囲もつとする。

愛紗「映司殿、回りを囲まれてますぞー！」

オーズ「えつ？」

愛紗の声を聞いたオーズが回りを見てみると

ズラリッ！！

回りは土蜘蛛ヤミー達に囲まれていた。

オーズ「しまつたー？」

オーズが今さら驚くと

ブショュシュッ！！

土蜘蛛ヤミーの吐き出した毒液が一人に襲いかかる。

オーズ「うわつー！？曹操、捕まつてー！？」

曹操「何なの？」

ガシッ！

オーズは曹操を抱くと

バチバチッ！ ビヨンッ！

脚をバッタに変化させて跳んだ。

ジユワツ！

オーズ「ぐはつ！？」

だが腕に毒液がかかつてしまつた。

アンク「映司、メダルを換えろ！」

シユツ！ パシッ！

アンクが投げたメダルを受けとるオーズ

カチャツ！ キンキンキンッ！

そしてメダルを入れ換えてスキヤンさせると

ドライバー『タカ・カマキリ・バッタ』

ジャキンッ！

オーズはタカキリバに変身した。

オーズ「ハツ！」

ズバツ！

そしてオーズは着地地点にいた土蜘蛛ヤミーをカマキリソードで切り裂いていく。

だが土蜘蛛ヤミーの方が数が多い

オーズ「これじゃあきりがない！？」

オーズが困っていると

アンク「ちつ！映司、曹操から無理矢理メダルを奪い取れ！…そうすりやあんなヤミーなんて軽く倒せるんだよ！」

曹操の持つクワガタメダルを奪うよう映司に言ひアンク、だが優しい映司にそんなことができるわけがない。

そんなとき

スツ

曹操「私の考えが間違っていたのを教えてくれたのと私を助けてくれたお礼にくれてあげるわ！」

曹操が映司にクワガタメダルを渡した。

アンク「最初から寄越せばいいんだよ！映司、それを使え！」

アンクが指示すると

オーズ「ありがとう曹操」

力チャツ！ キンキンキンッ！

そしてオーズはメダルを入れ換えてスキヤンさせると

ドライバー『クワガタ・カマキリ・バッタ』

ドライバー『ガタガタガタキリバ！ガタキリバ！』

ジャキンッ！

オーズは新たな形態、ガタキリバコンボに変身した。

愛紗「姿が変わった！？」

鈴々「もしかしてあれが”こんば”つてやつなのかなのだ！？」

夏侯惇「あやつは一体何なんだ！？」

夏侯淵「落ち着け姉者、とりあえずあやつを見守ろ！ではないか」

そしてガタキリバに変身したオーズは

ヴィンヴィンッ！！

多数の分身体を作り出すと

ガタキリバコンボは自分の分身を最大50体まで作ることが可能なのだ。

オーズ達『ハツ！』

ババツ！！

一斉に土蜘蛛ヤミーに向かっていく。

ズババツ！！

そして数で圧倒する土蜘蛛ヤミー相手にオーズ達は土蜘蛛ヤミーを切り裂いていく。

土蜘蛛ヤミー「ギャシーッ！？」

ガササツ！！

そして負けそうになつた土蜘蛛ヤミー達が逃げようとする

オーズ達『逃がすかよ！』

キンキンキンッ！

ドライバー『スキンニングチャージ！』

一斉にスキンニングチャージしたオーズ達は

オーズ達『ハツ！』

ババッ！

バッタの脚力で高く飛び上がり

オーズ達『せいやーつ！！』

バババッ！

一斉に必殺のガタキリバキックを繰り出していった。

ドカ力カ力カッ！！

そして見事オーズ達のキックが土蜘蛛ヤミー達に命中し、

土蜘蛛ヤミー達『グギャーッ！？』

ドッカーンッ！！

爆発していった。

カチャンツ！ シュンツ！

そしてオーズが変身を解いて映司に戻ると

映司「久々のコンボは疲れた」

バタリツ！

映司はその場に倒れた。

じぱいくして

映司が倒れている間に他のみんなは土蜘蛛ヤミーの糸に捕まつて、
た張三姉妹を救出し、彼女達から事情を聞くと

曹操「だったらこの娘達の処分は私に任せてもらうわ、悪いようこ
しないから安心しなさい」

張三姉妹は曹操に引き取られることになった。

そして桃香達は

桃香「私達も早く白蓮ちゃんのところへ帰らつか」

鈴々「帰りは絶対鈴々が”ばいく”に乗るのだ！」

愛紗「こり鈴々！映司殿は疲れているからまた今度にしておけ！」

アンク「フンッ！ガキが！」

映司「ははは！」

そして映司達が去ろうとする

曹操「ちよつと待ちなさい！」

曹操が映司を呼び止めた。

曹操「あなた、名前は何で書つの？」

今さらだが曹操が映司に名前を聞くと

映司「俺の名前は火野映司。真名ってのはない」

と言つた映司に対し

曹操「助けてくれたお礼に私の真名を預けるわ、私の真名は華琳よ。覚えておきなさい映司」

スツ

そして華琳は去つていった。

夏侯惇「華琳様を助けてくれたお礼に私も真名を預けよう。私の真名は春蘭だ」

夏侯淵「では私も華琳様を助けてくれたお礼に真名を預けよう。私の真名は秋蘭だ」

こうして曹操達から真名を預けられた映司だった。

9 「兵数とじやくと昆蟲コンボ」（後書き）

COUNTS MEDAL

現在オーズの使えるメダルは

タカ	2
トラ	1
バッタ	1
カマキリ	1
チータ	1
クワガタ	1
1	1

10 「政務と竹籠と黒幕」（前編）

9 話題を少し改良してみました。

黄巾党を事実的に壊滅させた映司達は無事に白蓮の元に帰りつめ、仕事を続けることにした。

白蓮の城

桃香「ふえ～つ！疲れるよ～！」

最近まで黄巾党を攻めていたためたまつっていた仕事に苦戦する桃香しかも桃香の場合、行く前から仕事を溜め込んでいたためその量は映司達より多いのだ。

今の桃香達の身分は白蓮の密将（雇われ兵）だが、仕事を覚えるために仕事をする桃香だった。

映司「ほら桃香頑張つてよ！俺も手伝つてるんだからさ」

桃香「大体どうしてみんなは仕事してないの？」

ブクーッ！

桃香が膨れつ面をしていると

アンク「当たり前だろ？がお前と違つて映司達は出掛けの前にあらかじめ後から来る仕事も終わらしてからな、サボつて町に行つてお前とは違つんだよ」

アンクの言つ通り桃香は仕事をこつそつ抜け出しては町に遊びにいって子供達と遊びまくっていたのだ。

だがそんな手が何度も続くと仕事が溜まり、仕事の納期がやつてしまつたため今日中に終わらせてはならない仕事がたくさんあるのだった。

鈴々ですら毎日遊んでこるように見えているが武官なので文官より仕事が少なく、愛紗に言わされて仕事をしていたため仕事は終わっている。

愛紗や映司は眞面目タイプなため仕事は早めに終わらせていく。

アンクは仕事をしていない（アンクいわく、何で俺が仕事しなくちゃいけないんだ！のこと）

朱里と離里は最近やつて来たばかりなので仕事はない

ところがで仕事があるのは桃香だけなのだ。

桃香と映司が桃香が残した今日中にやらなければならぬ仕事をしていると

ガチャリッ！

政務室の扉が開いて

鈴々「お兄ちゃんー遊びなのだー！」

鈴々がいきなり入ってきた。

映司「鈴々、いま俺は桃香の仕事を手伝つてゐるからまた後でね」

映司が言つと

鈴々「嫌なのだー！昨日お兄ちゃんが勉強したらバイクに乗せてくれる約束したのだ！」

実は昨日、どうしてでもバイクに乗りたいといつ鈴々に対して映司が『それじゃあ勉強したら乗せてあげるよ』と言つてしまい鈴々はバイクに乗りたいがために勉強したのだった。

駄々をこねる鈴々

映司「仕方ない、その辺走つてくるからひょっと抜けるね」

スツ

映司が政務室から出ていくとあると

アンク「映司、用心のために一応持つときな」

シユツ！ パシツ！

アンクが投げたのはタカ・トラ・バッタのコアメダルとバッタカンドロイドだった。

映司「サンキューアンク！」

アンク「フンッ…お前が死んだらメダル集めができないからだ。行くならさつとといけ！」

映司「わかったよ」

ガチャーンッ！

そして映司は出ていった。

桃香「ふえ～ん！アンクちゃん手伝つてよ～！」

アンク「ちやん付けするな！」

もちらんアンクは桃香の仕事を手伝わなかつたといつ

そして映司達は

プロローグ！

鈴々「キヤッホー！なのだ～！」

町の外をライドベンダーで走つていた。

映司「（それにしても最近現れてないけど俺とアンクをこの世界に連れてきたあいつは今ごろ何してるんだらうな～？）」

実際は映司達が出会つていないだけで謎のグリードはこの世界で暗躍しているのだ。

鈴々「お兄ちやん、もっと早く走るのだ！」

映司「わかったよー。じぱすからしつかり捕まつていでね。」

プロローグ！

ライドベンダーのスピードをあげる映司

そして夢中になつてこる間にもう田が暮れてしまった。

鈴々「お兄ちゃん、急がないと」「飯が食べられないのだ！」

映司「待つでよー。」

町中ではバイクを走らせたら事故になりかねないのでライドベンダーを押す映司

そんなとき

？「ちよつとわいの兄さん。」

映司「えつ？」

映司は近くにいた露店商に呼び止められた。

？「そこの兄さん、竹籠たけかご買つてくれへんか？いまなら割り引きするで！」

竹籠を買つよつすすめてくる露店商

さいわいにも映司は愛紗から少しのお金をもらつていたので優しい

性格の映司は

映司「一つ買います！」

竹籠を買ひにいった。

？「毎度ありやで、それにしても兄さんすゞに絡繰り（カラクリ）を持つてゐるやな～」

露店商はライドベンダーを見つめる。

映司「これはバイクといつ乗り物だよ。それじゃあまたね」

そして映司は去つていった。

？「ばいぐねえ～、いすれウチもあんなん作つてみるかな～」

露店商が考えていると

？「真桜ちゃん！」

？「真桜！」

ダダッ！

露店商の元に全身に傷のある銀髪の女の子と眼鏡をかけていて海老の尾のような形に髪を結んだ橙色の髪の女の子がやつて来た。

真桜「おおーっ！沙和に屈かいな、見てみい親切な兄さんが買つてくれて竹籠一つ売れたでこれでウチの勝ちやな！」

真桜が威張ると

沙和「ちっちっちっ！真桜ちゃん甘いの、沙和も小さな二人連れの女の子に買つてもらつて一個売れたから沙和と真桜ちゃんの勝ちなの」

「

真桜「何やて！？ほな凪がビリつけで決定やな」

沙和「最下位の人はみんなに晩御飯を奢るつて約束だつたなの」

にたにた

にやけながら凪の方を見る一人

凪「悪いが私は黒髪のきれいな人から竹籠を二個買つてもらつたら断じて私はビリではないぞ」

ビシッ！

凪が言うと

ガーンツ！？

ショックになる一人

沙和「こうなつたらじゃんけんで決着をつけるなの〜！」

真桜「のぞむとこや！負けた方が晩御飯奢るんやで！」

凧「どうでもここから早くしてくれ」

結局この後、一人のじゃんけんは相子が続きまくり決着がついた頃には夜になっていたという

白蓮の城

映司「あれっ！？みんなも買ひちゃったの！？」

帰ってきた映司はみんなの手に竹籠があるのに驚いていた。

愛紗「露店商の話を聞いていましたら同情しちゃいました」

朱里「私達はやおい…本を買つているのを見られてしまって止め料として買つちやいました」

桃香「いいなー！みんなはお出掛けできて」

プクーッ！

まるで口の中に何かを入れたハムスターの類袋のように膨れる桃香

愛紗「何いっているのですか！もとはといえば桃香様が仕事を溜め込んでいたせいでしょうが！今日中に出さなくてはならない仕事もありますから今夜は徹夜ですよー」

桃香「ふえーんー！愛紗ちゃんの鬼ー！」

今日も映司達は平和だった。

それから数日が経ち

白蓮「元気でな桃香」

桃香「白蓮ちゃんも元気でね」

桃香達が白蓮のもとから去る日がやつて來た。

そして

趙雲「では伯佳殿、私も去らせてもらひ

趙雲が言つと

白蓮「待てよ趙雲！？お前まで去るのか！？」

驚く白蓮に対して

趙雲「さよつゝ、この者達にはこの城を助けてくれた借りがありますのでな、その借りとして私がこの者達の仲間になるのが普通でしょう」

といつ趙雲だが本音は

趙雲「（これ以上伯佳殿のところにいたり出番が減るかもしけぬからな）

であった。

白蓮「仕方ない、お前に口で勝てるわけないし桃香達に恩を返すの

が普通だから行つていいーーー

趙雲「ありがとひざわこました

スツ

そして趙雲は桃香達につけていくことになった。

趙雲「劉備殿、我が名は趙雲子龍、真名を星と申します。以後お見知りおきを

桃香「ありがとひづ星ひやん 私の真名は桃香だよ

そして愛紗達も星と真名を交換しあい、

映司「俺は火野映司、よろしくね星ーーー

星「ひづひやんです映司殿 それとひづひやんアンゴウ殿でしたかな
? 」

アンク「俺の名はアンクだーーわざと間違えるんじやねえよぶつ殺す
ぞーーー

桃香達に笑い風が吹いたのだった。

そしてその頃

名も無き城

? 「くそつーーー

ドンッ！

この場所で謎のグリードが怒り狂っていた。

？「やはり生半可な欲望じや強いヤミーは産まれないか、おまけにアンクが飛び掛かったときにコアメダルを数枚落としたのは誤算だつたぜ！」

謎のグリードが強いヤミーが産まれないことにイラついていると

？「貴様の力はその程度なのかラグル！」

何処からか声が聞こえてくる。音の出を探してみると

ゴポゴポッ

縁の液体が入つた培養ケースの中に入っていた。

ちなみにラグルとは謎のグリードの名前である。

ラグル「わかつてるよ、あんたが俺を石版の中から出してくれた上に外史の存在を教えてくれたおかげで俺は好きに暴れられるんだからな」

ラグルは元々強力な力を持つていたため800年前、メダルが作られてすぐに石版に封印されたのだった。

だが培養ケースに入つていた人物が封印を解いてしまったためこの外史にやつて来たのだった。

？「仮面ライダー、俺にとつて腹はらが立つ存在だ！奴には恨みはないが同じ仮面ライダーなのだから然まことに程変わらないだろう。それよりもうすぐ大きな戦いが起きる。それを利用すればオーズなんて軽く倒せるぜ！」

ラグル「わかった。ありがとう左慈」

バンッ！

培養ケースに入っていた人物、それは西森の別作品『俺、参上！』に登場し、電王一刀に敗れて爆死したはずの左慈であった。

左慈「（電王に敗れた時は死ぬかと思ったがその時発生した時空の歪みに入つて脱出した先がオーズの世界だつたとはな、まあそのおかげでラグルを復活させ仮面ライダーに逆襲するという俺の野望が叶つたわけだがな。だが体のダメージがでかすぎていまはこうしてセルメダルによつて回復しなくてはいけないが待つてろよ仮面ライダー！お前は必ず俺の手で殺してやるぜ！）

意外な黒幕がいたのだった。

ヤミーファイル

・土蜘蛛ヤミー

多数で発生するタイプのヤミー。吐く糸は強力な強度をもち、吐く毒液は鉄や骨すらも溶かすほど強力

・ラグル

鬼の頭・天狗の鎧・九尾の狐の脚を持つ妖怪系グリード。その力は強力でウヴァ達を一人で倒し、800年前に封印されたほど、ヤミーの産み方は様々である。

名前の由来は争いの英語であるストラグルから

11 「脱走と时间稼ぎと孙策」

白蓮の元を離れた桃香一行は旅を続けていた。

ちなみに桃香が城を出る時白蓮の城にいた兵士達全員が『劉備様と共にいきます!』と言っていたが白蓮の泣きによる説得と桃香が拒否したことにより兵士達をつれていかないことになった。

そして映司達があてもない旅をしている頃、

吳の国・建業

? 「雪蓮! 雪蓮はどこだ! 」

眼鏡をかけた黒髪色黒の女性が誰かを探していた。

とその女性のもとへ

スツ

? 「どうしたのだ冥琳? 」

桃色のショートカットっぽい髪型(西森に知識がないだけです)をした女性が現れた。

冥琳「これは蓮華様、失礼ですが雪蓮を知りませんか? 」

冥琳という女性が聞くと

蓮華「姉様か？今日はまだ見ていないがどうしたのだ？」

〔冥琳〕「あの人ときたらこれから袁術殿と会わなければならぬのに『つるさいがきんちょの相手なんてしてられないわよー』という書き置きを残して勝手に城を出ていかれたのです！」

蓮華「何だと！？」

蓮華は驚く。実は雪蓮という女性はし�ょっちゅう城を抜け出すため城の者はみんな困り果てていたのだ。

〔冥琳〕「早く見つけないと袁術殿のことだからわがままを言いまくるに違いありませんよ！」

頭を悩ませる〔冥琳〕

蓮華「仕方がない、袁術殿には次期王である私がお会いする。その間になんとしてでも姉様を探し出してきてくれ！」

指示を飛ばす蓮華

〔冥琳〕「わかりました」

急いで捜索隊の準備をする冥琳だが時はすでに遅く

兵士「周瑜様、袁術様がやつてこられました」

〔冥琳〕「もう来てしまつたのか！？」

ちなみに周瑜とは冥琳の名前であり、冥琳は真名である。

そしてとうとう袁術が玉座の間にたどり着いてしまった。

玉座の間

そこにいたのは

？「七乃へ、孫策はまだかえ？」

七乃「お嬢様、孫策さんはお嬢様に会う準備に時間がかかるんですよ。のろまな家来を持つと大変ですね～」

？「大変なのじゃ～」

このお嬢様と呼ばれている金髪の小さな女の子が袁術（真名は美羽）、七乃と呼ばれているバスガイドみたいな格好をしている女の子が袁術の側近の張勲である。ちなみに孫策とは雪蓮の名前である。

二人が少し待つていると

蓮華「これはこれは袁術様、ようこいらっしゃいました」

袁術を出迎える蓮華

美羽「お主は確か孫策の妹の…」

七乃「お尻が大きいので有名な孫權さんですよお嬢様」

美羽「おお、そうじゃったケツでかオババの孫權じゃつたな～」

なんでじやがいも頭の五歳児の台詞を知つてゐる?

わざわざからケツでかと言われ、いつもならすぐ怒る蓮華だったが

蓮華「確かにその通りですね」

「少々

その顔は笑顔だった

…のだが

ピキピキッ

こめかみの方に青筋が立ちまくつていた。

蓮華「（なんて子なの！姉様が会いたくない気持ちもわかるわ）

」

蓮華が美羽に対して怒りを感じていると

美羽「（といひで孫策はどう）にあるのじや？」

きょわきょわ

この場にいない孫策を探す美羽

すると蓮華は

蓮華「孫策姉様でしたら胸が重いせいできつくり腰になつたみたい

です」

自分を美羽に当てた罰としてでたらめを言つ蓮華

普通ならそんなわけがあるもんかと氣付くのだが

美羽「なんと…やはり胸が大きいと大変じゃな」

七乃「ですよね～お嬢様、ですから私はお嬢様みたいな貪乳がいいと言つてるじゃないですか」

美羽は少しばかり足りなかつたようで、七乃はわかつていていたがえて言わないタイプだつた。

蓮華「（単純ね）ですから姉様の腰が治るまでこちらをお飲みください」

ガララーッ

蓮華が侍女に用意させたテーブルの上には

ジャーンッ！

大量の蜂蜜水がグラスに入れられていた。

これを見た途端美羽は

美羽「おおーっ！蜂蜜水なのじゃ～」

美羽は蜂蜜に目がなかつた。

美羽「早速飲みながら待つのじゃ七乃！」

七乃「はいっ！」

蓮華「（これでしばらく時間が稼げる）

「

呉の城が大変な頃、城を抜け出した雪蓮はといつと

雪蓮「あ～あ、せつかく袁術から解放されてのんびりしようと思つたらお金忘れたなんて災難だわ」

城を抜け出した孫策」と雪蓮はとある町に来ていた。だが財布を忘れてしまい大好きなお酒も飲めないでいたのだ。

雪蓮「王様の身分を利用してタダ飲みすると冥琳が怒るからなあ～、どうしましょ～う？」

雪蓮が考えていると

雪蓮「んつ？ あの人達見かけない人ね」

とある飲食店にいた映司達を見つけた。

アンク「ちつ！ 現在俺達が持っているコアメダルが6枚、あのグリード（ラグル）が数枚、残りのメダルはどこにあるっていうんだ？」

「

アンクがなかなかメダルが集まらないことに悩んでいると

鈴々「アンコのお兄ちゃん！」飯食べるのだー！」

アンク「うむせえ！ 黙つて食つてろー！」

じつじく構つてぐる鈴々を遠ざけるアンク

映司「それにしてもこれかうじつするの？」

桃香「うーん、といつてもあてもないしのんびり旅でもしようかな

」

愛紗「何を言つていいのですか！ 桃香様はいづれ太守にならなければならぬのです！ そんな気分では困ります！」

星「愛紗よ落ち着け、桃香様がのんびりなのは昔からなのだから。そういう性格は簡単には直らんのだから仕方あるまー！」

愛紗「それでは困るのだー必ず太守になれば…」

愛紗が最後まで言おうとする

雪蓮「太守つてそんなにいいものなの？」

ヌツ

雪蓮がいきなり輪に加わってきた。

朱里「はわわー！ あなたは誰ですか！ ？」

雪蓮「そんなことより…」

よろづつ ぐきゅーつ！

雪蓮「お腹空いた」

バタリツ！

映司達の前に倒れ混む雪蓮

しばらくして

ガツガツッ！

雪蓮「フーッ！満腹満腹、じちそつせん」

映司「驚いたよ今どき空腹で倒れる人がいるなんて！？」

雪蓮「あら、私だって驚いたわよ見ず知らずの私にご飯おごる人がいるなんてね」

映司「困ったときはお互い様だよ、人間助け合わなくっちゃさ」

空腹で倒れた雪蓮を助けようといったのは映司だった。

アンク「つたく映司のお人好しにもホントに呆れ…」

アンクが最後まで言おうとする

ピキンツ！

アンクは雪蓮から何かを感じ取った。

アンク「おい女！」

雪蓮「私の名前は雪蓮よ。何な^{トサカ}の金髪鷄冠君？」

雪蓮的には「ちそうになつたお礼に真名を勝手に『えた』のだつた。（本名を『うつ』と驚かれてしまうのも理由のひとつ）

雪蓮に言われたアンクは

スツ

アンク「お前からメダルの氣配を感じるんだよ。お前、こいつに似た硬貨を持っているだろう！」

アンクは雪蓮にタカコメダルを雪蓮に見せると

雪蓮「どれどれ…ああ、これなら…」

スツ

雪蓮は自分の胸の谷間に手を入れると

雪蓮「これでしょ！」

スツ

雪蓮は胸の谷間に一枚のメダルを取り出した。

映司「どうから出してるの！？」

雪蓮「女の子は谷間に物を入れるものなのよ それよりこれは何なの？毛の生えた虎みたいな動物が描かれているけどさ？」

ちなみに雪蓮が取り出したのはライオンコアメダルである。

アンク「お前は知らないいいんだよ…それをよこせ…」

シユツ！

ライオンコアメダルを見た途端アンクは雪蓮からメダルを奪うために襲いかかる。

だが

パシツ！

アンク「なに？！」

雪蓮がアンクの手をつかみ

雪蓮「てえいっ！」

ボンツ！！

アンク「うおつ！？」

ドッシーンツ！

背負い投げの要領でアンクを投げ飛ばした。

アンク「くそつー何で」の世界の女はみんな馬鹿力なんだよー!?」

アンクが悔しがっていると

雪蓮「あなたねえ、私を誰だと思つてゐるの」

雪蓮「私は県の国・建業の王、孫策伯符のよ」

雪蓮が言つと

映司「孫策だつてー?」

孫策といつたが前に驚く映司だつた。

12 「勘と核と猫系コンボ」（前書き）

前回の三つの出来事

- 一つ、雪蓮」と孫策が城から脱出
- 二つ、脱出した雪蓮が映司達と出会い
- 三つ、雪蓮はライオンコアメダルを持っていた

12 「勘と核と猫系コンボ」

孫策といつも前に驚く映司

「」の小説の映司は三国志の知識があります

映司「（確かに孫策つて、呉の国の王様で最後は曹操の兵が放った毒矢で命を落としたんだっけ！？）」「

じ～つ

映司が孫策こと雪蓮を見つめていると

雪蓮「あらやだつ！ いくら私が美人だからって見つめられたら照れちやうわ／＼／＼」

雪蓮が照れていると

アンク「照れてる場合ぢゃないだろ？ お前が持つていても意味がないんだからさつさとそのメダルを寄越しやがれ！ じゃないとぶつ殺すぞ！」

アンクが乱暴的に言つと

雪蓮「いやよつ！ これを持っていたら何かいいことが起きるつて私の勘が冴えてるのよ。私の勘つて当たるんだから」「

アンク「はあ？ 勘なんかを信じるなんてお前バカじや…」「

映司「よせよアンク！お前だってヤニーがメダルを持っているかも
つていう勘があるだろ。人によつて勘は信じる信じないがあるんだ
からいいじゃないか！」

雪蓮「きみつて案外良いことこのじやない」

雪蓮が映司を讃めると

ポイツ！

うつかりライオンコアメダルを投げてしまつた。

アンク「今がチャンスだ！」

その隙をアンクが見逃すはずがなく

シユツ！

アンクは腕を飛ばした。

右腕だけが完全なアンクは体を残して右腕を飛ばすことができる
のだ。

愛紗「アンク殿の腕が飛んだ！？」

鈴々「おまけに腕が飛んだりきなりアンコのお兄ちゃんが倒れた
のだ！？」

アンクが腕を飛ばすと体を借りている泉信吾の肉体が倒れるのだつ
た。（ちなみに腕が体から離れて数分経つと泉信吾は死ぬのだ。）

アンク「コアメダルはもうつたぜ！」

アンクがライオンコアメダルに触れようとしたその時

パシッ！

アンクの後ろから何かが追い抜いてきてコアメダルを奪つていった。

アンク「何者だ！？」

アンクが叫ぶと

水虎ヤミー「ゲシシッ！」

アンクを追い抜いたのは水虎ヤミーだった。

水虎^{すじこ}…カツバの一種、姿は様々だがここでは虎に近い姿になつている。

映司「ヤミーが出るなんて！？」

雪蓮「あの化け物は何なの？」

みんなが水虎ヤミーに驚いている

水虎ヤミー「ゲシシッ！」のメダルを返してほしくば俺を倒すこと

だな

ボワッ！

そして水虎ヤミーの後ろから脣ヤミー達が現れる。

アンク「ちつ！」

スツ

アンクは腕を体に戻すと

ムクッ！

アンク「映司、こんなヤミーなんてさつさと倒してしまえ！」

シユツ！ パシツ！

立ち上がったアンクは映司にメダルを投げ、見事受けとる映司

映司「ヤミー相手なら仕方がない！」

力チャ力チャンッ！

キンキンキンッ！

映司「変身！」

映司はメダルをオーズドライバーにセットしてオースキヤナーでスキンンさせると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

映司は仮面ライダー・オーズに変身した。

変身した映司を見て

雪蓮「あれって何なの！？」

一人驚く雪蓮

オーズ「説明はあとでするよ。ヤマハは俺がやるからみんなは肩や
ミーをお願い！」

愛紗「わかりました！」

鈴々「合点なのだ！」

星「御意！」

バツ！

ヤミー達に向かっていく映司達

桃香「私達は邪魔にならないように隠れてよしね！」

朱里「はいでしゅ！」

桃香達が安全のため建物の陰に隠れようとしていると

雪蓮」（むくむくつ）

「雪蓮さんどうしたんでしゅか？」

いきなり雪蓮の体が震えだし、難里が心配して聞いてみる。

あると

雪蓮「戦いは私に任せなさい！」

ジャキンツ！

雪蓮は隠れずに愛剣・南海霸王を片手に戦いの中に入つていつた。

そして戦場では

オーズ「せやせやせやつ！」

水虎やミー「ぐほほつ！？」

オーズが水虎ヤミーをトラクロード切りつけていくが

「水虎ヤミー、『なうんてな、そんな攻撃は効かないぜ！』

ズブブツ

体を液体化できる水虎ヤミーに打撃技は効いていなかつた。

オーズ「こんなのがりなの！？」

水虎ヤミー「ゲシシッ！俺に打撃と投げは効かないぜ！」

水虎ヤミーに苦戦するオーズ

アンク「くつ！ 使えそうなメダルがない！」

今、この窮地を脱出できる方法があるとしたらそれは水虎ヤミーのもつライオンコアメダルの力である。

水虎ヤミー「ゲシシッ！ オーズ、お前には俺の取つて置きの技を食らつてもいいぜ！」

すると水虎ヤミーは

ズブブツ！

一度体を水にすると

水虎ヤミー「食らいやがれ！」

バシャツ！

オーズ「！？」

オーズに液体化した自分をかけた。その瞬間…

オーズ「なつ！？」

ズブブツ！

液体化した水虎ヤミーはオーズの体を包み込んでいく

オーズ「！」はつ！？息ができない！」

今のオーズは水の中「」いるのと同じなのだ。

水虎ヤミー「ゲシシシ！」のまま溺れ死なせるのもいいがもつと面白くしてやるぜ！」

水虎ヤミーが囁つと

めきめきつ！

オーズ「体が絞まる！？」

水虎ヤミーは水圧を変化させてオーズを潰そうとする。

愛紗「映司殿！？」

鈴々「お兄ちゃん！？」

ダダッ！

水虎ヤミーは水圧を変化させてオーズを潰そうとする。

愛紗「いま助け出しますからね！」

鈴々「引っ張り出すのだ！」

「

ずぱつ！

二人がオーズを水から引き抜くため水に触れた瞬間

ズブブツ！

愛紗「なつー？」

鈴々「引きずり込まれるのだ！？」

逆に愛紗達が水に引きずり込まれていく

星「愛紗！鈴々！」

雪蓮「いま助けるからね！」

ガシッ！

星と雪蓮は愛紗と鈴々が引きずり込まれないよう引っ張りあげるが
どんどん引きずり込まれていく

水虎ヤミー「ゲシシッ！」のまま全員水圧で潰してやるぜ！

オーズ「ここのヤロー！」

じたばたつ

オーズは水虎ヤミーの中で必死に暴れまくる。

水虎ヤミー「んなことしたって俺は痛くも痒く（かゆく）も…」

ところがだ

ドカッ！

水虎ヤミーの中へ暴れていたオーズの腕が何かに当たり、その瞬間

水虎ヤミー「ギャーッ！？」

シユバツ！

いきなり水虎ヤミーが痛がつてオーズから離れ出した。

しかもその時に

ポイッ！

持っていたライオンコアメダルまで投げてしまい

アンク「いただきだぜ！」

パシッ！

ライオンコアメダルはアンクに奪われてしまった。

愛紗「大丈夫ですか映司殿！？」

オーズ「ゲホホッ！助かったけど一体何が起きたんだ？」

オーズが水虎ヤミーが離れた理由を考えていると

朱里「わかりました！」

遠くで戦いを見ていた朱里が何かをひらめいた。

朱里「おそらく映司さんの攻撃が当たったのはヤミーの核（いわゆる心臓のようなもの）だったんですよー。だから痛がつて離れたんです！」

簡単にいうと水虎ヤミーは自分の体の中にオーズを入れたため弱点である核を攻撃されたため離れたのである。

オーズ「ってことは、核を攻撃すれば倒せるわけか…そうとわかればもう一度攻撃してやる！」

ところがそうもいかない

水虎ヤミー「ゲシシッ！弱点がわかつたからって勝てると思つなんよ！」

シユババッ！

水虎ヤミーは水を使って自分の分身体を大量に作り出した。

水虎ヤミー達『体に入れなければ俺達の勝ちだ！さて本物がどれだかわかるかな？』

確かに外からでは核の位置がわからないのであった。

だがさつきまでと違う点が一つだけあった。それは…

アンク「映司！多少体が辛いだろうが持ちこたえろ！」

シユツ！ パシツ！

アンクはオーズに一枚のメダルを渡し、見事受けとるオーズ

オーズ「確かに大変だけどコンボをやるしかない！」

力チャカチャンツ！

キンキンキンツ！

オーズはメダルをオーズドライバーにセットしてスキャンせると

ドライバー『ライオン・トラ・チーター』

ドライバー『ラタラタ、ラトラーター！』

ジャキンツ！

オーズは新たな形態であるラトラーターコンボに変身した。

愛紗「あれが前に言つていた”らとらーたー”か！？」「

鈴々「カッコいいのだ！」

雪蓮「また変化するなんですか！じゃない

そしてラトラーターコンボにチーンジしたオーズは

オーズ「みんな離れて！」

全員『えつ？』

パアーツ！

いきなり全身を光らせると

ビカツ！！

川の水をも蒸発させる熱線・ライオディアスを放出させた。（変身したら勝手に放出するため制御不能）

桃香「あつい～つ～？」

オーズ「めんなさい！」

オーズが予め教えたおかげでなんとか助かつたがこの技は近くに人がいると危ない技である。

アンク「謝っている場合かー。ヤミーを見てみろ！」

もちろんライオディアスを食らったのは桃香達だけではなく

水虎ヤミー達『ギャーッ！？』

ジユジユ～ツ！！

熱線を食らった水虎ヤミーの分身体は水で作られているため次々と

蒸発されていき

水虎ヤミー「なつ！？」

残るは一人となつた。

しかも残念なことに

くつきり

熱線を食らつたせいで液体化ができなくなり隠されていた核が浮かび上がつてしまつた。

水虎ヤミー「ヤバイ！？逃げないと！？」

ダダツ！

水虎ヤミーは慌てて逃げようとするが

オーズ「逃がすかよ！」

シウンツ！

ラトラーラーになつたオーズは100mを3秒台で走る」とができるので

シユタツ！

水虎ヤミー「ゲツ！？」

逃げ切れるはずがなく前に回り込まれてしまつ。

そして

キンキンキンッ！

ドライバー『スキャニングチャージ！』

オーズがメダルをスキャンさせると

バチバチッ！

オーズ「ハアーッ！」

ダッ！

オーズは全身を光らせながら水虎ヤミーに近付き

オーズ「せいやーつ！」

ズバッ！

水虎ヤミー「ぐおーつ！？」

トランクローで十字に切り裂いた。

そして水虎ヤミーは

水虎ヤミー「がはーつ！？」

ドッカーンッ！！

必殺技のガッシュユクロスを食らった水虎ヤミーは爆発していった。

桃香「すつ」ーー！」

愛紗「お見事です！」

カシャツ！ シュンッ！

そしてオーブが映司に戻ると

映司「さすがに大変だつた！？」

バタリツ！

その場に倒れる映司

実はラトラーダコンボは一番体に影響を受けやすく普通はトライドベンダーと一緒に使って体力の消費を抑えるのだ。

愛紗「大丈夫ですか！？」

鈴々「お兄ちゃんが倒れたのだ！？」

倒れた映司に集まる桃香達

一方雪蓮は

雪蓮「あの”おーず”的力があれば我が孫家が袁術から独立する

のが早くなるわね」私は色仕掛けで仲間になつても「うつうつ」と

そして雪蓮が映司に近づいてみると

ガシッ！

いきなり雪蓮の肩が捕まれた。

雪蓮「ちよつと…句をかねる…」

くわつ

雪蓮が肩をつかんだ人に文句を言おうとする

冥琳「やつと見つけたぞ」の馬鹿王が

「ガガガ…！」

そこにいたのは鬼の角を生やした冥琳だつた。

雪蓮「め…冥琳！？」

冥琳「お前という奴は！ いくら会いたくないからつて逃げ出すやつ
がいるか！ 帰つたらしじまく酒は禁止だから覚悟しておけ！」

雪蓮「いや～ん！？」

そして雪蓮は冥琳に引きずられながら去つていつた。

美羽「おお孫策よ、ぎりぐり腰は痛つたのかえ？」

雪蓮「はあ？」

しばらくの間、美羽の相手をせられた雪蓮だった。

12 「勲と核と猫系コンボ」（後書き）

SCOUNTSMEDALS

現在オーズの使えるメダルは

タカ	2
トラ	1
バッタ	1
カマキリ	1
チータ	1
クワガタ	1
ライオン	1

13 「陰謀と脱獄とガメル復活」

桃香達があてもない旅を続けている頃

世間では大変なことが起きていた。

洛陽

かつて平和だったこの国はもはや入っ子一人もなく、辺りを見れば

屑ヤミー「ギギーン！」

街は董卓軍の鎧を着た屑ヤミーで溢れていた。

そしてその状況を城から見ていた人達がいた。

洛陽の城

？「ひっくしょーーあいつらこの国で好き勝手しあつてからにーー

」

董卓軍武将・張遼（真名を靈）

？「我々の力が足らないばかりに！」

同じく董卓軍武将・華雄

？「あんなやつを仲間だと言われてねねは悔しいのです！」

「

董卓軍軍師・陳宮（真名をねね）

？「…でも従わないと月がひどい田にあわされる」

董卓軍武将・呂布（真名を志）

彼女達だって本当は暴れたいのだがそれをしない理由は主君である董卓がひどい田にあわされないためである。

牢屋

董卓「…」

？「月、元氣出しなよ」

この場所で董卓（真名を月）が軍師である賈駆（真名を詠）と一緒に捕らわれていた。

詠「あいつらつたらひどいわね…またこの街から住民が出ていったわ」

詠が言つと

月「詠ちゃん、私が悪かったのかな？私があの時しつかりしていてたら大丈夫だったかもしれないね」

詠「月…！？」

ことの始まりは数日前、月が皇帝である劉弁、劉協兄弟に呼ばれて洛陽に来たときのこと

劉弁「董卓よ、今までよく頑張ってくれたな。ではこれより朕（ちん・皇帝が使う私）から褒美があるから受けとるがよいぞ」

まだ小さな皇帝兄弟から月が褒美をもらおうとする

スツ！ ガシツ！

劉協「うつー？」

劉弁「協！？」

月「あなたは誰ですか！？」

いきなり劉協が捕まってしまい捕まえた犯人はといふと

ラグル「俺の名はラグル、この街を俺に明け渡せ！さもなくばこのガキを殺す！」

現れた犯人はラグル（謎のグリードの名前）だった。そして劉協を縛め付けるラグル

劉協「兄上…こんな悪党に洛陽を明け渡したらダメです！」

捕まりながらも何とか拒否しようと劉協に対し

ラグル「ガキは黙つていろ！」

ギュツ！

劉協「うつー？」

ラグルは劉協を締め付ける手に力を込める。

劉弁「やめるのじゃーお主の話を聞くから協を離すのじゃー？」

それを聞いたラグルは

ラグル「最初から素直に聞けば良いんだよー。」

パツ！

ラグルは劉協を締め付ける手を離す

ラグル「用件はただ一つー」の街は今日から俺のものだ！邪魔な皇帝達はおとなしくしてもらひやー。」

シユバツ！

そしてラグルの後ろから現れた肩ヤニー達が現れると

ガシツ！ ガガシツ！

皇帝兄弟を捕らえる。

ラグル「そいつらは地下牢にでも入れときなー。」

肩ヤニー「ギギーンー！」

劉弁「離すのじゃー。」

劉協「朕達を離せ！」

そして皇帝兄弟は肩ヤミー達に連行され地下牢に入れられた。

ラグル「さひと

そしてラグルは次に舟を見ると

ラグル「あんたには名前を偽つさせてもうつざー逆らつたら皇帝兄弟の命はないぜ！」

月「へうーー？」

それから数日後

ガシャンッ！

洛陽の街では董卓軍の鎧を着た肩ヤミー達が暴れまくっていた。

肩ヤミー「これより洛陽は董卓様が支配するー意義をいつ奴は処刑だ！」

住民「ふざけるんじやねえ！」

無茶をいつ肩ヤミーに一人の住民が逆らおつとするが

肩ヤミー「お前は『董卓様反逆罪』で死刑だ！」

ズバッ！-

住民「ぐはっ！？」

住民はあつとこう間に斬られてしまった。

それからとこつもの

『肩ヤミー』『洛陽呼吸税』を取る！

『肩ヤミー』董卓様への貢ぎ物としてこの家の食料をもつて。』

そして住民達の話のなかでは

『董卓はひどい奴だ！』

『横暴だ！』

とこつ董卓の悪い噂が流れていた。

それからとこつもの

ピュンッ！ ガツンッ！

兵士「いたつ！？」

住民「董卓は洛陽から立ち去れ！」

住民「お前らなんて死んでしまえ！」

住民の怒りが爆発し、その結果本物の董卓軍兵士にまで被害が及んでいた。

兵士「このつ！」

兵士「よせつ！董卓様が住民を傷つけてはいけないと言つていただろつ！」

真実を話したい兵士達だったが話したら月や皇帝兄弟の命がないと脅されているので何もできなかつた。

だが兵士の中には

兵士「（この）事を他の諸侯に知らせて助けてもらひやつ！」

夜の闇に紛れて抜け出そうとするものがいたが

ラグル「お前、何をする氣だ？」

兵士「へつ！？」

ズバッ！

抜け出そうとした兵士は次々に殺されていった。

とこうことがあつたのだった。

詠「月は悪くないよー悪いのはラグルっていう奴だよー！」

月「詠ちゃん……」

詠が月を励ましていると

ラグル「麗しき友情つてか　　」

ガタンッ！

いきなりラグルが現れた。

詠「いつたい何の用よ！　　」

ラグル「そう怖い顔をするなよ一つ話をさせに来たのを、よしやく準備が整つたからそろそろ諸侯にこの事を伝えにいくぜ！董卓が洛陽を地獄に変えたってな！」

実はこの日まで各諸侯が間諜スパイを送り込んで洛陽の様子を調べていたのだが脣ヤミーとラグルによつてみんな殺されたため誰一人として洛陽の様子を知る諸侯がないのだ。

つまりこのままでは月が悪人にされようとしている。

恐ろしい話を聞かされた月は

月「何でそんなことをするんですか！？私に何か恨みでもあるんですか！」

ラグルに向かつて叫ぶと

ラグル「恨み？そんなものはない！ただ俺はあるお方の命令を聞い

ているだけだ』

そのあるお方とは知つての通り現在は療養中の左慈である。

詠『アンタ！そんなことのために用を利用するなんて許さないわよ！』

ラグル『黙れ下等な人間め！では俺はしばらく去るが逃げられると思つたら大間違いだぜ！』

スツ チヤリンッ！

ラグルは自分にセルメダルを入れると

ズズズツ…！

ラグルから三体のヤミーが産まれた。

ラグル『お前達はこの城に潜んでいろ！歯向かう奴は殺せ！』

ヤミー達『かしこまりましたラグル様！』

ラグル『それじゃあ行つてくるぜ！』

そしてラグルは牢屋から立ち去つていった。

ヤミー『それじゃあ俺達も潜むとするか』

ヤミー『ラグル様の命令だしな』

ヤマリー、「肩ヤマリー、しっかり見張りておけよ。」

そして三体のヤマリーも見張りを肩ヤマリーに任せて立ち去つていった。

ヤマリー達が去つていった後

月「詠ちやんがひつねー…このままじや洛陽が戦場になつちやうよ!？」

詠「落ち着きなさい月ー…それよつこいつを見てよ。」

スッ！

詠は月に何かが入つた袋を見せる。

月「詠ちやん、これつて何なの？」

月が聞くと

詠「あの変な体をした奴ラグルが頭に入れていた硬貨が入つてゐる袋だよ。実はボク達が捕まつた時に一袋奪つておいたんだ。何に使うかわからなかつたから黙つていていたけどまさか化け物を作る道具だったわね!？」

実際はそうとも限らないのだが実際ヤマリーを産み出すところを見た詠はそう思つていた。

詠「この袋があればとりあえずもう化け物は作れないはずだよ。これを持つて月は逃げなさい！」

詠は月にセルメダルが入った袋を渡す

月「詠ちゃん、逃げるといつてもビーハヤツて逃げるの？牢屋の前に
は見張りがいるよ」

月が聞くと

詠「それなら大丈夫 さっき思い出したんだけビーハの牢屋は……」

ググツ！

詠が一つだけ色の違う煉瓦を引っ張ると

ガラツ！

そこに小柄な月ならば通れる隙間が出現した。

詠「この牢屋、前に恋が鍛練した時に壊したまんまだつたのを思い出したのよ！あの時恋が適当に直したお陰で助かつたわ」

確かに煉瓦を引っ張るだけで崩れるなら適当だといえよ。

詠「さあ月！月くらいの体なら通れるから硬貨を持って逃げなさい！見張りはボクが引き付けておくから」

だが月は

月「ダメだよ！私が逃げ出したら詠ちゃん達がひどい目にあわされ

るよー？」

行くのを嫌がると

詠「ボク達なら大丈夫だよ。月のためなら死ぬのだって怖くないからさ」

月「でも…」

詠「平気だつて！月には前に拾つた変な生物が描かれた硬貨だつてあるんだしさ！それをボクだと思つて行きなよ」

月「詠ちゃん…」

そして月は

月「必ず助けに来るからね！」

行く決意をした。

詠「待つてるよー！やーつー！そこの見張り！」

肩ヤミー「ギッ？」

詠「か弱いボク達を捕らえることしかできない馬鹿者め！」

肩ヤミー「ギーッー！」

そして詠が肩ヤミーを引き付けている間に

月「わよなり詠ちゃん！」

スツ

月は穴を通りて牢屋から脱出した。

そして外に出た月は

月「とりあえずこの国の危機を人に知らせないと！」

洛陽の真実を知らせにこいつとする。

月「でもこの服じゃ動きにくく立つから……」

今月は通常服姿である。確かにこのままでは立つので悪いと思いつながらも空き家の中に入つて服を頂戴することにして、町娘の服装に変えた。

月「それじゃあ急がなくちゃ！」

ダツ！

わつきよりかは動きやすい服に着替えた月は急いで洛陽を駆け抜けた。

しばりくして

月「ハアハア……もうダメ！」

洛陽は広く、あともう少しで抜けたところへ月はへばつてしま

また。

だが月が急いでいると

肩ヤミー「ギギー！」

街をうひうひ歩いていた肩ヤミーに見つかってしまった。

月「見つかっちゃった！？」

ダツ！

慌てて逃げる月だが肩ヤミーとはいえ疲れた月が逃げ切れるはずがない

月「へうつー？」

バタツ！

うつかり転んでしまった。

ジャララーッ！

しかも転んだ拍子にセルメダルが入った袋も持っていた硬貨も落としてしまい月に危機が訪れる。

肩ヤミー「ギギー！」

月に迫る肩ヤミー

月「（「めんね詠ちゃん、必ず助けに来るって言つたのに）」

月が死を覚悟したその時

「ガガガッ…！」

肩ヤミー「ギッ！？」

月「何の音ですか！？」

偶然にも月が持っていた硬貨サイコアメタルがセルメダルの中に埋もれていたため

グニョニョッ！

セルメダルが人の姿に変化していき

スッ！

サイコアメダルが入った途端

バーンッ！

？「ウウウ…」

重量系怪人のガメルが誕生してしまった。

13 「陰謀と脱獄とガメル復活」（後書き）

ヤミーファイル

水虎ヤミー

体を液体化させたり水で分身を作る強敵だが核を攻撃されるとヤバイ

ガメル

重量系怪人。象の鼻と牙、サイの角を備えた頭部、ゴリラの腕とゾウの脚、厚い皮膚をもち屈強ボディの持ち主。そのパワーがグリードの中でもトップクラスなのだが頭が悪く幼稚っぽい

14 「ガメルと護衛と馬鹿」（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、ラグルが董卓の名を語つて洛陽にて大暴れ

二つ、危機を知った董卓が洛陽から脱出

三つ、逃げ出した董卓に肩ヤミーが襲いかかるなかグリードの一人ガメルが出現した。

14 「ガメルと護衛と馬鹿」

ガメル「ウウウ……」

偶然にも月が持っていたサイコアメダルがセルメダルの中に埋もれていたためグリードの一人ガメルが復活してしまった。（グリードはたとえ倒されても核となる頭部のメダルと大量のセルメダルがあれば復活できるのだ）

屑ヤミー「ギギーン！？貴様はラグル様に殺られたガメル！？」

ガメル「ここどこ？メズールどこ？」

メズール：グリードの一人である女怪人。水の属性をもちガメルに気に入られている。

ガメルが辺りを見ていると

ガメル「んっ？」

月が屑ヤミーに殺されようとしているのを見たガメルは

ガメル「（あの子は確か……）」

ガメルはまだ自分がコアメダルの時のことを思い出していた。（グリードはコアメダルの時でも意識を持っているのだ）

数日前

月「詠ちゃん、変わった硬貨見つけたよ！」

詠「確かに変わっているけど見たことないからきっと偽金よ使えないじゃない」

詠が言うと

よ
「月「たとえ偽金だとしてもせつかく拾つたんだから私の宝物にする

それからといふもの、物を大事にする月は

暇があれば「アメダルをみがき、時には話しかけるなどを繰り返していた。

月「私のお守りにしよう」と 私に何かあつたら助けてください」

そしてコアメダルそう言った時、ガメルの心の中には

現在

ガメル「月を守るつ！」

月を守るという意識が芽生えていた。（もし他のグリードなら月を見捨てていたのかもしれない）

ガメル「うおーっ！」

ドーナツ！

ドンッ！！

肩ヤミー「ぐはつ！？」

そして、ガメルは肩ヤミーに突進して突き飛ばした。

ガメル「月を…」

グググツ！！

ガメル「守る！」

ガバツ！！

ガメルにはグリード隨一のものすごい怪力がある。ガメルはそこら辺にあつた大岩を持ち上げると

ブンッ！！

肩ヤミー「ギギーツ！？」

プチッ！！

肩ヤミーに投げつけて大岩の下敷きにした。

ズズズツ！

そしてガメルは月に近寄ると

ガメル「俺、月を守る！」

ちなみに今のガメルはコアメダルが一枚しかないで復活しているのは頭部だけで後は黒い体となっている。この状態の場合ガメルを気味悪く思うのが普通なのが優しい月は

月「危ないところを助けてくれてありがとうございます」

「コッ

につこり笑顔でガメルを見る月

ガメル「よひしへ／／／」

それを見たガメルは顔を赤くするのだった。

月「そうだった！？こひしちゃいられない！早く洛陽の危機を知らせなくちゃ！」

月が急いでいると

ガメル「俺も行く！」

月についていこうとするガメルだが

月「ついてきてくれるのありがたいんですけどその姿じゃ…」

ガメルの姿ははっきりいって怪人である。そのためおもいつきり立つのだつた。

ガメル「大丈夫」

ガメルが言うと

スツ

ガメルの姿は怪人体から人間体であるシルバーの服を着た長身の男に姿を変えた。

ガメル「これで大丈夫！俺、月を守るためについていく！」

月「はあ…ありがとうございます！」

少々驚きながらもガメルを護衛につれていくことにした月だった。

その頃、袁紹の城では

？「麗羽様、洛陽からきた人が麗羽様に会いたいようです！」

緑の髪をした文醜（真名を猪々子）が主人である袁紹（真名を麗羽）に報告していた。

麗羽「洛陽？確かに送り込んだ間諜が戻つてこない未知の街でしたわね、いいでしょ通しなさい！」

麗羽の城・玉座の間

この場には麗羽と部下の猪々子、顏良（真名を斗詩）と洛陽から来た人以外誰もいなかつた。

麗羽「わたくしは忙しいです、用件があるなら早く話しなさい！」

と言つているがさつきまでおもいつきりくつろいでいた麗羽

人「では率直に申し上げます。実は袁紹様に洛陽を救つてほしいのです！」

人が言うと

麗羽「どう一ことですか？」

人「実は洛陽では董卓が住民から暴税をとつたり、虐殺したりと悪事を働いているのです！皇帝である劉弁様、劉協様が人質にとられているため逆らつとも許されないので！」

麗羽「何ですつて！？皇帝様が人質に！？」

人「私は仲間が逃がしてくれたので何とか逃げることができましたが洛陽を救いたいがため兵力、魅力が豊富で高貴な袁紹様に助けを求めたのでござります！どうか洛陽をお救いください！」

人が麗羽に伝えると

麗羽「兵力、魅力が豊富で高貴…。おーほつほつほつ！貴方は人を見る目がありますわね！わかりましたわ洛陽を救うためこの袁紹が一肌脱いで差し上げますわ！」

おだてられると調子にのつて何でも引き受けてしまつ麗羽だった。

人「ありがたきお言葉でござります！だが董卓軍には猛者が勢揃い

ですでの袁紹様を危険にあわせるわけにはいきません。そこで辺りの諸侯に猛者共の相手をさせればよろしいかと

麗羽「確かにそうですわね、高貴なわたくしが怪我をしたら全人類が泣きますわ。猪々子、斗詩！すぐさま各諸侯に文を出しなさい！」

「

猪々子・斗詩『あらほらさつさー！』

ササツ！

そして部下の二人がいなくなると

くるつ

麗羽「貴方には部屋をとらせますのでゆつくりと…」

麗羽は洛陽から来た人の方を見るが

ぽつん

人はいなくなつていた。

麗羽「あら、氣の早い人ねもうお帰りになつたのかしら？」

麗羽の城・屋根

人「左慈様の言つ通りあいつは単純な馬鹿だったな」

スツ

そして人はラグルへと姿を変える。

ラグル「後は洛陽での戦いを待つのみだな」

ラグルがそう言った時

ズキンッ!!

ラグル「ごふつー?」

急にラグルが苦しみだした。

ラグル「この感じはまさか!?」

スッ! ジヤララッ!

そしてラグルは自分に入れておいたメダルを出してみると

ブルルッ!!

ゴリラメダルとゾウメダルが震えていた。

ラグル「やはり!? この感じはグリードが復活した証、このメダルが震えていたということはガメルが復活したということか!?」

ラグルはメダルの異変に気づくと

ラグル「アンクが復活させるわけがないし、他のメダルは俺がほとんど持っている、そしてアンクと俺以外にメダルを知っている奴は

…「

ラグルが少し考えると

ラグル「董卓だ！？」

ビュンッ！！

ラグルは急いで洛陽の城に向かっていった。

それからしばらくして、

洛陽の城

スタッ！

ラグルが洛陽の城に着くと

ヤミー「これはこれはラグル様、お早いお着きで」

ヤミー「これで洛陽が戦場になればセルメダルが稼げますね」

ヤミー「さあかしあの方も喜ぶでしょう」

三体のヤミーが出迎えるなか

ラグル「董卓はどうした！？」

ラグルが聞くと

ヤマリー「あの小娘達なら肩ヤマリーに見張りがてこますが…」

ラグル「馬鹿野郎！！」

スツ

ラグルは牢屋に向かっていく

牢屋

肩ヤマリー「ギギギーッ！ラグル様！」さざんよ…

ラグル「退きやがれ！」

ドンッ！

ラグルは見張りをしていた肩ヤマリーを突き飛ばして牢屋を見てみると

バンッ！

牢屋の中に董卓（円）はいなく、詠しかいなかつた。

ラグル「しまつた！？逃げられた！？」

考えたくなかった真実に驚くラグル

詠「へんつーぞまあみなさいアンタの野望もこれでおしまこよー！」

牢屋にいた詠が言つと

ガチャリツ！

スタスタッ

ラグルは鍵を開けて牢屋に入り込むと

ドグボツ！！

詠「あやつー？」

力一杯詠を殴つた！！

ラグル「なめるなよ下等な人間が！！　お前にはまだ利用価値があるから殺さないでやるぜ！！」

スタスタッ

そしてラグルは牢屋から出ると

ラグル「お前達！必ずやオーブと董卓を見つけ次第殺せ！もし殺し損ねたら命はないものと思えわかつたな！！」

ラグルが叫ぶと

ヤミー達『わかりました！？』

ラグルの気迫に怯えるヤミー達だった。

ラグル「俺はガメルを殺していく！貴様いらはせつと変身して準備しておけ！」

ヤミー達『りょ…』了解しました！？ 』

ズズズッ…

そしてヤミー達はミイラのような姿から

ジャキンッ！

怪物体へと変身してしていった。

普通ヤミーは欲望を叶える前は大抵ミイラのような姿をしているが時には怪物体へと変身するのだ。（テレビではウヴァやカザリ、アンク（ロスト）のヤミーのみ）

そして三体のヤミー達はそれぞれ

網切ヤミー、塗り壁ヤミー、牛鬼ヤミーへと姿を変えていった。

牛鬼ヤミー「シ水闘には網切、虎牢闘には塗り壁がいけ！俺は万が一のため皇帝を見張る！」

網切ヤミー「わかつたダンス！」

塗り壁ヤミー「任せたダンス！」

いよいよ二国志の中でも大きな戦いが始まろうとしていた。

14 「ガメルと護衛と馬鹿」（後書き）

PS2版 真・恋姫†夢想

ついに発売しました。

もちろん西森は購入しました。完全クリア頑張ります。

15 「反董卓連合と総大將と大馬鹿」（前書き）

ついに洛陽での戦いが幕を開ける。

15 「反董卓連合と総大將と大馬鹿」

旅を続ける映司達はとある街にて

『洛陽が魔王董卓に支配された…我こそはといつ腕自慢は戦いに協力すべし!』

と書かれた立て札を見かけた。

鈴々「お兄ちゃん、これってどういふことなのだ?」

内容が理解できていない鈴々が映司に聞くと

映司「つまり董卓つていう悪い奴がいるから強い人は集まつてつて書いてるんだよ」

簡単な説明をする映司

桃香「洛陽の人々が苦しんでいるならほつとけないね!」

愛紗「私達も向かうとしましょ!」

そして桃香達は反董卓連合の本部に参加を申し込みに来た。

受付「え~つと、劉備に关羽、張飛、趙雲、諸葛亮、鳳統それと火野映司とアンクですね。わかりました」

何とか受付を済ませたかと思いきや

受付「では所属する軍を申してください」

桃香「へつ？」

受付「へつ？ではありませんよー少人数で来た者は軍に所属するこ
とになりますので」

桃香「え～っと、所属軍もなにも私達も一団なんですか？」

桃香が受付に言つと

受付「たつた8人で軍だつて！？からかうなら帰つてくれこいつだ
つて忙しいんだ」

鈴々「鈴々達はからかつてないのだ！ホントのことを言つてるだけ
なのだ！」

鈴々が受付に怒鳴ると

受付「子供は黙つていろー単独で戦いたいなら有名軍の推薦文でも
持つてくるんだな」

受付が言つと

？「だったら私が推薦してあげるわよ」

後ろから声が聞こえてきたので受付が振り向くと

受付「そ…曹操殿！？」

そこには曹操（華琳）がいた。

華琳「私の推薦じゃあ役不足かしら？」

受付「とんでもない！曹操殿の推薦ならば喜んで受け付けます！？」
さあさつさと入れ！」

華琳の姿を見た途端、受付の態度があきらかに変わった。

そして何とか入れた映司達は

映司「ありがとう曹操」

華琳にお礼を言つと

華琳「あら、あなたには私の真名を許したはずよ。構わないから華琳と呼びなさい」

鈴々「じゃあかり」

華琳「あなたには真名を許してないわ！」

細かい華琳であった。

華琳「まあともかく正義感が強いあなた達なら悪人をほつとくはずがないと思つていたわ」

桃香「あれつ？曹操さんは違うんですか？」

華琳「私はあなた達とは違うのよ、私は自分の霸道のために連合に

参加しているのよーまあ今度は数に頼らないけどね

前の戦いは数だ!という性格から少しは改善された華琳だった。

華琳が映司達と話していると

?「あらつーあなた達!」

どこからか聞いたような声が聞こえてきた

雪蓮「久しぶりじゃない

映司「雪蓮!?

そこにいたのは孫策こと雪蓮だった。

華琳「あなた達、孫策と知り合いだつたとわね!?

そのことに驚く華琳

雪蓮「あなた達が来てくれたら百人力どころか千人、いや万人力よ
!期待してるからね!」

それは少しオーバーである。

とそこへ

?「お前達久し振りだな!」

いきなり誰かがやって来た。

映司「えへっと、あなたは確か…公贊孫さん…」

鈴々「違うのだお兄ちゃん！孫公贊なのだ！」

アンク「ハムだろ？」

白蓮「わざとまちがえてるだろう！私の名は公孫贊だ！」

実はわざとではなくマジだつたりする。

桃香「そつだよ名前を間違えるなんて失礼だよーごめんねパイパイ
ちゃん」

白蓮「ぱいれん白蓮だ！」

親友であつた桃香にまで間違えられたことに怒る白蓮

愛紗「みんない加減にしろー早くしないと軍議が終わつてしまつ
だろ！」

しびれを切らした愛紗が怒鳴ると

華琳「うう…！？」

雪蓮「あつ…！？」

急に黙りこむみんな

映司「どうかしたの？」

映司が聞くと

白蓮「その…まだ軍議は始まつてないんだ」

白蓮が言った瞬間

朱里「何故です！事態は一刻を争うとこいつに！」

雑里「洛陽を早く救わないといけないのに…」

白蓮に朱里達が詰めかけると

白蓮「私が悪いんじゃない！文句なら直接袁紹に言つてくれ！」

白蓮から話を聞いた映司達は袁紹がいる天幕に集まつた。

袁紹（真名を麗羽）「あら、あなた達も連合軍に参加して貰ださるのね、手勢が増えて大助かりですわ！」

桃香「そんなことより早く軍議を始めましょうよ！」

桃香が言つと

麗羽「ダメですわ！まだ足りないものが一つありますもの…」

麗羽が言つと

朱里「足りないものって兵力ですか？」

鈴々「ご飯なのだ！」

映司「軍資金？」

映司達が足りないものを言つてみるが

麗羽「あなた達お馬鹿じやありませんの？足りないものそれはすな
わち、みんなをまとめあげる総大将ですわ！だけども総大将なんて
危なくて責任感のある役目を誰もやりたがらなくて困つてますの、
ああ、この連合軍には高貴で美しく統率力もある、まるでわたくし
のよつうな人物が総大将にふさわしいといつうのに誰もやりたがらない
なんて困りましたわ！」

この話を聞いて映司達全員が思つた。

全員『（絶対この人がやりたいんだ！）』

だが麗羽は自分からではやらない性格である。

しかしこのまま軍議が開けないと何のために集まつたのかわからな
くなるため

桃香「もうつ！それなら袁紹さんが総大将をしたらいじやないで
すか！」

しびれを切らした桃香が言つと

麗羽「え～つ！？わたくしが総大将をするなんて困つてします
わ！でも劉備さんがどうしてもといつうなり弓を受けてもよろしくて
よ！」

アンク「なあ映司、こいつって馬鹿だ…」

ガバッ！

映司「今はそんなこと言つなよ…」

その先を言おうとするアンクを止めようとする映司

もし目の前で言つたならこの場が戦場になりかねない

桃香「わかりましたお願ひします！」

桃香が麗羽に言つと

麗羽「おーほっほっほっ！劉備さんにそこまで推薦されたら仕方ありませんわね！わかりました。このわたくしが総大将を引き受けますわ！その代わり劉備さんはわたくしを総大将に無理矢理押しつけた責任としてわたくしの命令には絶対服従でお願いしますわ！」

桃香「はい…」

なんてことを言つてしまつたんだもんと今さら悔やむ桃香

そんな桃香に

ほんっ！

映司「大丈夫だつて！俺達もフォロー…補助するからさ！」

愛紗「映司殿の言つ通りです」

鈴々「鈴々も手伝つのだ！」

朱里・離里『私達もお手伝いしましゅ！』

星「皆が手伝つのなら私も手伝わなくてはなるまい」

桃香「みんな… ありがとう！」

優しき仲間に囲まれた桃香は幸福者だった。

アンク「フンッ！俺は協力なんてしないからな」

ただ一人を除いて

麗羽「劉備さん、なにをぐずぐずしますのー軍議を始めますから早くなさい！」

さつさまでぐずぐずしていた人に言われたくないセリフである。

そして全軍が一つの天幕に集まつた。

麗羽「おーほつほつほつ！この度総大将に推薦された袁紹ですわ！まずは皆さん自己紹介から始めましょー！」

麗羽が言つと

美羽「妾の名は袁術のじやーそしてこつちが部下の孫策のじやー

！」

雪蓮「はじめまして孫策よ　」

美羽「胸が大きすぎでぎつくり腰になつた愚か者なのじゅ　」

美羽はまだ蓮華が言つた嘘を真に受けていた。（11参照）

だが馬鹿にされた雪蓮は

雪蓮「（このクソガキ！　覚えてなさい！攻め混んだ時にお漏らししても許してあげないんだからね！）　そうなのよ、もう胸が大きいと大変ね～　」

怒りを心の中に押さえ込みながら笑顔をするのだった。

華琳「陳留の曹操よ、ようしく　」

馬超「西涼の馬超だ！病に倒れている馬騰に代わってきたぜー。」

白蓮「私は公…　」

麗羽「それでは最後に…　」

麗羽が白蓮のセリフを遮る（ささえゐる）と

麗羽「この場にたつた八人しか来なかつた愚か者の劉備さんですわ！　」

麗羽が桃香を馬鹿にするように紹介すると

馬超「八人つてマジかよ！？」

美羽「キヤハハッ！とんだお馬鹿よのう七乃」

七乃「はいお馬鹿ですねお嬢様」

回りが桃香を馬鹿にするなか

映司「じゃあその馬鹿に総大将にされた袁紹も馬鹿つてわけか」

麗羽「なつ！？」

映司が麗羽に言い返した。

映司「人を馬鹿にするとその人も馬鹿だつていうからね（嘘です）」

「

アンク「ふつ！映司もなかなか言つじゃねえか。確かにこいつ（桃香）を馬鹿にしたあいつ（麗羽）はもつと大馬鹿だ！」

麗羽「こ……このわたくしに對して無礼なこいつを捕らえなさい！」

「

散々馬鹿にされた麗羽は兵に命令するが

華琳「やめた方がいいわよ麗羽」

「

雪蓮「あの子の力はここにいる誰よりも強いからね

オーブ

映司の力を知る華琳と雪蓮が言つと

麗羽「ならばわたくしを馬鹿にした罰として劉備軍に罰を下します！あなた達の力だけでシ水関を制圧しなさい！それができなければここから去りなさい！あなた達の力をわたくしに見せてくださいな！」

麗羽が言つと

映司「わかつたよ！ただし条件があるー！」

麗羽「なんですか？」

映司「もしシ水関を制圧できなら桃香に謝つてもいいつよー。」

バンッ！

桃香「映司さん…」

映司が麗羽に向かつて言つと

麗羽「いいでしきう！制圧できたら劉備をここに土下座でも何でもしますわ！」

麗羽が言つた瞬間

雪蓮「（袁紹つて袁術よりバカのよつね）」

華琳「（麗羽の土下座する姿が見れるなんて来たかいがあつたわ）」

「

アンク「（絶対あの馬鹿女を土下座させてやるぜ！）」

当然だが確實に麗羽が土下座すると思っていた三人がいた。

確かに人間相手ならばオーズに勝てる人なんて少ない

だが一つ誤算があつたとすれば

この戦いが人間の手ではなくグリードが絡んでいることをこの場にいる誰もが知らなかつたことだ。

その頃、ガメルを護衛に連合軍に真実を伝えに行つた董卓こと月は

月「こゝにビニですか？」

ガメル「俺、知らない」

道に迷つていた。

16 「シ水闘と叫びと猛獸バイク」（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、桃香達劉備軍が反董卓連合に加わる

二つ、連合軍総大将に麗羽を推薦させてしまったため桃香は麗羽の命令に従わなくてはならなくなる

三つ、軍議にて麗羽が桃香を馬鹿にした発言をし、それに対しても司が麗羽に反論して劉備軍だけでシ水闘を戦つことを命じられる

16 「シ水関と叫びと猛獸バイク」

シ水関

この場所で華雄・霞率いる5万の兵VS..

劉備軍8人の無謀な戦いが始まろうとしていた。

シ水関

映司「ごめんねみんな、こんな無謀ともいえる戦いにしちゃって」

映司は自分が麗羽を馬鹿にするような発言をしたことをわびると

愛紗「気にしないでください！」

桃香「そつだよおれを言つのはいつしかの方だよ。ありがとうございます映司さん

」

鈴々「鈴々達の力があの馬鹿（麗羽）に見せつけてやるのだ！」

星「それに映司殿が言わなくとも愛紗や私が言つていたでしょう。主君を馬鹿にされて黙っている方がおかしいですからな」

映司を慰めるみんな

朱里「とはいって、やはり戦力に差がありますね」

確かにいぐらなんでも戦力から考えて8人…いや、戦えない桃香と

朱里達とアンクを除けば残りは4人

対する董卓軍は5万

普通に戦えば絶対勝てないのだった。

だが忘れちゃいけない。劉備軍には最強の力があることを、それは

アンク「オーブの力を使え！そつすりや何とかなるだらう」

こちらには普通の人間ならば相手にならないオーブがついているのだ。

映司「人間相手にオーブの力は使いたくないけど仕方ないか」

不本意だが映司だってオーブの力を使わなければ勝てないと感じていた。

鈴々「お兄ちゃん！ 緑の姿でいっぱい増やして戦うのだ！」

鈴々の言つ緑の姿とはガタキリバコンボのことである。

確かにガタキリバコンボは分身能力があるので数は何とかなるのだが

愛紗「馬鹿者！」「んぼ」は映司殿に負担をかけることを忘れるな！ 映司殿、”こんぼ”はなるべくやめてください！」

星「私は”らとらーたー”しか見ていないが確かにあの姿は体に負担がかかりすぎる」

桃香「それじゃあダメだよ！映司さん、いんばは絶対禁止だからね
！」

映司の体を遣つてコンボを禁止にするよつ言つ桃香達

映司「わかつたよコンボはござといつ時にしか使わないからさ」「

と言つていゐ間に

「オーンツー！

シ水闘から銅鑼の音が聞こえてきて

ドドドオーツー！！

董卓軍が攻めてきた。

連合軍サイド

華琳「映司達は大丈夫かしら？」

雪蓮「さすがに無謀かもね」

映司達を心配する一人に対し

麗羽「おーほつほつほつーわたくしを馬鹿にした罰ですわー。」

高笑いをする麗羽

そして董卓軍が迫り来るなか映司が先頭に立つと

麗羽「あらつ、あのわたくしを馬鹿にした愚か者がいく氣ですか？」

「

そして映司は

アンク「映司、馬鹿女をびびらせてやれ！」

シユツ！ パシツ！

力チャ力チャンツ！

キンキンキンツ！

映司「変身！」

アンクからメダルを受け取りオーズドライバーにセットしてスキヤンさせると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジヤキンツ！

映司は仮面ライダーオーズに変身した。

そしてその姿を見た連合軍は

馬超「何だよあれ！？」

「

美羽「姿が変わったのじゃ！？」

一部を除いたみんながオーブの姿に驚くなか麗羽はとこいつと

麗羽「フンッ！…どうせみんなの見かけだけですわ！中身はどうせく
つぽい…」

負けず嫌いな麗羽がオーブを見てみると

オーブ「めんなさい！」

ドカッ！

兵士「ぐくつ！？」

オーブは謝りながら次々と董卓軍兵士を蹴散らしていく

兵士「くそつ！大勢で囲むぞ！」

ずらりつ！

董卓軍はオーブを囲むように攻めてくる。

だが

アンク「フンッ！馬鹿な奴らめ！映司、メダルをええろ！」

シユツ！ パシツ！

力チャツ！ キンキンキンッ！

アンクが投げたメダルを受け取ったオーズがスキヤンをせると

ドライバー『ライオン・トラ・バッタ』

ジャキンッ！

オーズはトラバにコンボチェンジした。

そして

オーズ「ハーツ！」

ビカーツ！

ライオンヘッドの能力である強力な光を董卓軍ライオネルフラッシュに向けると

兵士「ぐわつ！？」

兵士「眩しそぎて目が見えない！？」

そして兵士が怯んだ隙に

オーズ「ごめんなさい！」

ドカカツ！

オーズは傷つけないよう殴るのだった。

桃香「」のまま一気に攻めちゃえー！」

たが桃香達は氣づいていなかつた

「このシ水戻の戦いでまだ將である華雄と霞が出陣していない」とを

シ水闕・董臯軍サイト

「あいつすげに奴やなー！？うちの兵士が簡単に倒されるとるで！

シ水戸にて戦況を見ていた霞がオーズの強さに驚いていると

華雄はな - 驚いてしる場合か! 我か軍かおざれてしるのたそ!

霞の態度に怒る華雄

ホントは彼女達だって戦にいきたいのだがそれを止められていたの
だった。その理由は…

網切ヤミー「お前達邪魔な人間は退いとくザンス！」

と綱切ヤニーに言われたからである。ちなみに彼女達は月が逃げたことは「えりておらず逃げた」が月に危害をくわえると脅されているのでった。

綱切ヤミー「やはり来たかオーブ、私が行くザンス！」

そして網切ヤニー率いる董卓軍が攻めていく。

愛紗「映司殿が頑張っているのだ！我々も頑張るぞー。」

少しでもオーズの相手を減らすため勇猛に戦つ愛紗達

だがその時！

兵士「ぐはつ！？」

ドサツ！

愛紗の手の前にいた董卓軍の兵士が胴体を真つ一いつ切られて倒れてきた。

愛紗「（）の傷は剣で切られたにしてはおかしい、まさか…？」

愛紗が切つたものの正体に気がつく

網切ヤミー「その通り！」

シユツ！

愛紗「なつ！？」

サツ！ ビリリツ！

網切ヤミーの鍔ハサミが不意打ちを仕掛けていきなり襲いかかってきたのだ。だが愛紗は持ち前の反射神経でうまく避けたのだがその時服をかすめてしまい胸のところを切られてしまった。

網切ヤミー「私の名前は網切ヤミー！あなた達を切り刻みに来たザンス！」

愛紗「くつー？」

愛紗が胸を隠しながら考える。愛紗とてヤミーの実力が自分を越えていることは気づいているのだが

愛紗「この関羽、敵に後ろを見せるようなものではない！」

ジャキンッ！

愛紗は青龍偃月刀を握りしめて網切ヤミーに向かっていく！

そしてそのよつすを遠くから見ていた桃香達は

桃香「大変！？愛紗ちゃんがやみーに襲われてる！？」

朱里「アンクさん、映同さんに伝令をお願いします！」

アンク「ちつ！仕方ねえな！」

シユツ！

アンクは通信機能のあるバッタカンドロイドをタカカンドロイドにつれさせてオーブのモードに届ける。

ピキーン！

オーズ「あれはタカちゃん、何かあったのかな？」

オーズが戦いの最中空を飛ぶタカカンドロイドを見つけると
バッタカンドロイド『映司さんー愛紗ちゃんがやみーに襲われて危
ないからすぐに向かってー』

つれているバッタカンドロイドから桃香の声が聞こえてきた。

オーズ「何だつてー? わかった。今すぐこぐよー。」

ダッ!

そしてオーズは愛紗のといひに急いでいった。

その頃、愛紗はといひと

愛紗「ハアハア…ー?」

愛紗は服をボロボロにされながらも田頃オーズと鍛練していたおかげでヤミーの攻撃を急所からずらしていた。

ちなみに今の愛紗の上半身は下着だけである。

網切ヤミー「(この私の攻撃を避けるとはー?) いつなつたら服を
気にせず惨殺してあげるザンスー。」

ジャキンッ!

網切ヤミーは鋏を広げて愛紗に襲いかかる。

だがその時！

オーズ「ちょっと待ったー！」

ブンツ！

網切ヤミー「なつ！？」

ガキンツ！

愛紗の危機にオーズが駆けつけるがオーズの攻撃は網切ヤミーに防がれた。

愛紗「映司殿！？」

オーズ「助けに来たよ愛紗！聞こえてるだろアンク、まだ董卓軍は大勢いるし時間もあんまりかけられないからコンボでいくしかない！あとバイクもね！」

このオーズの声はバッタカンドロイドを通じて桃香達と一緒にいたアンクのもとに届けられた。

アンク「フンツ！人使いの荒い奴だ！」

ブルンツ！

アンクはライドベンダーに乗つて向かおうとするが

桃香「待つて！」

バツ！

桃香に前を塞がれた。

アンク「退きやがれ」の野郎！「

アンクは桃香に退くよう叫びながら

桃香「どうしても行くと言うのなら、私も行く！もう見守っているだけなんて嫌だもん！」

桃香自身、自分が無力なのはわかっている。だからこそ何かの役に立ちたいのだった。

桃香の叫びを聞いたアンクは

アンク「フンッ！お前も少しほマシになつたようだな、死んでも構わねえなら乗りな！」

シユツ！

アンクは桃香にメットを渡すと

パシツ！

桃香「はいっ！」

ブルルンッ！

桃香を乗せてオーズの元に走らせるアンクだった。

その頃、オーズは

オーズ「ぐはつ！？」

網切ヤミーに苦戦していた。

網切ヤミー「コンボでないオーズなんて私の敵ではないザンス！」

オーズ「くつそー！」

オーズが苦しんでいたその時！

ブオオンッ！

アンクと桃香を乗せたライドベンダーがやつて来た。

アンク「待たせたな映司！ほらよつ！」

シユツ！ パシツ！

アンクはオーズにチーターメダルを投げ渡す。

アンク「飛び降りるぞ！」

桃香「えつ！？」

バツ！

桃香「ひえーつー？」

そしてアンクは桃香と一緒にライドベンダーから飛び降りた。

オーズ「よしハー！」

バツ！

そしてオーズがライドベンダーに飛び乗ると

オーズ「一応持ってきて正解だったね！」

プシュッ！

オーズは持ってきたトラカンドロイドを起動させた。

すると…

ズズズツ… ガシャンッ！

『ガオーッ！…』

トラカンドロイドはライドベンダーと合体してライドベンダーに変形した。

オーズ「これでよしーあとは…」

カチヤツ！ キンキンキンッ！

オーズはメダルをドライバーにセットしてスキャンせざる

ドライバー『ライオン・トラ・チーター』

ドライバー『ラタラタ、ラトラーラー！』

ジャキンッ！

オーズはラトラーターランボに変身した。

桃香「あつー？ こんばを使つたら疲れるのにー？」

普通なら桃香の言ひ通りだが

ラトラーターランボはライドベンダーに乗ることで体力減少を減らすことができるのだ。

おまけにライドベンダーに乗れば高熱波のライオティアスも発動しないのであった。

オーズ「それそれーー！」

ボーンッ！

兵士達『ぐわーーー？』

オーズはライドベンダーで次々と兵士達を傷つけなにより倒していく

綱切ヤミー「おのれー！ そんなバイクなんて切り裂いてやるザンス！」

網切ヤミーは鋏を構えてトライドベンダーを迎え撃とうとする。

だが

ベキベキッ！

網切ヤミー「なーつー!?」

トライドベンダーは逆に網切ヤミーの鋏を裂いていく！

そして網切ヤミーは無惨にもトライドベンダーに食いつかれるの
だった。

オーズ「よし次は！」

そして網切ヤミーを撃破したオーズは

オーズ「逃げないと危ないですよ～！」

プロローグ！

兵士達『うわーっ！？』

トライドベンダーで兵士達の中を暴れまわる。

そして兵士達はたまらず次の虎牢関へと逃げてこき、シ水関は連合
軍に制圧されたのだった。

連合軍サイド

馬超「マジかよ！？たつた八人でシ水関を制圧しやがった！？」

美羽「七乃、妾は夢を見ておるのか！？」

七乃「お嬢様、私も見てるので夢ではありませんよ！？」

そして麗羽も

麗羽「・・・！？」

口を大きく開けながら驚いていた。

そしてシ水関を制圧した後

シユンツ！

映司「さすがに疲れちゃったな！？」

オーズが映司に戻ると

愛紗「映司殿、助けていただきありがとうございました！」

愛紗がお礼をいいに来た。

映司「気にしなくていいよだつて俺達仲間じやん それよりもや…
服着なくていいの？」

愛紗「えつ？」

愛紗が自分の姿を見てみると

バーンッ！

今の愛紗は上半身下着姿だった。

そして愛紗は

愛紗「キヤーッ！－／／／－」

戦いに夢中で今頃気づいたようだ。

バッ！

愛紗が胸元を隠すと

映司「気づいてなかつたの！？とりあえすこれで隠して！」

当然映司が渡したものは

バンッ！

もちろんパンツだった。

愛紗「上着を貸してください！」

16 「シ水闘とエビと猛獸バイク」（後書き）

ヤミーファイル

網きり
切ヤミー

両手が鉗になつている海老のえび
老のやうな姿のヤミー。語尾にサンスをつ
けて話す。

シ水関を制圧した反董卓連合

そして一番の手柄を立てた劉備軍は約束通り麗羽に土下座で謝つて
もうおうと本陣にやつてきたのだが

麗羽「い…今は大事な戦の最中でしょつ…土下座している暇なんて
ありませんわ」

自分から言い出したくせにどうしても土下座をしたくない麗羽は長
く引き伸ばして忘れてもう作戦にでてきた。

麗羽「とはいえシ水関を制圧した」褒美に劉備軍には休暇を「えま
すのでゆつくりとお休みなさい」

そして桃香達は次の虎牢関の戦いには参加せず休むことになつた。

劉備軍本陣

アンク「ちつ！絶対あのバカ女が土下座なんてするはずじゃないと
思つていたぜ！」

映司「まあ待てよアンク、袁紹さんもいづれ土下座してくれると

」

散々バカにされながらも麗羽が約束を守つてくれる信じている映
司に対して

アンク「お前バカか？人を信じるものもい加減にしろ。」

ダッ！

本陣を出でていこうとするアンク

映司「どっこくんだよー？」

映司が聞くと

アンク「これ以上ここにいたらあのバカ女にこき使われちまつから
な、俺は少し別行動だ！念のためメダルは渡しておくれー！」

シユツ！

そしてアンクはタカ・トラ・バッタのメダルを投げてどこかにいっ
てしまつた。

鈴々「アンコのお兄ちゃんが勝手に出ていったのだ

朱里「どっこくんだじょうか？」

映司「まああいつも桃香よりは強い方だし何とかなるでしょ

桃香「ふー！どつせ私は弱いですよーだ！」

プクツ！

映司「ごめんなさいー！」

ふくれる桃香に謝る映司

桃香達が愉快な会話をしていたその時

バサツ！

馬超「よつー邪魔するぜ」

桃香達の天幕に馬超が入ってきた。

愛紗「お主は確か馬超殿、何か用ですか？」

愛紗が馬超に聞くと

馬超「実はさ、あたしさつきシ水関を占領したあんた達を見直してな、協力しにきたんだよ」

なんと馬超は桃香達に同盟を持ちかけてきたのだ。

馬超「軍議の時はバカにして悪かつたな、でもあんたの姿が変わって兵士を倒してゐるのを見たら胸がうずうずしてよ、あんた達と一緒に戦いたいって気分になつたんだ。頼む！せめてこの戦いの間だけでも同盟を組んでくれ！」

ガバツ！

馬超が頭を下げてお願いすると

桃香「馬超さん、頭をあげてください。私達に協力してくれるなら大歓迎ですよよろしくお願ひします」

桃香は馬超をむかえることにした。

馬超「ありがとよー同盟の話だ。あたしの真名の翠をあんた達に預けるぜ！」

桃香「それじゃあ私達もだね」

そして桃香達が真名を交換しあつてている頃、

洛陽

華雄「それは本当の話か！？」

詠「ええ、月は洛陽から脱出させたわ」

靈「つちと恋が修理に手を抜いたおかげやな」

シ水闘の戦いの後、洛陽に戻された一人は詠と共に牢屋に閉じ込められたが詠から月が脱出したといつ話を聞いてほつとしていた。

肩ヤマリー「ギギーンーお前達つるやくやー」

靈「へんつーもつあんたらの洛陽をめぢやくぢやにするといつ計画はおしまいやで！次の虎牢闘には恋があるからな、恋は勘が鋭いかりきつと月が脱出したことに気づくんでー！」

靈が肩ヤマリーに向つて

？「果たして、それはどうかな？」

バンッ！

霞達の前にラグルと恋が現れた。

華雄「お前ー」

田の前に現れたラグルに怒る華雄に対し

霞「恋ー？お前もおつたんかいなーちょっとええ、恋、月は逃げたんやー。うちらに構わずこいつらをぶつ倒したれ！」

霞はラグルの側にいた恋（畠布）に囁つが

恋「……」

霞「恋ー？しないしたんやー？」

いくら恋が無口だからといつてもいいまで言つていいのこ黙つているのはおかしい。そんなとき

ラグル「張遼（霞）、我が田を見るのだ！」

霞「へつー？」

ギインッ！

そして霞がラグルの田を見た瞬間

霞「……」

華雄「おい霞、どうしたんだ！？」

急に黙りこんだ霞を華雄が心配すると

ラグル「張遼よ、貴様はこれから虎牢関に向かい、他の軍を足止め
しておけ！」

ラグルが言つと

霞「（じくんつー）」

頷く（うなづく）霞

詠「あんた霞に何したのよ！」

詠がラグルに怒鳴ると

ラグル「催眠術をかけたのさ、初めからこうしていればよかつたぜ

」

霞と恋はラグルの催眠術にかかってしまい完全に操り人形と化して
いた。

ラグル「だがこれを使うと体力を考えずに力任せに暴れてしまうた
め長期決戦にはむかないから使わなかつたがオーズが出たとなると
そもそもいつてられん！張遼は連合軍を一呂布はオーズの相手をしろ
！」

恋・霞「（じくんつ）」

ラグルに操られた二人はラグルの言いなりになってしまった。

華雄「まさか一人まで！？」

華雄が驚いていると

詠「ちよつとあんた！ねねはどうしたのよ！」

詠が恋の側にねねがないことに気づきラグルに聞くと

ラグル「ねね？ああ、あのチビのことか、生憎俺の催眠術はガキには効かなくてな、痛め付けて皇帝兄弟と一緒に牢屋に入れてやつたよ！」

詠「あんたねねまでひどい日に…」の悪魔！」

詠がラグルに向かって言つと

ラグル「悪魔？大いに結構、俺にとつて悪魔や悪人は誉め言葉さ！」

「

スツ

そしてラグルは恋と霞を連れて牢屋の前からいなくなつた。

しばらくして

ラグル「いいか！俺は逃げた董卓とガメルを殺しに行くから牛鬼は皇帝兄弟を見張れ！塗り壁は万が一呂布達が倒された時のためにこ

の城には誰一人として入れるなよ！」「

ラグルが牛鬼ヤミーと塗り壁ヤミーに指示を出すと

牛鬼ヤミー「わかりましたラグル様！」「

塗り壁ヤミー「任せたダス！」「

了解する二人

ラグル「それとだ…」「

チャラリッ！

ラグルは手からゴリラメダルとゾウメダルを出すと

ラグル「塗り壁、お前の体にメダルを入れておけ！そつすりやもつと強くなれる！」「

塗り壁ヤミー「わかつたダス！」「

スッ！

塗り壁ヤミーはコアメダルを体に吸収した。

ラグル「牛鬼はどうする？」「

ラグルは牛鬼ヤミーにメダルは必要かと聞くと

牛鬼ヤミー「結構です。私はメダルがなくても強いのでね」「

ラグル「そうかわかつた。あの事はお前らに任せせるから頼んだぞ

」

ザツ！

そしてラグルは去つていった。

その頃、虎牢関では

ズランッ！

袁紹軍30万の兵士が立ち並んでいた。

麗羽「（劉備軍は8人で5万の兵を倒したわけですから虎牢関には約十万の兵、確實にわたくしが勝つに決まっていますわ、呂布だろうが誰だろうがかかるべきなさい！おーほっほっほっ！）

麗羽が心中で高笑いをしていると

猪々子「あれつ？麗羽様、道の先に誰かがいますよ

スツ！

そして猪々子が指差した先には

バンッ！

恋が立ちはだかっていた。

斗詩「麗羽様、あれって呂布じゃないですかー？」

麗羽「あ～ら、それは好都合ですわー皆さんで呂布を討ち取つてしまいなさい！」

袁紹軍兵士達『うおーつ！』

『ドドドオーッ！』

袁紹軍兵士達が一斉に恋に向かつていぐ！

だが

チャキンッ！ ブォンッ！

恋が得物の方典画戟を振るつた瞬間

ズバッ！！

向かつていつた袁紹軍兵士達は一瞬のうちに首が飛んでしまつた。

麗羽「へつー？」

猪々子「何が起きたんだー？」

斗詩「兵士の首が飛んだー？」

麗羽達が驚いていると

ジャキンッ！

恋は方典画戟を麗羽達に向けて

恋「…オーブ呼ぶ、恋と戦う」

そしてそれを聞いた麗羽達は

麗羽達『ひいーつ！？』

ビビビビオーッ！！

一日散に逃げていった。

連合軍本部

麗羽「といふわけで呂布のにおーずとこつものをつけでくるよう言
われました。劉備さんに聞いたりおーずとは映司さん、あなたの
ことだそりですわね」

映司「そうですけど何か？」

麗羽「何かではありませんわよ！すぐに呂布を倒しここをなさい！
化け物には化け物で対抗ですわ！」

オーブを化け物扱いする麗羽

映司「でも…」

この場にはアンクがいたためタトバ以外には変身できないのだ。

映司が言い渡ると

麗羽「じれったいわね！わかりました呂布を倒したら土下座してあげますからよろしいですわね！」

強引に話を決めた麗羽はその場から立ち去つていった。

映司「困ったなあ、呂布の力はわからないけれどアンクがいないから大変だな！？」

映司が困つていると

愛紗「大丈夫ですよ映司殿」

鈴々「鈴々達も手伝うのだ！」

星「我らとて映司殿との鍛練で多少は力をつけましたからな」

翠「今回があたしも手を貸してやるぜー！」

桃香「みんながいるんだから大丈夫だよー！」

桃香達がみんなを励ました。

映司「わかつたよーみんながいればなんとかなるよね！」

そして映司達は虎牢関に向かつていった。

そしてその数時間後

月「はあはあ……やつと着きましたね！？」

ガメル「着いた！」「

月とガメルが連合軍本部にたどり着いたのだった。

1-8 「救出と眞実とお知りせ」

ついに反董卓連合の本部にたどり着いた月とガメル
だが肝心の連合軍は

月「誰かいませんか」？

シーン…

誰一人としていなかつた。

実は全員が虎牢関に向かっているため連合軍はどこの軍もいなかつたのだった。（理由は劉備軍の手助けをするため、オーズが負けるところを見るため）

月「そんな、せっかくたどり着いたのに！？」

ガクンッ！

親友の詠がひどい目にあわされるとわかつていながら月の助けを待つていてるのに連合軍がいなくては水の泡である。

ガメル「月…」

うなだれる月を少しでも慰めようと近づくガメル

だがそのとき

ガメル「（ピクンッ！）」

スッ！

ガメルは何かを感じ取つて歩いていった。

月「ガメルさんど」にいくんですか？」

月が聞くと

ガメル「こつちに俺のメダルの氣配する。人もたくさんいる」

ガメルが指した方角は虎牢関のある方角だった。ガメルが言うと

月「たくさんの人…もしかして連合軍かも！」

タタッ！

そして月はガメルと共にいくことにした。

その頃、虎牢関では

麗羽「（おーほっほっほっ！あの男がふざまに畠布に負けてくれればわたくしは土下座しなくてもよろしいわけですわ！まあはじめからする気はありませんがね）」

華琳「（いくらオーブの力が強いとはいえ、相手はあの畠布、おまけに化け物じみた力を持つと聞くわね！？）」

雪蓮「（オーブが危機になつたときに借りを返してもうつとして袁

術を攻めるのを手伝つてもらひつていうのもありね 」

様々な思惑が漂うなか、劉備軍は虎牢関にたどり着いてしまつた。

桃香「敵は何人いるんだろう?」

朱里「袁紹さんの話によると虎牢関には呂布一人しかいないようですが」

鈴々「じゃあ呂布は一人で数万の兵を倒したのか!？」
「いやつなのだ!？」

星「まあ大将が袁紹だつたからかもしれないだろう

愛紗「どちらにせよ油断してはならん!」

翠「今日はあたしも手伝つから任しとけ！」

映司「（アンクの奴どこ）いつたんだよ！」

映司達がそれぞれいつていると

バンッ！

洛陽の城の前に一人の人影がうつっていた。

難里「あわわ！？あそこに人がいます！？」

愛紗「あのものが呂布なのか！？」

人影に驚く愛紗達

そんなとき

映司「あの～、君が呂布ですか？」

ズコッ！

人影に名前を聞く映司に愛紗達がずつ二けた。

愛紗「なに普通に聞いてるんですか！」

翠「お前バカかよ！」

みんなが映司に囁つと

恋「…（じゅりつ）恋は呂布」

素直に答える恋だった。

映司「そうかい、なら悪いけどそこを通してくれないかな？俺達は董卓を救いたいんだ！」

バンッ！

麗羽「董卓を救うですって！？」

実は映司達は虎牢関に着く前、翠からあることを聞かされていた。

愛紗「それは本当なのか翠！？」

翠「ああ、大マジな話さー。董卓って奴は悪いことばしない奴なんだよー。」

翠が映司達に董卓について話していた。

翠「あたしの母様である馬騰は董卓をよく知つていてね、董卓は税を重くするどころか逆に民が苦しんでいたら税を減らすつていう甘い奴なのさ。あたしは母様からこの戦いの真実を調べてこいと言われて連合に参加したんだ。そして参加してみたらあんな化け物^{ヤミー}が出てきたもんだから驚いちまつたぜ」

翠が自分が連合に来た目的を話すと

星「もし董卓が翠の言つ通り優しき者となると、誰かが董卓の名を語つて悪さをしていくことになる」

鈴々「そんなことする奴なんていいるのかなのだ?」

みんなで考えてみると

映司「あつーあいつだ!」

桃香「映司さん、あいつって誰?」

映司「ほり、前に桃香からヤミーを取り出したあのグリードだよー。」

映司はラグルの名前を知りません

愛紗「なるほど、確かにあいつならばー…」

鈴々「悪人だから可能性があるのだ！」

朱里「誰のことですか？」

雛里「わからないです」

翠「やみー？ぐりーど？あたしにもわかるよ！」に教えてくれよ！」

映司「そうか、朱里達はあいつに会つてなかつたよね」

「

そうだつたつけ？

説明中

翠「なるほどな、さつきの化け物がヤミーでその頭（大将）がグリードってわけだな！」

朱里「はわわ！？そんな悪人がいたなんて！？」

雛里「あわわ！？驚きです！？」

映司「でもこれでわかつたよ！董卓は悪人なんかじゃない！…きっとあのグリードが関連している！」

映司が言つと

鈴々「お兄ちゃん、何で董卓が悪人じやないつて信じるのだ？」

鈴々が聞くと

映司「だつて同盟を結んだ翠が董卓は悪人じゃないって言つてるんだもの、仲間のこいつとは信じないとね！」

翠「へつ！お人好しな奴だな」

星「映司殿がそのような性格だからこそ我々は集まつたのだよ」

愛紗「そうだな」

映司「よし決めた！俺達は董卓を助けに虎牢関に向かおう！」

桃香「うん、私も賛成だよ」

こうして映司達は連合軍の意志を無視して董卓を助けにいくことにしたのだった。

現在

桃香「あちやーーー！みんなの前で言つちやつたよーーー！」

星「こいつなつたらもう逃げるしかないのでしょうな」

それもそのはず

董卓を倒しに来た仲間の中に董卓を助けようとする者がいる=反逆者

劉備軍は反逆者になつてしまつたのだった。

麗羽「何ですって！猪々子、あの人は今わざと董卓を助けると言いましたよね」

「

猪々子「はい、言いましたよ！？」

華琳「呆れた。自分が何を言つて居るのかわかつて居るのかしら？」

？

雪蓮「まあ、彼らしいといえば彼らしいけどね」

連合軍が劉備軍を見ていると

麗羽「皆さん…」いつなつたら董卓」と劉備軍を蹴散らしてしまった
さい！」

袁紹軍兵士達『おおーっ！』

ズンズンッ！

袁紹軍兵士達は桃香達劉備軍を捕らえようと進軍していく。

だがそのとき

ズォンッ！

袁紹軍兵士達『なつ！？』

袁紹軍兵士達がいきなり現れた屑ヤミー達に驚いた。

しかも、

霞「悪いが…」
は通さへんで…」

バンッ！

肩ヤミー達を率いていたのはラグルに操られた張遼（真名は霞）だった。

霞「アンタらの相手はウチと肩ヤミーがしたる…恋とオーブの戦いは邪魔させへんで！」

肩ヤミー達『ギギーン…』

麗羽「まさか董卓軍に化け物がいただなんて…？」

そして肩ヤミー達が連合軍を襲つて見た映司達は

愛紗「まさにこの戦いはグリードが絡んでいるな」

星「法えきつてこの連合軍では肩ヤミーの相手はできまー

星が冷静な判断をしてみると

映司「わかった！みんなは連合軍を助けにいってくれ、呂布の相手は俺がする」

この映司の言葉に

愛紗「何をいっていのですか…？」

「

映司「脣ヤミーとの戦い方はみんなの方が詳しいし、俺達が勝ったとしても連合軍が負けたらお仕舞いなわけだ。呂布の力がどんなものかは知らないけど俺が呂布の相手をする。それに連合軍を助ければ裏切りを許してくれるかも知れないしね」

この映司の呆れるような言葉に

愛紗「仕方がないな！」

鈴々「お兄ちゃんは優しすぎなのだ！」

星「まったくだな」

桃香「わかつたよ映司さん、私達は連合軍を助けにいく。だから映司さんは呂布を必ず倒してね約束だよ」

映司「わかつた。必ず約束するよ」

力チャ力チャンッ！

キンキンキンッ！

映司「変身！」

そう言いながら映司はメダルをオーブドライバーにセットしてスキンセシ昂

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

映司は仮面ライダー オーズに変身した。

オーズ「いくぞ呂布！」

恋「…負けない！」

ババッ！

そして二人は互いにとんでいった。

そしてその頃、映司達の元から離れたアンクはといつと

アンク「ちつ！映司達はどこかにいったようだな。まあこれでの馬鹿女（麗羽）の顔を見なくてすむし、会いたければ置いていったライドベンダーで追いかけばいいしな！」

ライドベンダーは目立つので天幕の中に収納しているのだった。

アンクが散歩をしていたそのとき

アンク「おやつ…あれば…」

アンクがなにかを見つけた。それは…

キランッ

アンク「俺のコアメダルじゃないか！？何でこんなところにあるかは知らないがラッキーだぜ！」

スッ！

アンクは落ちていた自分のコアメダルを拾いに向かおうとすると

アンク「！？」

サッ！

急にアンクは方向転換をして下がつていった。その直後

ドオーッンッ！

アンクがそのまま進めば当たる地点に上空から何かが落ちてきた。

アンク「この気配、やつぱりお前だつたとほな！」

落ちてきたものは…

ラグル「久しぶりだなアンク」

バンッ！

ラグルだった。

18 「救出と眞実とお知らせ」（後書き）

アンク「次回はいよいよオーブVS呂布、俺VS謎のグリードの戦いだな楽しみだぜ！」

アンクが言ったその時

ピピピッ！

映司「バッタカンドロイドから通信だ！」

パカッ！

映司がバッタカンドロイドのスイッチをいれると

西森『どうも西森です。この作品を待っている人には申し訳ありませんが、別の作品を進めてほしいという要望と西森が洛陽の戦いの後を考えていなためこの小説はしばらくの間不定期更新になります。申し訳ありませんでした』

ブツンッ！

通信が切れた瞬間…

映司・アンク『（何・何だよ）それっ！？』

二人の活躍はしばらくお待ちください

19 「最強武人と卑怯手段と董卓登場」（前書き）

皆さんの要望に答えてこれからはローテーションで投稿していきます。

フランチエスカ 乙女大乱 オーズ フランチエスカの順です。

19 「最強武人と卑怯手段と董卓登場」

虎牢関

オーズ「ハッ！」

ブンッ！

オーズは恋にメダジヤリバーを振りかざす！

だが

ガキンッ！

オーズ「えつ！？」

恋はオーズの攻撃を軽く受け止めると

ボンッ！！

オーズ「うわっ！？」

ドシャンッ！

そのままオーズを投げ飛ばした。

オーズ「（さすがは三國志最強と呼ばれる呂布だ！？強さが桁違い（けたちがい）だ！？）」

それに今はもとからの恋に限界以上の力がつけられたためその力は
オーズをも越えようとしていた。（オーズは恋が操られていること
を知りません）

恋「…お前、弱い」

オーズ「やっぱタトバコンボじやむりか、アンク！メダルを貸してくれ！」

オーズはアンクに言つが

しーんっ

オーズ「しまつた！？」

いまアンクは一人で別行動しているのだった。

そのためオーズはメダルを変えることができないのだった。

その頃、アンクは

虎牢関から少し離れた場所

アンク「まさか直接俺を狙つてくるとはな」

ラグル「勘違いするな！俺はちょっと用があつて来ただけだ。お前に会えたのは偶然だ」

ラグルは逃げた月とガメルを探しに来ただけで本当にアンクと出会えたことは偶然なのだ。

ラグル「まあ」ここで会えたのも何かの縁かもしれん！アンク、貴様のメダルもいただぐぞ！」

スッ！

ラグルが構えると

アンク「上等だ！」お前が持っているメダル全ていただくぜ！」

スッ！

アンクも構える。

アンク「（とはいって、あいつは怪人形態の俺を軽く追い詰める実力者、しかもオーブがいないから少しばかりヤバイかもな）」

いつもは強気なアンクでも今回は勝てないかもしれないと感じていた。

ラグル「冥土の土産に教えてやろう、俺の名はラグルだ！」

アンク「なんの真似だ！」

ラグル「決まっているだろ？。自分を倒したやつの名前くらい覚えておかなければな！」

ビュンッ！

アンク「なめやがつて！」

ビュンツ！

これからではアンクvsラグルの戦いが始まつとしていた。

その頃、虎牢関では

ガキンツ！

オーズ「おわつ！？」

オーズが恋に苦戦していた。

鈴々「あつーーお兄ちゃんが危ないのだ！？助けに行くのだ！」

ザツ！

鈴々が属ヤミーの相手をおいてオーズを助けにいこうとする

愛紗「いくな鈴々！」

鈴々を止める愛紗

鈴々「何故なのだーー愛紗はお兄ちゃんが心配じゃないのかなのだーー！」

鈴々が言つと

愛紗「心配に決まつてーーだが映司殿は言つてこたでは

ないか！呂布は俺に任せてみんなは連合軍を助けてくれと、その約束に答えるのだ！

愛紗だつてオーブを助けにいきたかった。だが助けに向かえば映司との約束を破る形になつてしまつため助けにいかなかつたのだった。

麗羽「この化け物達はなんですか！？みなさんわたくしを守りなさい！」

『肩ヤミー』「ギギーン！」

『肩ヤミー』達は麗羽に襲いかかる。

星「まあ 映司殿をほつておいてあの馬鹿を助けるといつのは気がひけるがな！」

翠「同感だぜ！」

そして他のみんなは

美羽「ひきこつー！何をしこじるのじゃ 孫策！早く妾わらわを助けるのじゃ

！」

雪蓮「はいはい（あとで覚えときなさいよー）！」

美羽を不本意ながら助ける雪蓮

このまま美羽がやられた方がいいと想つたがそれだと助けなかつた雪蓮に罪がかかってしまう。

そのため雪蓮はいやいや美羽を助けるのだった。

美羽「さすがは孫策、主君のために働くとは天晴れ（あつぱれ）な
のじや！」

七乃「さすがは我々の犬ですねお嬢様！」

雪蓮「おほほつ…当然ですよ（お前ら…あとで泣いても勘弁しねえ
からな！）」

表には出でず心の中で怒りまくる雪蓮だった。

霞「おらおら…」いつから先はこの神速の張遼が通さへんで…」

バンッ！

恋と同じくラグルに催眠術をかけられた霞は超人的な力で連合軍を
圧倒していく。

春蘭「さすがは神速の張遼！？ものす」に早さですね華琳様！？」

華琳「ええそうね（だけど張遼の様子が変ね。まるで何かに操られ
ているみたいだわ）」

華琳は何かを感じていたのかもしれない

そしてその頃、

アンク「がはつ！？」

バタッ！

アンクがラグルに苦戦していた。

ラグル「フフフッ！コアメダルの足りないお前がメダルを9枚持つ俺に勝てるわけなかろう！」

たとえメダルがあつたとしてもアンクの持ちメダルは全部で6枚、ラグルにかなうはずがないのだ。

ラグル「さて！」

ぐいっ！

ラグルは倒れたアンクの体を持ち上げると

ラグル「お前のコアメダルを頂くぜ！」

ブンッ！

ラグルはアンクのコアメダルを奪おうと拳を突き出す！

アンク「くわッ！」

アンク自身もうダメだと思つたその時！

？「そこに誰かいるのか？」

誰かの声が聞こえてきた瞬間

ピタッ！

すんでのところでラグルの拳が止まった。

その隙を見逃すアンクではない

アンク「今だ！」

ブンッ！

ジャリンッ！

ラグル「ぐつ！？」

ズボッ！

アンクはラグルの隙をついて手を出し、ラグルからメダルを抜き取つた！

アンク「よしつ！俺のメダルだ！」

アンクは見事自分のコアメダルであるクジャクメダルを奪い取つた。

そしてメダルを奪い取られたラグルはメダルを取り返すのかと思いきや

ラグル「ちつ！」

パツ！ スツ！

アンクを離して立ち去ろうとする。

ラグル「悪いが俺はまだ多くの人に見られるわけにはいかないんで
な、次こそは貴様のメダルを奪い取つてやるから覚悟しておけ！」

スッ！

そしてラグルは立ち去つていった。

アンク「とりあえずは命拾いってところか（しかしあいつの強さは
恐ろしい、おそらく今のオーズでも敵わねえだろうな、もつとメダ
ルを集めないと）」

そしてアンクがよろめきながらも立ち上がると

？「何があつたんだ？」

ザツ！

奇跡的にアンクを助けてくれた声の主がやつて來た。その主とは…

白蓮「お前大丈夫か！？」

バンッ！

何と白蓮だつた！？

アンク「何でお前がここにいるんだよ！」

アンクが聞くと

白蓮「実は恥ずかしい話なんだがちょっと廁かわせ・トイに行つている間に連合軍に置いてきぼりにされたんだ」

自分の兵にすら忘れられるとほたすがは存在感の薄い白蓮である。

白蓮「そして急いで虎牢関に向かおうとしたらいきなり角の生えた黒い体をした奴に撥ね飛ばされて、田たが覚めたらこじで声が聞こえたんで来てみたらお前がいたってわけさ」

アンク「角の生えた黒い体の奴…」

アンクはその人物に覚えがあった。その人物とは

アンク「ガメルか!? 何で生きているかは知らないが好都合、奴のメダルは俺がもらつ!」

スツ!

白蓮「おいつ! ? 待てよ」

そしてアンクと白蓮は虎牢関に向かつていった。

その頃、虎牢関では

恋「…お前、弱すぎる」

オーズ「くつ! ?」

相変わらずオーズが恋に苦戦していた。

オーズ「（やは三三國志最強はだてじやないか！？卑怯なことせ
たくないけど一瞬の隙を作るためだ仕方ない！）」

スツ！

オーズは腰に用意していたあるものを取り出す

恋「…死ねつ！」

シユツ！

そして恋がオーズに止めをさすべく戟を突きだしてきたその時！

オーズ「くらえつ！」

サツ！ カチツ！

オーズは手に持っていたものを起動させる。手に持っていたものは

ピカーン！

鴻上会長から渡されたトランクの中に入っていた新しいカンドロイ
ド・ライオンカンドロイドだった。

ライオンカンドロイドから発せられた光によつて

恋「…うつー？」

恋が一瞬怯んだ！

オーズ「もうつたーつ！」

「ボンツ！」

そして恋が怯んだ隙を狙つてメダジャリバーを振りかざすオーズ
オーズ「（卑怯なまねして）めんなさい！でもこれは董卓さんを助
けるためなんだ！」

そしてメダジャリバーが恋に当たるつとしたその時！

？「やめろーつ！」

連合軍側から突然声が聞こえてきた。

愛紗「今の声は誰だ？」

愛紗達連合軍が声の主を探してみると

「ドドドオーッ！」

ガメル「どけーつ！」

怪人形態になつたガメルが誰かを背負いながら連合軍の後ろから現
れた。

麗羽「なんですかー？あの化けも…」

ガメル「どけーつ！」

ドンッ！　＝

麗羽「きやーつ！？」

猪々子「麗羽様！？」

麗羽はガメルによつて撥ね飛ばされた。

キキィーッ！

そしてガメルはオーズの前で立ち止まると

ガメル「月、着いた」

月「ありがとうございます」

スッ！

そしてガメルは背中に背負つていた人物、月を下ろすと

月「恋さん、もうやめてください！」

恋「…月！？」

月「連合軍の監さんに話したいことがあります。私の名は董卓です！？」

ビシッ！

月は自分が董卓だと叫ぶと

麗羽「なんですって！？おーほつほつほつ…」んなところで洛陽の悪魔に出会えるなんて好都合ですわ！皆さん、早く董卓を殺し…」

月「まずは私の話を聞いてください！洛陽が董卓に支配されたといふのは怪物が私の名を語った大嘘なんです！あの城には詠ちゃんや皇帝様が捕らわれています。皆さんも力を貸してください！」

董卓は力一杯叫ぶが

連合軍『・・・・・』

連合軍は誰一人口を出さなかつた。

月「（やはり私なんかでは…）」

月が諦めかけたその時

オース「俺は信じるよ…」

月「えつ…？」

オースが月に近寄つてきた。

オース「君の目は嘘をついていない！俺がそう感じたんだ！」

そしてオースに続いて

桃香「映司さんが信じるなら私も信じるよ

「

鈴々「鈴々も信じるのだ」

愛紗「無論私もです」

「

桃香達劉備軍

華琳「やつぱりね、おかしいと思つたのよ」

雪蓮「袁術様、こゝは董卓を倒すより皇帝に話を聞いた方がいいんじゃない?このまま董卓を殺してもし本当なら皇帝から自決(自殺)を言い渡されるわよ」

美羽「じ…自決じゃと…?妾は死にたくないのじゃー妾も一応董卓の言つていることを信じるのじゃ!」

華琳に雪蓮、美羽までも信じてくれた。

恋「…月」

霞「月つち」

そして恋と霞は

恋「…恋、詠達を守れなかつた!」

霞「ウチもいつの間にか操られてしまつてすまん!」

ペーパー

月に出会つた」とで催眠術が解けた一人は月に謝つた。

月「いいんですよ。恋さんも霞さんも一生懸命頑張ったんですから

」

ガメル「俺も月を守る！オーズ、目的は同じだし今の間は休戦しよう」

オーズ「ああガメルよろしくな」

ガシツ！

オーズとガメルは握手を交わしあつた。

こうしてほとんどが納得したのだがいまいち納得していない人物がいた。

麗羽「（董卓が言つたことなんて全部嘘に決まつてますわ！いざれ化けの皮を剥がしてやりますから覚悟なさい！）

執念深い麗羽であった。

オーズ「さてとみんなが仲良くなつたとこりで」

ビシツ！

オーズが指差した先には

肩ヤミー「ギギーン！」

洛陽の城への道を防ぐ肩ヤミー達がいた。

オーズ「全員でいいからを倒そう！」

愛紗達『はいっ！』

「うして連合軍は皇帝を救出するため一丸となつて城を守るのだ
つた。

19 「最強武人と卑怯手段と董卓登場」（後書き）

オリジナルカンドロイド

ライオンカンドロイド

スイッチを入れると強烈な光を発する。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6894x/>

仮面ライダーオーズ×真・恋姫†無双 映司とアンクと恋姫達
2011年11月23日18時51分発行